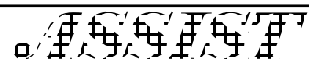


アシストパック Pro BHT-1500
取扱説明書 第2版



2016年 8月 20日
コンピュータ・アシスト株式会社



目次

1 動作環境	1
2 マネージャープログラム	1
2-1 プログラムの起動	1
2-2 メニュー	2
2-3 業務設定	3
2-3-1 新規作成.....	4
2-3-2 開く	5
2-3-3 業務設定受信.....	5
2-3-4 基本設定.....	6
1) オートパワーオフ時間	6
2) バーコード読取条件	6
3) エラーメッセージ表示時間.....	7
4) 確認/警告ブザー設定	7
5) アドイン通信プログラム	8
6) データファイル転送プロトコル.....	8
7) Bluetooth通信設定	9
8) 送信完了後のデータ消去	10
9) サブメニュー表示	10
2-3-5 動作設定.....	11
1) 業務メニューのポップアップメニュー	11
2) グループ項目のポップアップメニュー	15
3) データ項目のポップアップメニュー.....	18

4) 設定データ	22
5) バーコード読取（データ収集モードとバーコード情報表示モード）	31
6) マスター参照（データ収集モードとバーコード情報表示モード）	46
2-3-6 送信データレイアウト表示	49
2-3-7 業務設定送信	49
2-3-8 保存	50
2-3-9 閉じる	51
2-3-10 終了	51
2-4 マスターデータ編集	52
2-4-1 新規作成	53
2-4-2 開く	54
2-4-3 インポート	55
2-4-4 データ編集	56
2-4-5 送信	57
2-4-6 保存	58
2-4-7 閉じる	59
2-4-8 終了	59
2-5 アシストパックプログラム転送	59
2-6 アドインプログラム転送	60
2-7 A I コードテーブル転送	61
2-8 データ受信	62
2-9 データ送信	63
2-10 通信条件設定	64
2-11 問い合わせ	65
2-12 サポートWEBサイト	66
3 ハンディターミナルプログラム	67

3-1 キーの説明.....	67
3-2 通信	68
3-3 アシストパックプログラムのダウンロード手順.....	69
3-4 動作モード.....	72
1) データ収集	72
2) 商品コード+数量収集.....	73
3) 未送信データの全送信.....	74
4) ファイル受信.....	74
5) リモート受信.....	74
6) バーコード情報表示	74
7) バーコード読取テスト.....	75
8) アドインプログラム	75
3-5 電源投入	76
3-6 業務メニュー	79
3-7 データ収集モード	86
3-7-1 データ入力処理	86
3-7-2 データ訂正処理	98
3-7-3 比較日付設定.....	101
3-8 商品コード+数量収集モード	102
3-9 未送信データの全送信モード	103
3-10 ファイル受信モード.....	105
3-11 リモート受信モード.....	106
3-12 バーコード情報表示モード	107
3-13 バーコード読取テストモード.....	108
3-14 サブメニュー	109
3-14-1 システム情報表示	109

3-14-2	日付時刻設定	111
3-14-3	H t N o 設定	111
3-14-4	B l u e t o o t h 設定	112
3-14-5	業務設定受信	113
3-14-6	業務設定送信	115
3-14-7	バーコード読取テスト	117
3-14-8	全データ消去	118
3-14-9	ファイル受信	118
3-14-10	リモート受信	120
3-14-11	ファイル管理	122
3-15	ブザー音量, バイブレーション, 画面の明るさおよび省電力設定	123
3-16	バッテリー	124
3-16-1	バッテリー電圧表示	124
3-16-2	電圧低下した場合	124
3-16-3	電圧低下検出による電源オフの場合	125
3-16-4	充電機カートリッジを外して B H T - 1 5 0 0 を保管する場合	125

1 動作環境

① ネーチャープログラム動作環境

OS: Windows Vista (32bit) / 7 (32bit/64bit) / 8 (32bit/64bit)
/ 8.1 (32bit/64bit) / 10 (32bit/64bit)

② インディターミナル・プログラム動作環境

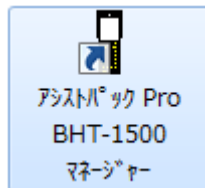
HT: BHT-1500B, BHT-1500BB,

2 マネージャープログラム

2-1 プログラムの起動

デスクトップ上のショートカットをダブルクリックするか、[スタート] ボタンから [スタート] → [すべてのプログラム] → [アシストパック] → [アシストパック Pro BHT-1500 マネージャー] とクリックして起動します。

アイコン:

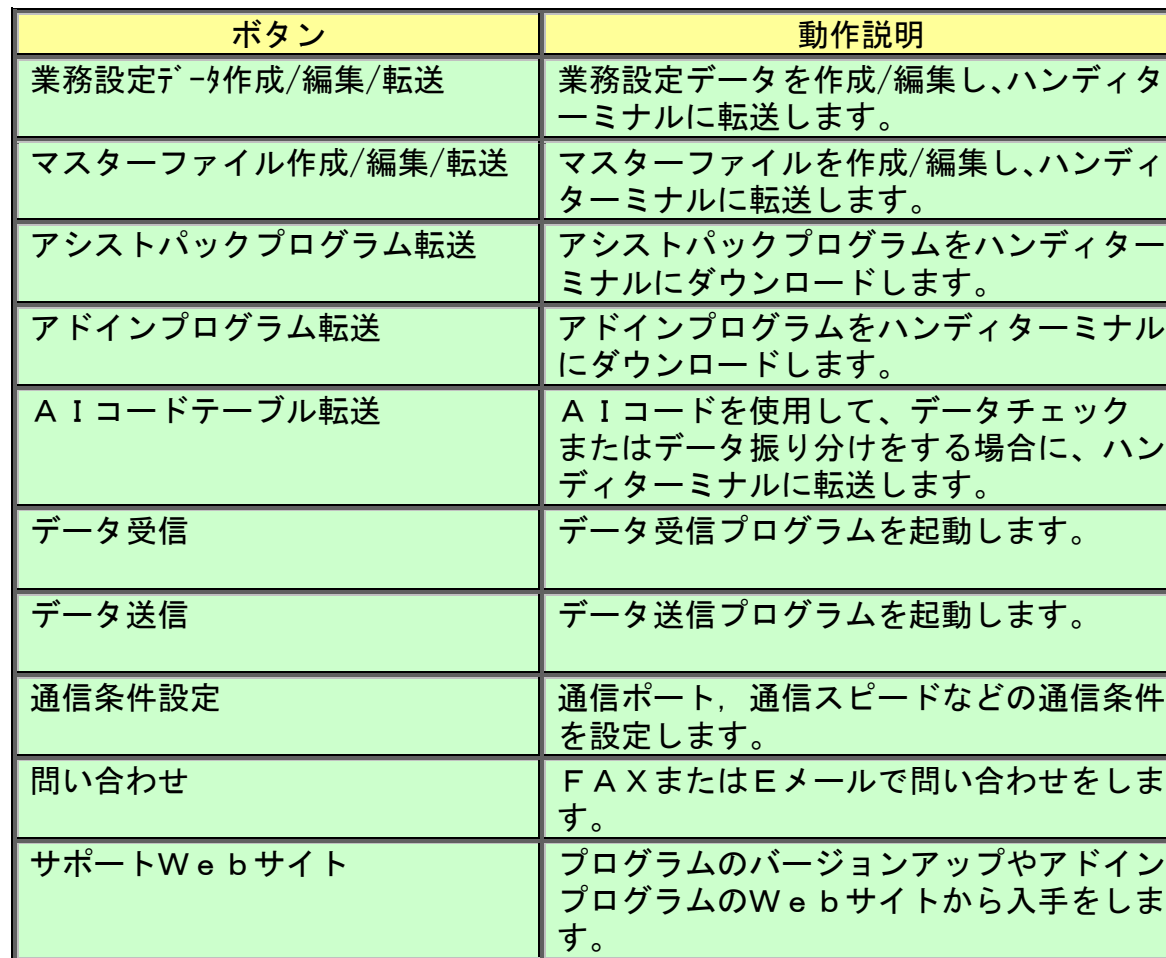


[スタート] ボタンから:

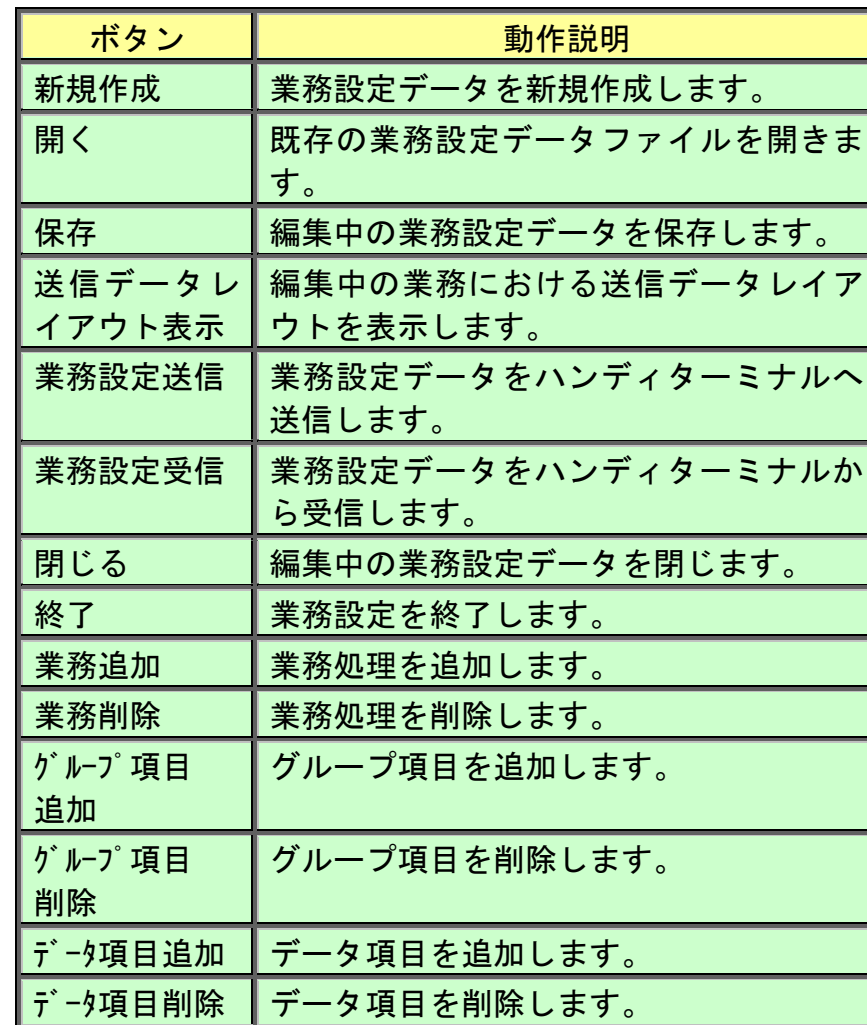


ここをクリック

アシストパック P r o BHT-1500 のマネージャープログラムを起動するとメニュー画面を表示します。



業務設定データの作成/編集/転送/保存を行ないます。アシストパックのハンディターミナルプログラムは、業務設定データがないと動作しません。ここで作成/編集した業務設定データをハンディターミナルに転送することで、プログラムは業務設定データに従って動作します。



2-3-1 新規作成

「新規作成」ボタンをクリックして業務設定データを新規作成します。

新規作成ボタン

設定画面選択

業務設定(新規作成)

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 グループ項目追加 グループ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

オートパワーオフ時間 30 分

エラーメッセージ表示時間 20 1/10秒

バーコード読取条件

2度読み防止時間 30 1/10秒

読取動作 トリガONオートオフ

確認/警告ブザー設定

キー入力確認 周波数 1 Hz 鳴動回数 1 回

キー入力エラー 鳴動時間 1 1/10秒 休止時間 1 1/10秒

バーコード読取OK

バーコード読取NG

通信終了

通信エラー

処理終了

処理エラー

アドイン通信プログラム

使用するアドイン通信プログラムのファイル名を入力してください

データファイル転送プロトコル YModem(CU-USB,460.8kbps)

Bluetooth設定 Bluetooth搭載機種の場合は、左の設定ボタンをクリックして設定してください。

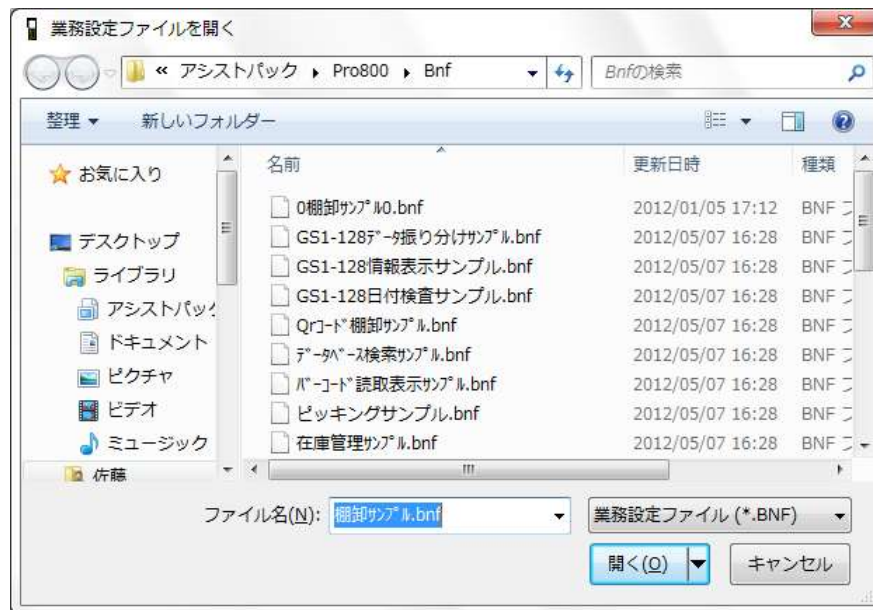
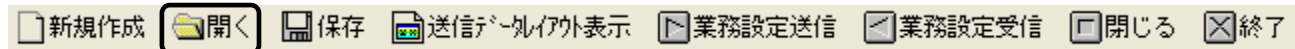
送信完了後のデータ消去 消去しない

☒ サブメニュー表示 ☒ 保存データ修正機能

業務設定には、**基本設定**と**動作設定**があります。設定画面選択の「**基本設定**」，「**動作設定**」からマウスポイントで選択してください。

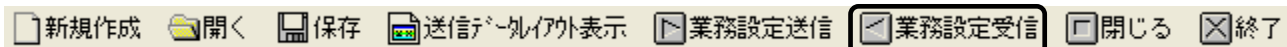
2-3-2 開く

「開く」をクリックして、「業務設定ファイルを開く」の画面で、既存の業務設定ファイルを選択して開きます。



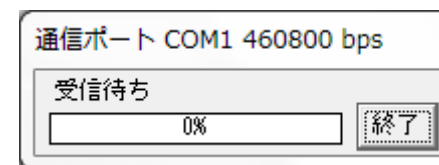
2-3-3 業務設定受信

「業務設定受信」をクリックして、ハンディターミナルの「業務設定データ」を受信し、編集することができます。

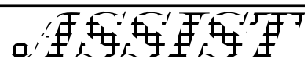


ハンディターミナルの
[サブメニュー] -
[5. 業務送信] を実行し
通信ユニットにセット

ここをクリックする



次に、ハンディターミナルのサブメニューから「5. 業務送信」を実行して業務設定データを送信します。



2-3-4 基本設定

設定画面選択の「基本設定」をマウスポイントで選択してください。

0

基本設定を選択

業務設定(新規作成)

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

業務追加 業務削除 カルド項目追加 カルド項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択
基本設定 動作設定

オートパワーオフ時間 30 分

エラーメッセージ表示時間 20 1/10秒

バーコード読取条件
2度読み防止時間 30 1/10秒
読取動作 トリガONオートオフ

確認/警告ブザー設定

キー入力確認
キー入力エラー
バーコード読取OK
バーコード読取NG
通信終了
通信エラー
処理終了
処理エラー

周波数 1 Hz
鳴動回数 1 回
鳴動時間 1 1/10秒
休止時間 1 1/10秒

アドイン通信プログラム
使用するアドイン通信プログラムの
ファイル名を入力してください

データファイル転送フォーマット YModem(CU-USB, 460.8kbps)

Bluetooth設定 Bluetooth搭載機種の場合は、左の設定ボタン
をクリックして設定してください。

送信完了後のデータ消去 消去しない

☒ サブメニュー表示 ☒ 保存データ修正機能

1) オートパワーオフ時間

キー入力やバーコード入力がない状態における自動電源 OFF の時間（1 ～ 5 4 0）を分単位で設定します。

2) バーコード読取条件

● 2 度読み防止時間

バーコードの 2 度読みを防止する時間（0 ～ 9 9）を 1 / 1 0 秒単位で設定します。0 を設定すると、同じバーコードを続けて読まなくなります。

●読取動作

トリガONオートオフ読取，トリガON同種コード連続読取，トリガフリー連続読取から選択します。

① トリガONオートオフ読取	トリガスイッチONで読取可になり、読取完了跡に自動読取不可になります。
② トリガON同種コード連続読取	トリガスイッチONで同種バーコードの連続読取が可能になります。
③ トリガフリー連続読取	トリガスイッチに関係なく連続読取が可能になります。

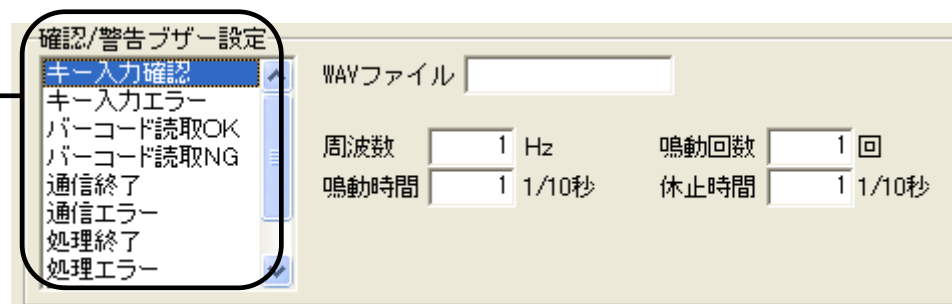
3) エラーメッセージ表示時間

入力エラー，通信エラー，処理エラーのエラー表示を表示している時間（1～99）を1／10秒単位で設定します。

4) 確認/警告ブザー設定

キー入力確認，キー入力エラー，バーコード読取OK，バーコード読取NG，通信終了，通信エラー，処理終了，処理エラーの確認/警告音またはブザー動作を設定します。WAVファイルを設定すると音声を再生します。WAVファイルを設定しないかWAVファイルが存在しない場合は、ブザーを鳴らします。ブザーは、設定した周波数で鳴動時間の間作動し、休止時間の間は止めます。この動作を鳴動回数分繰り返します。

この中から設定動作を選択してブザーの周波数、鳴動回数、鳴動時間、休止時間を設定します。



確認/警告ブザー設定

キー入力確認
キー入力エラー
バーコード読取OK
バーコード読取NG
通信終了
通信エラー
処理終了
処理エラー

WAVファイル

周波数 Hz 鳴動回数 回
鳴動時間 1/10秒 休止時間 1/10秒

①WAV ファイル	下記の形式の音声ファイルを設定します。 i) ファイル形式 W A V i) オーディオ形式 P C M (リニア P C M) ii) サンプル周波数 8 K H z ~ 4 8 K H z iii) サンプルサイズ 8 b i t , 1 6 b i t iv) チャンネル 1 c h (モノラル) , 2 c h (ステレオ) 2 c h の場合、l e f t チャンネルを再生
②周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62~5000Hz 3~61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/パイプレータの調整画面」でブザー音量を変更することができます。 62~5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
③鳴動回数	0~99 0 を設定するとブザーは鳴りません。
④鳴動時間	1~99 1/10 秒単位で設定
⑤休止時間	1~99 1/10 秒単位で設定

5) アドイン通信プログラム

コンピュータ・アシストが提供する「アドイン通信プログラム」のファイル名（拡張子PD4のファイル）を入力します。
アドイン通信プログラムのファイル名が「BHT I R. P D 4」の場合は下図のように入力します。

6) データファイル転送プロトコル

データファイル転送の通信プログラムを、「YModem(CU-USB)」, 「YModem(Bluetooth)」, 「アドイン通信プログラムで設定したファイル名」から選択します。

ファイル転送プロトコル	通信プロトコル	通信スピード	通信ポート/通信ユニット
YModem (CU-USB, 460.8 kbps)	YModem	460.8 kbps	BHT-1500 ⇔ PC の USB 通信ポート CU-AU1-15 を使用します。
YModem (Bluetooth)	YModem	—	BHT-1500 の Bluetooth I/F ⇔ PC の通信ポート
アドイン通信プログラム 1	→	→	使用するアドイン通信プログラムの取扱説明書に従って 設定してください。
アドイン通信プログラム 2	→	→	同上

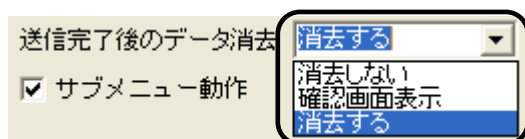
7) Bluetooth 通信設定

Bluetooth 搭載機種を使用する場合、「Bluetooth 設定」ボタンをクリックして設定してください。

設定項目	説明
デバイス名	Bluetooth のデバイス名を半角英数字最大 16 文字で設定してください。
動作モード	マスタ/スレーブを選択します。
データ転送先アドレス	動作モードを「マスタ」に選択した場合、データ転送先の Bluetooth アドレスを設定してください。(半角 12 文字)
接続タイムアウト	接続時のタイムアウト時間を 1 ～ 255 秒に設定してください。
セキュリティ	「なし」, 「サービス」, 「リンク」から選択して、接続相手と同じ設定にしてください。
パスキー	セキュリティに「サービス」または「リンク」を選択した場合、接続相手と同じパスキーを半角英数字 16 文字で設定してください。

8) 送信完了後のデータ消去

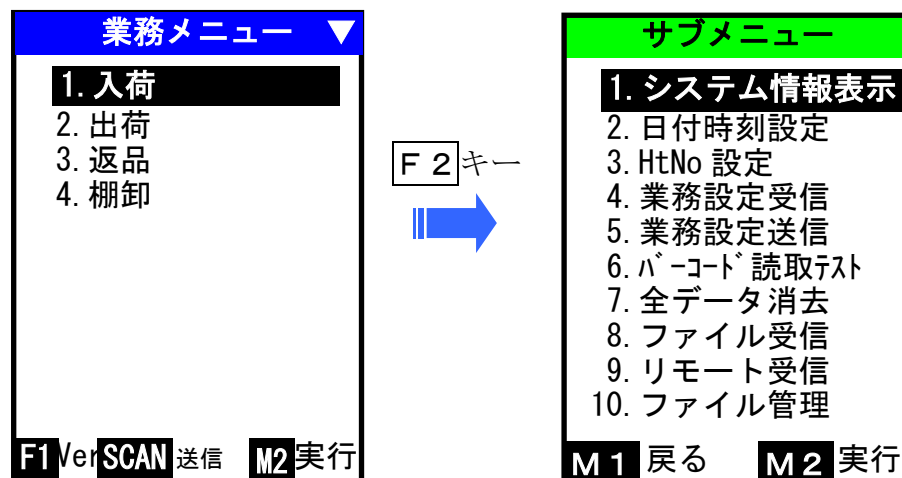
収集したデータを送信した後のデータ処理を、「消去しない」、「確認画面表示」、「消去する」から選択します。



①消去しない	送信完了後、送信済みデータとして管理され、再送信が可能です。
②確認画面表示	送信完了後に、データを消去しますか？という確認画面を表示し、消去するか、消去しないかを選択できます。
③消去する	送信完了後、自動的に消去します。

9) サブメニュー表示

☒ サブメニュー表示 ここをチェックすることにより、HTプログラムの「サブメニュー」が使用可能になります。「サブメニュー」の説明は、HTプログラムのサブメニューの項目を参照してください。



2-3-5 動作設定

設定画面選択の「動作設定」をマウスポイントで選択してください。

動作設定を選択

業務リスト

設定の画面表示

グループ項目リスト

データ項目リスト

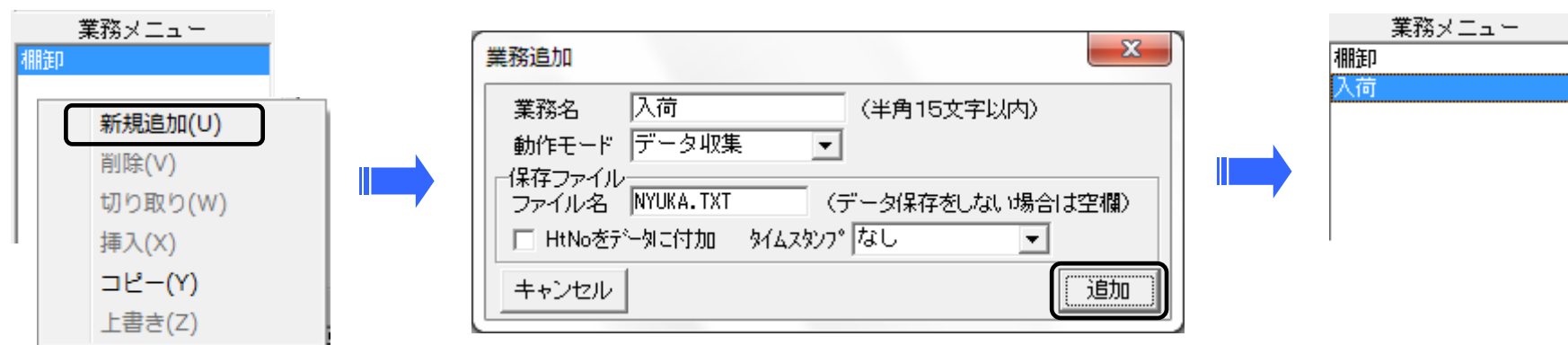
1) 業務メニューのポップアップメニュー

マウスポイントを業務リストに移動して、マウスの右ボタンをクリックすると、下図のポップアップメニューを表示します。
新規追加、削除、切り取り、挿入、コピー、上書き から選択して左ボタンをクリックします。

新規追加(U)
削除(V)
切り取り(W)
挿入(X)
コピー(Y)
上書き(Z)

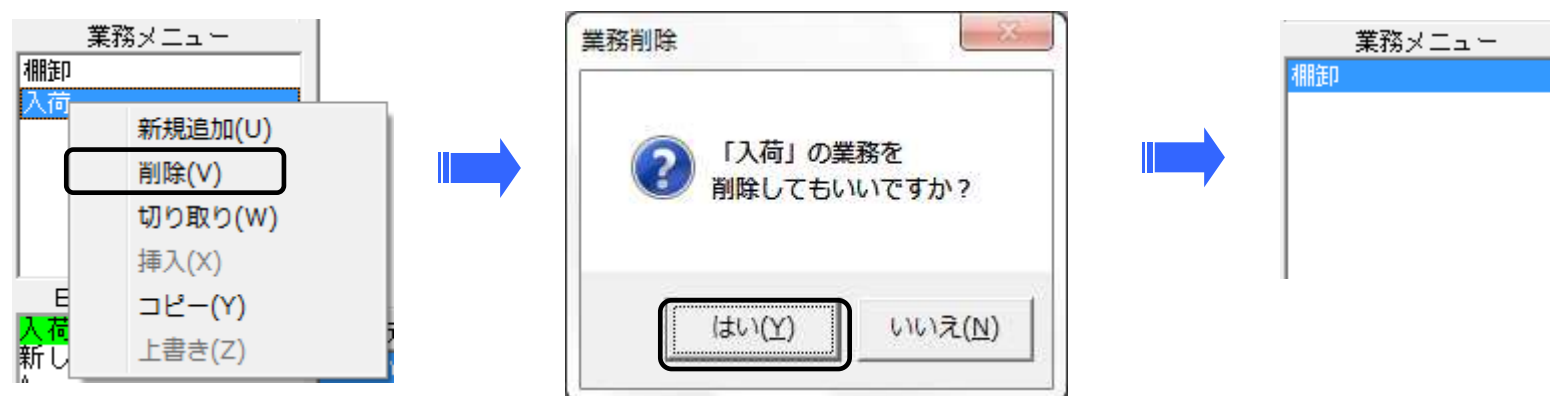
① 業務の新規追加

ポップアップメニューの「**新規追加**」をクリックすると、「業務追加」ダイアログを表示します。必要な項目に入力して「確定」ボタンをクリックすると業務を新規追加します。



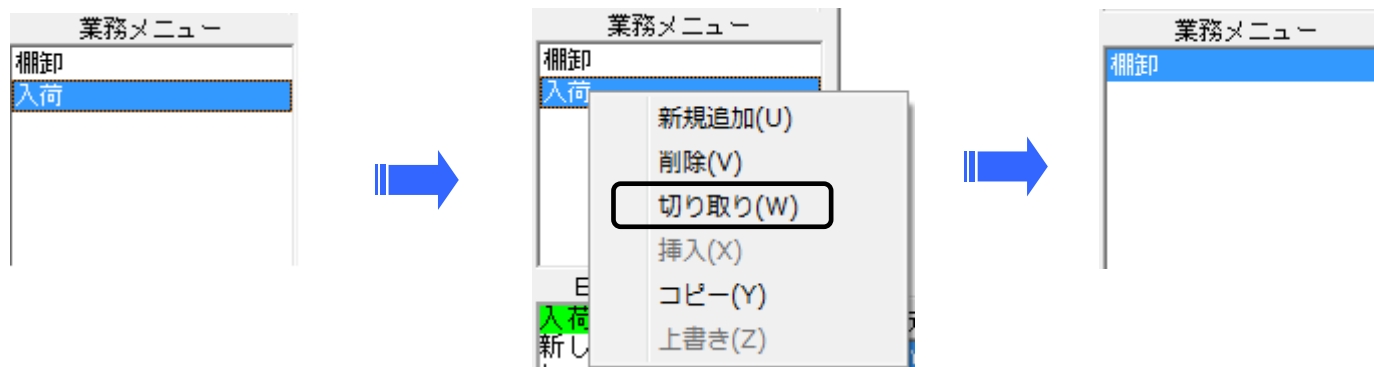
② 業務の削除

削除する業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**削除**」をクリックすると、選択した業務の設定データを削除します。業務設定が1つの場合は削除できません。



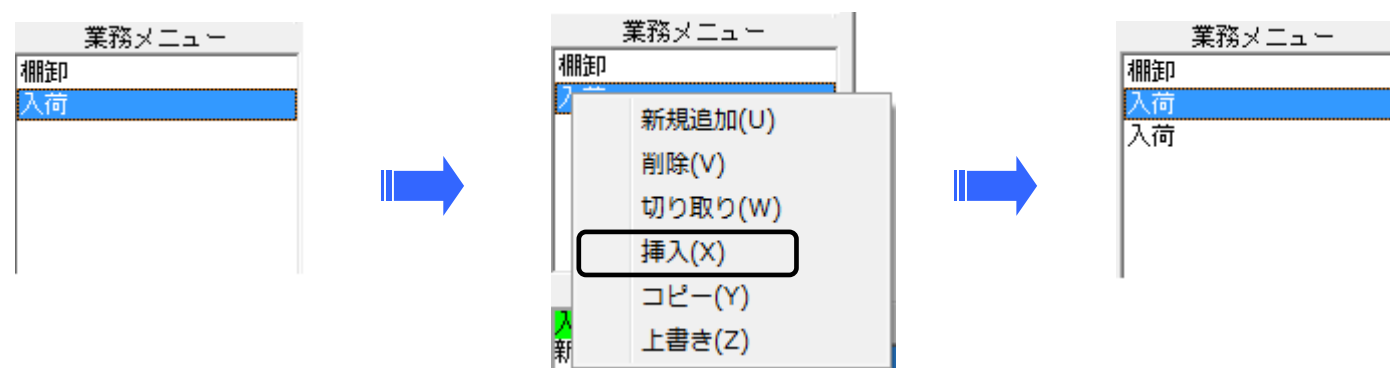
③ 業務の切り取り

切り取る業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**切り取り**」をクリックすると、選択した業務の設定データを切り取り、バッファにコピーします。業務設定が1つの場合は切り取りできません。



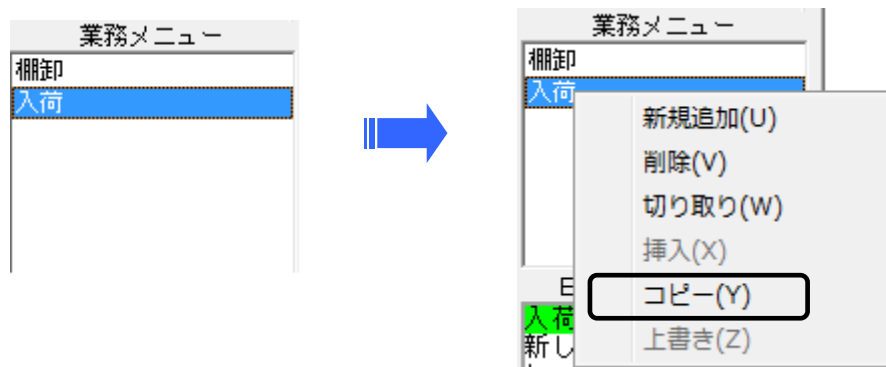
④ 業務の挿入

業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**挿入**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファにコピーされた業務の設定データを、選択した業務の前に挿入します。



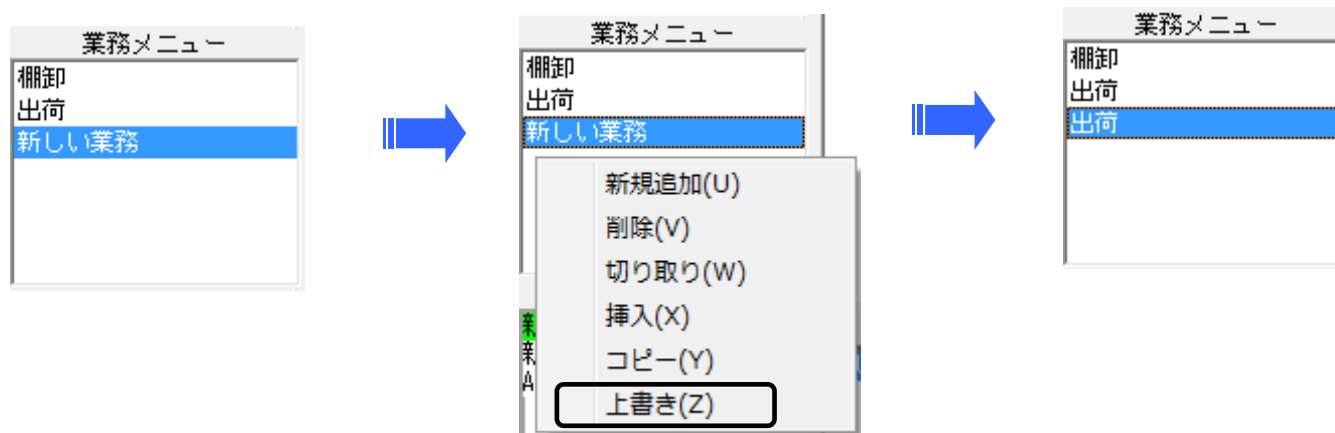
⑤ 業務のコピー

コピーする業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「コピー」をクリックすると、選択した業務の設定データをバッファにコピーします。



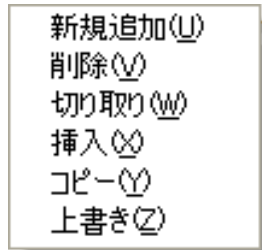
⑥ 業務の上書き

業務を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「上書き」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファにコピーされた業務の設定データを、選択した業務に設定を上書きします。



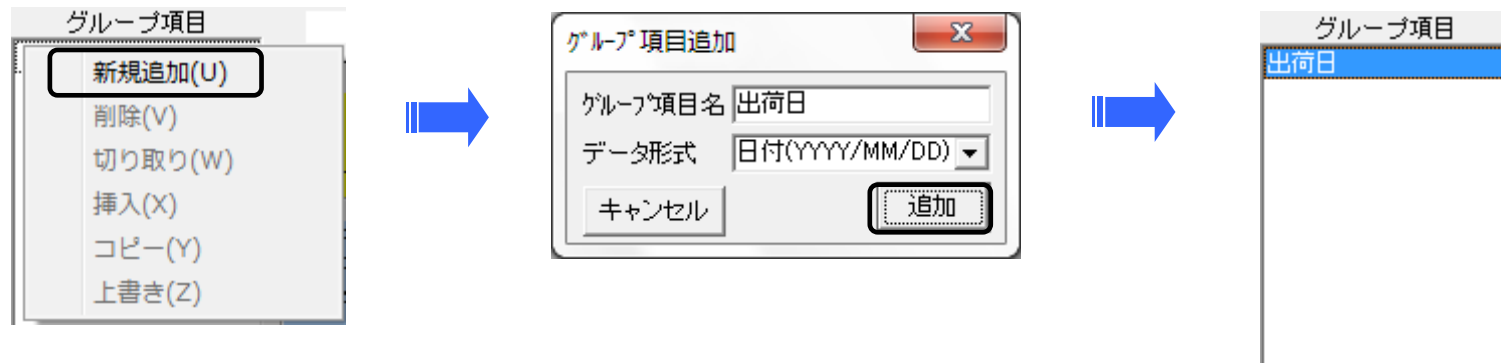
2) グループ項目のポップアップメニュー

マウスポイントをグループ項目リストに移動して、マウスの右ボタンをクリックすると、下図のポップアップメニューを表示します。新規追加、削除、切り取り、挿入、コピー、上書き から選択して左ボタンをクリックします。



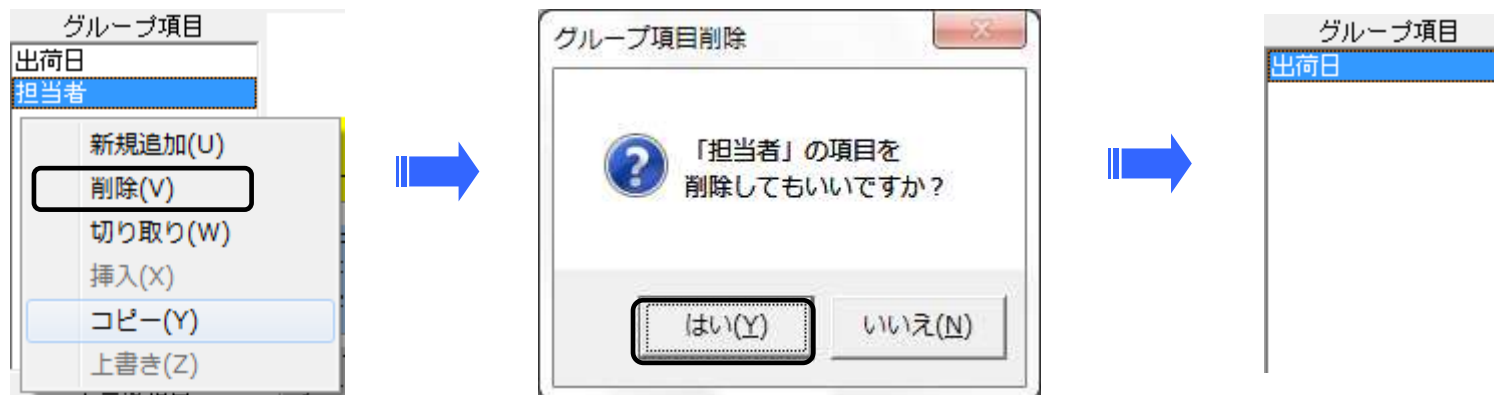
① グループ項目の新規追加

ポップアップメニューの「**新規追加**」をクリックすると、「新しいグループ項目」というグループ項目設定データを追加します。入力した項目名でグループ項目を新規追加します。



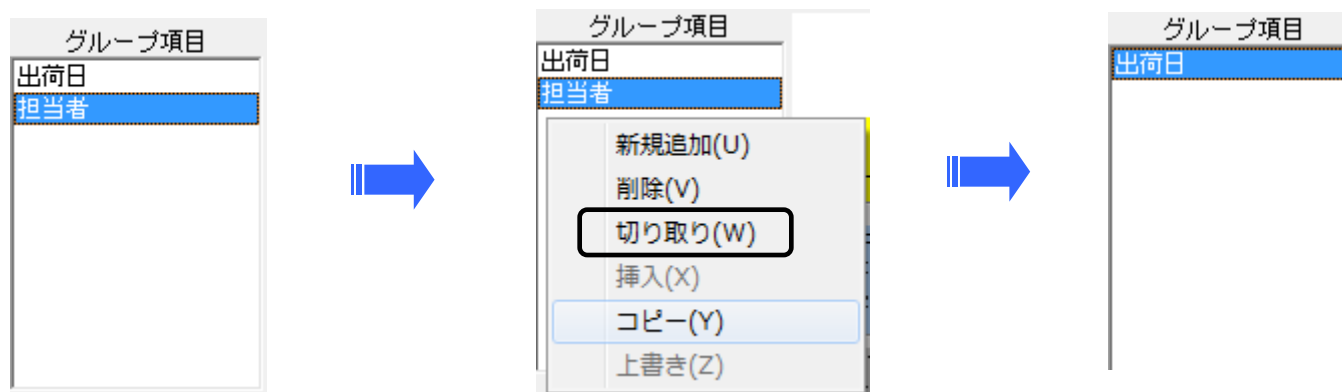
② グループ項目の削除

削除するグループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**削除**」をクリックすると、選択したグループ項目の設定データを削除します。



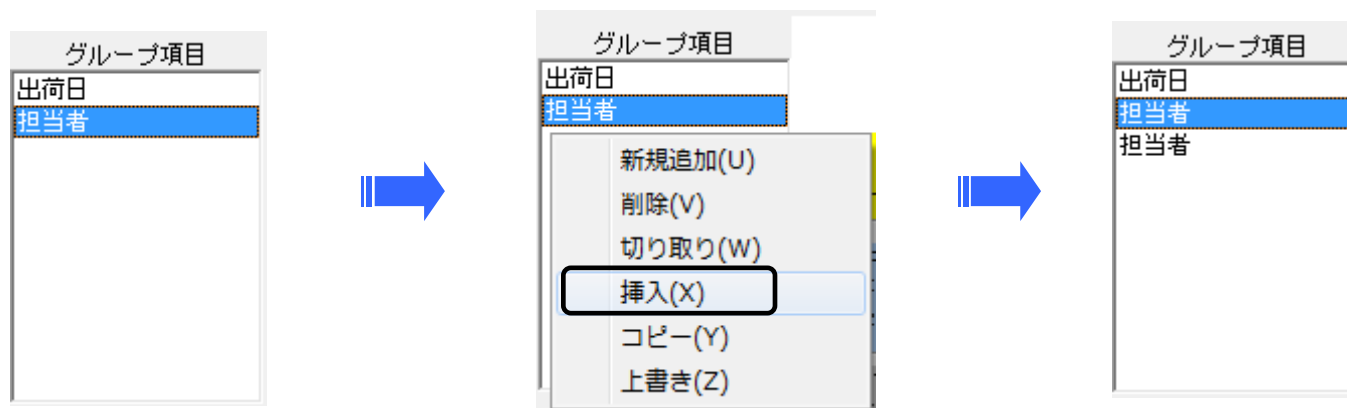
③ グループ項目の切り取り

切り取るグループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**切り取り**」をクリックすると、選択したグループ項目の設定データを切り取り、バッファにコピーします。



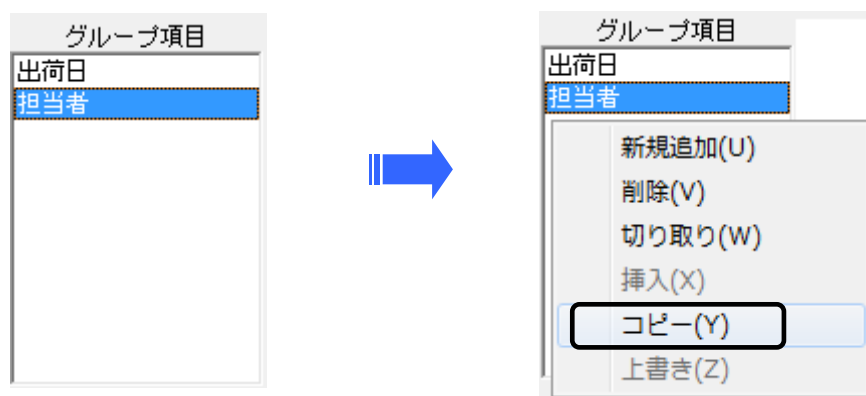
④ グループ項目の挿入

グループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**挿入**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファにコピーされたグループ項目の設定データを、選択したグループ項目の前に挿入します。



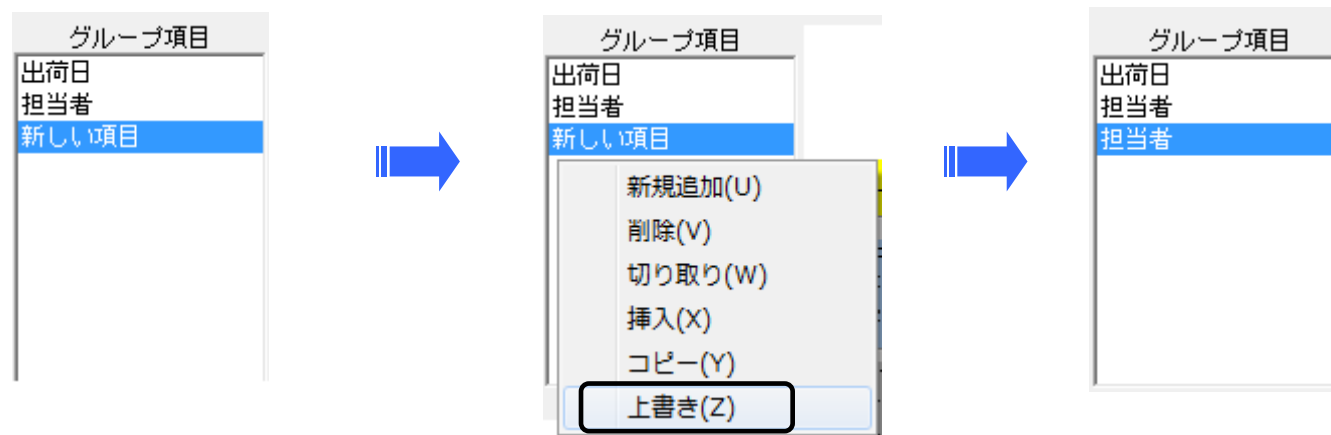
⑤ グループ項目のコピー

コピーするグループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**コピー**」をクリックすると、選択したグループ項目の設定データをバッファにコピーします。



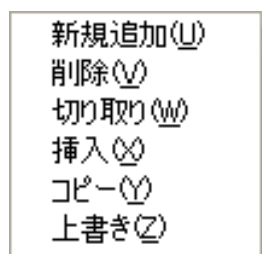
⑥ グループ項目の上書き

グループ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**上書き**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファにコピーされたグループ項目の設定データを、選択したグループ項目に上書きします。



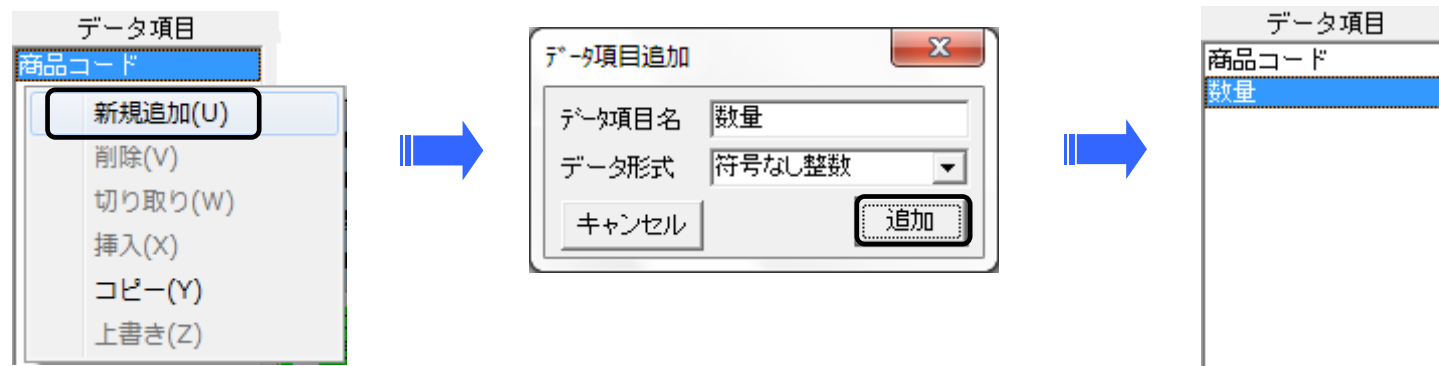
3) データ項目のポップアップメニュー

マウスポイントをデータ項目リストに移動して、マウスの右ボタンをクリックすると、下図のポップアップメニューを表示します。新規追加、削除、切り取り、挿入、コピー、上書き から選択して左ボタンをクリックします。



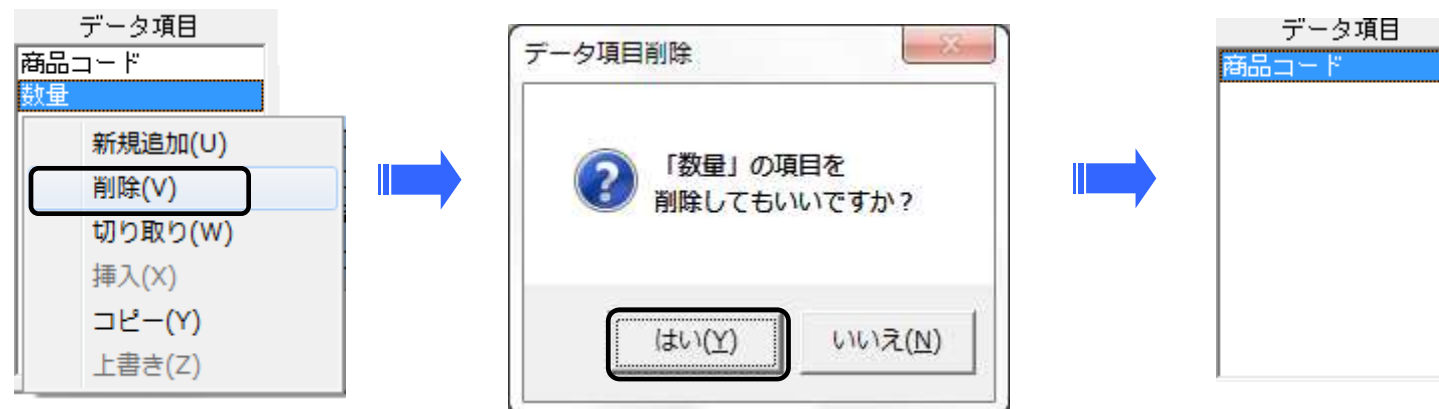
① データ項目の新規追加

ポップアップメニューの「**新規追加**」をクリックすると、「新しいデータ項目」というデータ項目設定データを追加します。入力した項目名でデータ項目を新規追加します。



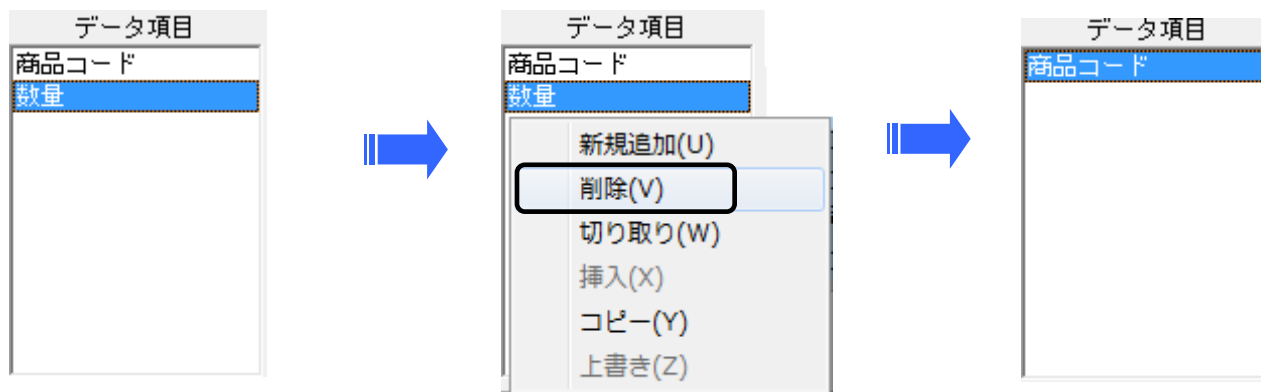
② データ項目の削除

削除するデータ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**削除**」をクリックすると、選択したデータ項目の設定データを削除します。データ項目が1つの場合は削除できません。



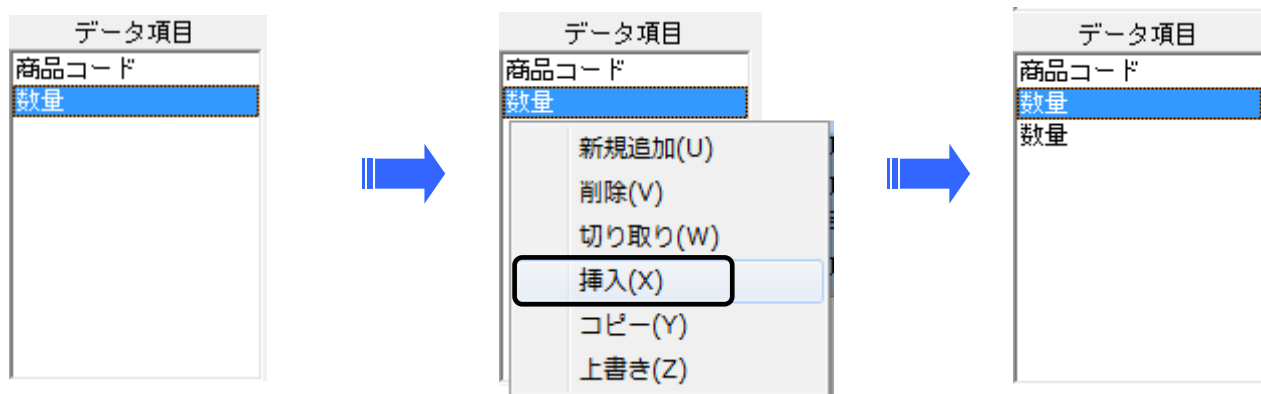
③ データ項目の切り取り

切り取るデータ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**切り取り**」をクリックすると、選択したデータ項目の設定データを切り取り、バッファにコピーします。データ項目が1つの場合は切り取りできません。



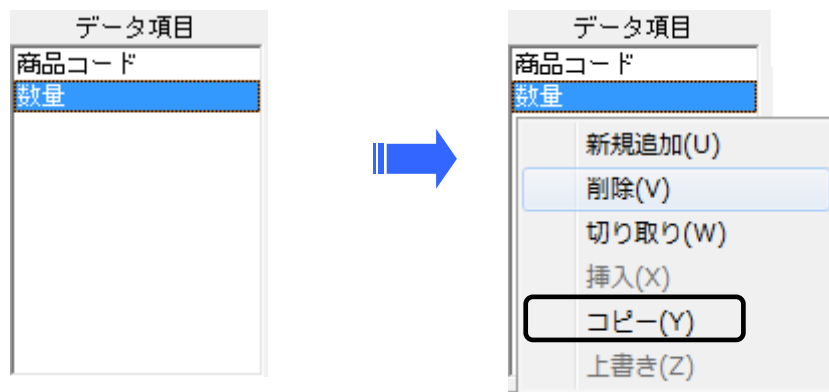
④ データ項目の挿入

データ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「**挿入**」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファにコピーされたデータ項目の設定データを、選択したデータ項目の前に挿入します。



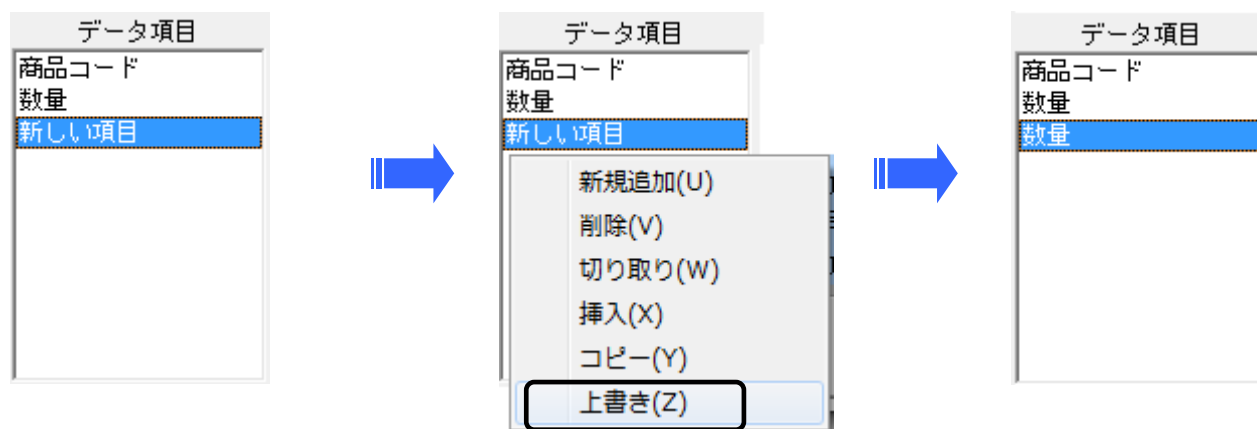
④ データ項目のコピー

コピーするデータ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「コピー」をクリックすると、選択したデータ項目の設定データをバッファにコピーします。



⑤ データ項目の上書き

データ項目を選択し、マウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューの「上書き」をクリックすると、切り取りまたはコピーでバッファにコピーされたデータ項目の設定データを、選択したデータ項目に上書きします。



4) 設定データ

A) 業務名

業務メニューに表示する文字列を、全角の場合 7 文字以内、半角の場合 15 文字以内で入力します。

業務名 (半角15文字以内)

B) 動作モード

動作モードにより設定データ項目が異なります。

動作モード

- データ収集
- 商品コード+数量収集
- 未送信データの全送信
- ファイル受信
- リモート受信
- バーコード情報表示
- バーコード読取テスト
- アドインプログラム

動作モード	説明
データ収集	キー入力、バーコード入力のデータを収集します。
商品コード+数量収集	商品コードと数量に限定したデータを収集します。
未送信データの全送信	未送信の業務データをすべて送信します。
ファイル受信	データファイル、プログラムファイルを受信します。
リモート受信	BhtYmCom.exe 通信プログラムでファイルをリモート受信できます。
バーコード情報表示	バーコードのデータとマスター検索による参照データを表示します。
バーコード読取テスト	バーコードを読み取り、バーコードの種類、桁数、データを表示します。
アドインプログラム	アドインプログラムを実行します。

i) データ収集モード、商品コード+数量収集モードとバーコード情報表示モードの設定

① 合計数量表示 (商品コード+数量収集モードのみ)

グループ内の合計数量を下から 3 行目に符号付き 10 桁で表示します。

② ファイル名 (データ収集モードと商品コード+数量収集モード)

収集したデータを保存するファイル名を入力します。業務ごとに重複しないように、下記の書式で入力してください。

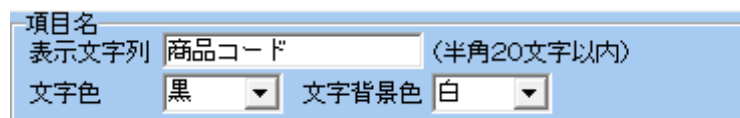
＜大文字半角英数字 1～8 文字＞、＜拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)＞

拡張子は省略してもかまいませんが、省略する場合は「ピリオド」をつけないでください。次に示す拡張子は使用しないでください。

(PD@, PD@, EX@, FN@, BM@, JP@, FLD, EXE, BAT, DLL, TMP @は 0～9 の数字 1 文字)

保存ファイル
ファイル名 (データ保存をしない場合は空欄)

④ 項目名



a) 表示文字列

入力項目名としてHTに表示される文字列を、全角の場合10文字以内、半角の場合20文字以内で入力します。

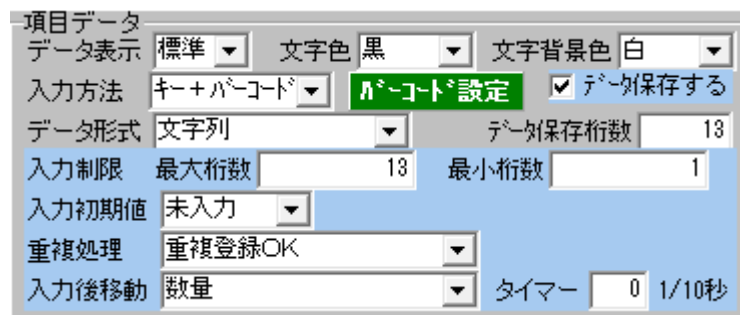
b) 文字色

表示する文字色を、黒、白、赤、緑、青、シアン、マゼンダ、黄 から選択します。

c) 文字背景色

表示する文字背景色を、黒、白、赤、緑、青、シアン、マゼンダ、黄 から選択します。

⑤ 項目データ



a) データ表示

表示文字を**標準**、**横倍** から選択します。

符号なし整数9桁以上、符号付き実数9桁以上（符号を含む）、金額8桁以上の場合、**横倍**を設定できません。

b) 文字色

表示する文字色を、黒、白、赤、緑、青、シアン、マゼンダ、黄 から選択します。

c) 文字背景色

表示する文字背景色を、黒、白、赤、緑、青、シアン、マゼンダ、黄 から選択します。

d) 入力方法

項目データのキー入力、バーコード読取を選択します。バーコードまたはキー+バーコードを選択すると、右にバーコード読取ボタンを表示します。

入力方法 **バーコード**

入力方法	説明
入力しない	データを入力しない
キー	データをキー入力します。
バーコード	データをバーコード読取します。
キー+バーコード	データをキーとバーコード読取で入力します。

e) データの保存

「データ保存」をチェックした項目のみデータを保存します。チェックしない項目は、入力データの表示または検査データの入力項目として動作します。

f) データ形式

データ形式	キー入力桁数	バーコード入力桁数	表示	保存データ
文字列	1 ～ 7 2	1 ～ 3 5 0 0	左詰め表示	英数字
数字 (0 詰め表示)	1 ～ 7 2	1 ～ 7 2 英字はエラー	先頭 0 詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
数字 (0 サプレス表示)	1 ～ 7 2	1 ～ 7 2 英字はエラー	右詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
符号なし整数	1 ～ 1 0	不可	右詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
符号付き実数	1 ～ 1 2	不可	右詰め表示	符号の次に 0 詰めして桁合わせする
金額	1 ～ 1 0	不可	右詰め表示	先頭に 0 詰めして桁合わせする
日付 (YYYY/MM/DD)	1 0	不可	YYYY/MM/DD 右詰め表示	YYYY/MM/DD
日付 (YY/MM/DD)	8	不可	YY/MM/DD 右詰め表示	YY/MM/DD
日付 (MM/DD)	5	不可	MM/DD 右詰め表示	MM/DD
時刻 (HH;MM)	5	不可	HH;MM 右詰め表示	HH;MM

データを保存する桁数を設定します。

h) 入力制限（データ収集モードのみ）

入力桁数の制限外の入力の場合、「入力文字数エラー」を表示、入力値の制限外の入力の場合、「最大入力値オーバー」、「最小入力値エラー」を表示します。

8/16/96 9/6/96 9/13/96 9/20/96 9/27/96

i) 入力初期値（データ収集モードと商品コード+数量収集モード）

グループ項目データ：処理メニューからグループ項目入力画面を表示するとき初期化します。

データ項目データ： 処理メニューまたはグループ項目からデータ項目入力画面を表示するときと、次のデータ入力の際に初期化します。

入力初期値	説明
未入力	初期値が未入力になります。
設定値	これを選択して初期値にする設定値を右表にしたがって入力します。
前回の入力	前回の入力値を
システム日付	データ形式が日付の場合システム日付を初期値にします。
システム時刻	データ形式が時刻の場合システム時刻を初期値にします。

データ形式	設定値
文字列	最大入力桁数以下で64桁以下の英数字
数字（0 詰め表示）	最大入力桁数以下で64桁以下の数字
数字（0 サプレス表示）	最大入力桁数以下で64桁以下の数字
符号なし整数	入力制限範囲内の値
符号付き実数	入力制限範囲内の値
金額	入力制限範囲内の値
日付（YYYY/MM/DD）	YYYY/MM/DDの形式で入力
日付（YY/MM/DD）	YY/MM/DDの形式で入力
日付（MM/DD）	MM/DDの形式で入力
時刻（HH:MM）	HH:MMの形式で入力

j) 同一データの場合に数値を加算（データ収集モードと商品コード+数量収集モードのデータ項目のみ）

データ項目の最後の項目のデータ形式に、「符号なし整数」または「符号付き実数」を設定した場合に、設定可能になります。「同一データの場合に数値を加算」を設定すると、グループ項目と最後の項目を除くデータ項目のデータと同じデータが既に保存されている場合、「符号なし整数」または「符号付き実数」の数値を保存された数値に加算します。

入力初期値 設定値 1

☒ 同一データの場合に数値を加算 ———— これをチェック

入力後移動 次のデータ入力処理

k) 重複処理（データ収集モードと商品コード+数量収集モードのデータ項目のみ）

データ項目の最初の項目データの重複処理を設定します。

重複処理 重複登録OK

重複登録OK

同一グループ内重複登録NG

ファイル内重複登録NG

重複登録OK	重複登録できます。
同一グループ内重複登録NG	同じグループにおける重複登録はエラーになります。
ファイル内重複登録NG	同じ業務における重複登録はエラーになります。

1) 入力後移動

入力後の次の入力項目を選択します。選択できる項目は、現在の項目以降の項目になります。前には戻れません。最後の項目の場合は、次のデータ入力処理になります。

入力後移動 **数量**

数量
次のデータ入力処理

「設定した項目名」と「次のデータ入力処理」から選択します

m) タイマー

次の入力項目へ移動するときの遅延タイマーです。入力後次の画面を表示するために、入力したデータやマスター参照により表示した文字列を確認できない場合に設定してください。**1／10秒単位**で設定します。

ii) ファイル受信モードの設定

受信ファイル名で設定したファイルを指定のファイル転送プロトコルで受信します。

受信ファイル名

ファイル転送プロトコル **YModem(CU-USB,460.8kbps)**

- YModem(CU-RS232,115.2kbps)
- YModem(CU-USB,460.8kbps)
- YModem(Bluetooth)

① 受信ファイル名

受信するファイル名を入力します。設定ファイル以外の受信はエラーになります。未入力の場合は送られてきたファイルを受信できます。下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字 1 ～ 8 文字＞. ＜拡張子（大文字半角英数字 1 ～ 3 文字）＞

拡張子は省略してもかまいませんが、省略する場合は「ピリオド」をつけないでください。次に示す拡張子は使用しないでください。(FLD, EXE, BAT, DLL, TMP)

「ASTPK150_PD4」は受信できませんので入力しないでください。

②ファイル転送プロトコル

ファイル転送プロトコル	通信プロトコル	通信スピード	通信ポート/通信ユニット
YModem(CU-USB, 460.8kbps)	YModem	460.8kbps	BHT-1500 ⇄ PC のUSB通信ポート CU-AU1-15を使用します。
YModem(Bluetooth)	YModem	—	BHT-1500 のBluetoothI/F ⇄ PC の通信ポート
アドイン通信プログラム1	→	→	使用するアドイン通信プログラムの取扱説明書に従って設定してください。
アドイン通信プログラム2	→	→	同上

iii) リモート受信モードの設定

受信ファイル名で設定したファイルを指定のファイル転送プロトコルで BhtYmCom.exe 通信プログラムからリモート受信します。

① 受信ファイル名

受信するファイル名を入力します。設定ファイル以外の受信はエラーになります。未入力の場合は、業務設定送信時にエラーになります。下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字1～8文字＞. ＜拡張子（大文字半角英数字1～3文字）＞

拡張子は省略してもかまいませんが、省略する場合は「ピリオド」をつけないでください。次に示す拡張子は使用しないでください。（FLD, EXE, BAT, DLL, TMP）

「ASTPK150.PD4」は受信できませんので入力しないでください。

② ファイル転送プロトコル

ファイル転送プロトコル	通信プロトコル	通信スピード	通信ポート/通信ユニット
YModem (CU-USB, 460.8kbps)	YModem	460.8kbps	BHT-1500 ⇔ PC の USB 通信ポート CU-AU1-15 を使用します。
YModem (Bluetooth, 115.2kbps)	YModem	—	BHT-1500 の Bluetooth I/F ⇔ PC の通信ポート
アドイン通信プログラム 1	→	→	使用するアドイン通信プログラムの取扱説明書に従って設定してください。
アドイン通信プログラム 2	→	→	同上

iv) アドイン業務プログラムモードの設定

設定したアドインプログラムを業務メニューから実行できるように設定します。

アドインプログラム設定

・アドインプログラムに設定プログラムがある場合はここをクリックしてください

① プログラム名

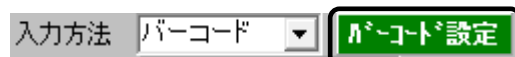
アドインプログラム（拡張子、PD4）のファイル名を入力します。

② アドインプログラム設定ボタン

プログラム名を設定してから [アドインプログラム設定] ボタンをクリックすると、アドインプログラムの設定プログラムが起動しますので、アドインプログラムの取扱説明書にしたがって設定してください。

5) バーコード読取 (データ収集モードとバーコード情報表示モード)

データ形式が「文字列」，「数字(0 詰め表示)」，
「数字(0 7桁表示)」で、入力方法が「バーコード」または
「キー+バーコード」の場合にバーコード読取を設定できます。
バーコード読取を設定する場合は、バーコード読取のボタンを
クリックしてください。



右の画面を表示しますので、「読取バーコード」，
「データ検査」，「データ振り分け」を設定します。

バーコード読取設定

読取バーコード

- ☒ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード
- ☐ ITF ☐ なし ☐ あり ☐ STF ☐ なし ☐ あり
- ☐ NW7 ☐ なし ☐ あり ☐ Code39 ☐ なし ☐ あり
- ☐ Code93 ☐ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar
- ☐ ユーザー定義

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換
☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータ列に含めない

データフォーマット **固定長**

データ検査 ☒ 使用する

検査データ位置 桁目から 桁

比較データ **指定文字列**

読取NG条件 **<> 比較データ**

データ選択

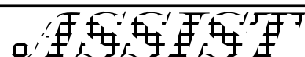
振り分け項目数

バーコードデータ 桁目から 桁 → 振り分け先項目 **商品コード**

キャンセル 確定

① 読取バーコード（データ収集モードとバーコード情報表示モード）

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ 注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。
ITF (インターリーブド 2of5)	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
STF (スタンダード 2of5)	チェックデジット (モジュラス10) の設定可能
NW7	チェックデジット (モジュラス16) の設定可能
Code 39	チェックデジット (モジュラス43) の設定可能 数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
Code 93	数字 (0~9), 英字 (A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字 (0~9), 英字 (A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
ユーザー定義	ユーザー独自に読取設定をする場合に使用します。 ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>,, <第20読み取りコード> 不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。



BHT-BASICプログラミングマニュアル (BHT-1500シリーズ用) より

■ 読み取りコード

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルにSを指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 (I T F)

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 \leq 最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Codabar (NW7)

書式: N [: [最小桁数 [-最大桁数]] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, C または D を指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 39

書式: M [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD]

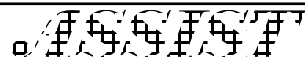
最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CD に C を指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

□ Code 93

書式: L [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



□ GS1-128, EAN-128, Code 128

書式： K [: [最小桁数 [-最大桁数]]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

□ スタンダード2 of 5 (STF)

書式： H [: [最小桁数 [-最大桁数]] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数 ≤ 最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

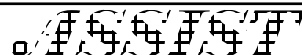
□ GS1 DataBar (RSS)

書式： R [コード: [最小桁数 [-最大桁数]] [Stacked]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	GS1 DataBar コードタイプ
S	GS1 DataBar Omnidirectional, GS1 DataBar Truncated, Stacked, GS1 DataBar Stacked Omnidirectional)
L	GS1 DataBar Limited
E	GS1 DataBar Expanded

コードを省略すると、上のGS1 DataBar コードののどれでも読むことができます。



最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。1～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**は、コード指定がEの場合に有効です。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、1桁からバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

Stackedは、**Stacked**タイプの読み取り指定です。**S**を指定すると、**Stacked**タイプの読み取りも可能とまります。**Stacked**は、コードしていがEとSの場合に有効です。

GS1 DataBar ExpandedとGS1 DataBar Expanded Stackedについて、FNC1 キャラクタは、GS キャラクタ（1Dh）に変換しバーコードバッファに転送されます。



② JAN/EAN/UPCをGTINコードに変換

「JAN/EAN/UPCをGTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPCのバーコードを読み取り、13桁以下の場合、GTINコードに変換します。

③ ITF/STF/NW7/Code39のチェックデジットをデータに含めない

「ITF/STF/NW7/Code39のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39のバーコードデータの最後の1文字を削除します。チェックデジット「あり」に設定した場合のみ有効です。ユーザー定義の場合は無効です。

④ データフォーマット

バーコードのデータフォーマットを「固定長」，「カンマ区切り」，「スペース区切り」，「タブ記号区切り」，「CR記号区切り」，「AIコード」から選択します。データ検査，データ振り分けの処理で使用します。

⑤ データ検査

「使用する」をチェックすると、設定項目を表示します。



・データフォーマットが「固定長」の場合

データ検査	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
検査データ位置	<input type="text" value="1"/> 桁目から <input type="text" value="2"/> 桁
比較データ	指定文字列 <input type="text" value="49"/>
読取NG条件	<> 比較データ

・データフォーマットが「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」の場合

データ検査	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
データNo	<input type="text" value="1"/> 検査データ位置 <input type="text" value="1"/> 桁目から <input type="text" value="2"/> 桁
比較データ	指定文字列 <input type="text" value="49"/>
読取NG条件	<> 比較データ

・データフォーマットが「A Iコード」の場合

データ検査	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
A Iコード	<input type="text" value="17"/> 検査データ位置 <input type="text" value="1"/> 桁目から <input type="text" value="6"/> 桁
比較データ	比較日付設定
読取NG条件	<> 比較データ

i) データNo

「カンマ」、「スペース」、「タブ記号」、「CR記号」で区切られたデータの何番目のデータをチェックするか指定します。指定範囲は、1～99 です。

例) 1 1 1 1, 2 2 2 2, 3 3 3 3, 4 4 4 4,

データ No1 データ No2 データ No3 データ No4

ii) A Iコード

検査するデータのA IコードをA Iコード表から指定します。

iii) 検査データ位置, 桁数

検査するデータの先頭の位置（1～3500）と桁数（1～60）を指定します。

iv) 比較データ

バーコードデータ検査に使用する比較データを設定します。

比較データ	
指定文字列	
指定数値	
比較日付設定	
システム日付	
担当者	
棚卸日	
棚番	

「指定文字列」と「指定数値」を選択した場合に表示します。

比較データ	説明
指定文字列	比較データとして半角 6 0 桁以下の文字列を指定します。
指定数値	比較データとして半角 1 0 桁以下の数値を指定します。
比較日付設定	比較する日付はハンディターミナルの「比較日付設定」画面において設定します。
システム日付	比較する日付はシステム日付になります。
入力項目	設定した項目のデータと比較します。選択項目に設定した項目名を表示しますので比較データしたい項目名を選択してください。

v) 読取NG条件

「<> 比較データ」, 「= 比較データ」, 「< 比較データ」, 「<= 比較データ」, 「>= 比較データ」, 「> 比較データ」の設定条件を満足した場合、警告メッセージを表示し、再入力待ちになります。

文字列データの場合は、文字コードの値で比較します。

読取NG条件

<> 比較データ
= 比較データ
< 比較データ
<= 比較データ
>= 比較データ
> 比較データ

⑥ データ振り分け

振り分け先の項目設定をしてからデータ振り分け設定をしてください。データ振り分け設定後に項目順番を変更すると、不具合が発生しますので注意してください。

・データフォーマットが「固定長」の場合

データ振り分け ☒ 使用する

振り分け項目数 4

バーコードデータ		振り分け先項目
1 桁目から	14 桁	商品コード
15 桁目から	8 桁	ロットNo
23 桁目から	6 桁	有効期限
29 桁目から	6 桁	数量

振り分け項目数を設定します。
バーコード読取項目から最後の項目までの項目数です。

バーコードを読取る項目とそれ以降の項目を、
振り分け先項目として設定します。

バーコードデータの何桁目から何桁のデータを、どの「振り分け先項目」へ保存するか設定します。
「振り分け先項目」の入力制限範囲外の場合は、「データ振り分けエラー」になります。

・データフォーマットが「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」の場合

データ振り分け ☒ 使用する

振り分け項目数 4

バーコードデータ		振り分け先項目
データNo 1	→	商品コード
データNo 2	→	ロットNo
データNo 3	→	有効期限
データNo 4	→	数量

振り分け項目数を設定します。
バーコード読取項目から最後の項目までの項目数です。

データフォーマットがカンマ区切りの場合の
バーコードデータとデータNoの関係
1 1 1 1, 2 2 2 2, 3 3 3 3, 4 4 4 4,
データNo1 データNo2 データNo3 データNo4

データNoが示すデータを、どの「振り分け先項目」へ保存か設定します。
「振り分け先項目」の入力制限範囲外の場合は、「データ振り分けエラー」になります。

・データフォーマットが「A Iコード」の場合

「AICODE. TBL」ファイルが必要です。このファイルがないと、データ振り分け処理時に「AICODE. TBL がない」というエラーメッセージを表示します。

データ振り分け ☒ 使用する

振り分け項目数 4

バーコードデータ

Aコード	01	→	商品コード
Aコード	10	→	ロットNo
Aコード	17	→	有効期限
Aコード	30	→	数量

振り分け先項目

振り分け項目数を設定します。
バーコード読取項目から最後の項目までの項目数です。

バーコードを読取する項目とそれ以降の項目を、
振り分け先項目として設定します。

A Iコードが示すデータを、どの「振り分け先項目」へ保存か設定します。
「振り分け先項目」の入力制限範囲外の場合は、「データ振り分けエラー」になります。

設定するA Iコードは、A Iコード表から設定してください。振り分け先項目のデータ形式と最大入力桁数は、A Iコード表に示す値を設定してください。

●A Iコード表

分類		A Iコード	振り分けデータ	振り分け先	
				データ形式	最大桁数
シリアル・ショッピング・コンテナ・コード (SSCC)		0 0	数字固定長 18 桁データ	文字列	1 8
グローバル・トレード・アイテム・ナンバー (GTIN)		0 1	数字固定長 14 桁の GTIN 商品コード	文字列	1 4
		0 2	数字固定長 14 桁の GTIN 商品コード	文字列	1 4
バッチ・ロット番号		1 0	英数字可変長最大 20 桁のデータ	文字列	2 0
年月日	製造年月日	1 1	データ形式により異なります。	文字列	6
	支払期限日	1 2	文字列 : YYMMDD	日付 (YYYY/MM/DD)	1 0
	包装年月日	1 3	日付 (YYYY/MM/DD) : YYYY/MM/DD	日付 (YY/MM/DD)	8
	販売期限日	1 5	日付 (YY/MM/DD) : YY/MM/DD	日付 (MM/DD)	5
	保証期限日	1 7	日付 (MM/DD) : MM/DD		
リニューアル商品		2 0	数字固定長 2 桁データ	文字列	2
連続番号		2 1	英数字可変長最大 20 桁のデータ	文字列	2 0
		2 2	英数字可変長最大 29 桁のデータ	文字列	2 9
		2 3	英数字可変長最大 19 桁のデータ	文字列	1 9
		2 4 0	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	3 0
		2 4 1			
		2 5 0			
原材料参照番号		2 5 1	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	3 0
数量		3 0	数字可変長最大 8 桁のデータ	符号なし整数	8
計量単位	正味重量 (kg)	3 1 0	数字固定長 7 桁データ (小数点を含む) 小数点がない場合は先頭に 0 を追加する。	符号付き実数 (小数点がない場合は符号なし整数も可能)	7
	長さ (m)	3 1 1			
	幅 (m)	3 1 2			
	高さ (m)	3 1 3			
	面積 (m2)	3 1 4			
	容量 (l)	3 1 5			

分類		A Iコード	振り分けデータ	振り分け先	
				データ形式	最大桁数
計量単位	幅(ヤード 換算)	3 4 6	数字固定長 7 桁データ(小数点を含む) 小数点がない場合は先頭に 0 を追加する。	符号付き実数 (小数点がない 場合は符号なし 整数も可能)	7
	高さ(インチ換算)	3 4 7			
	高さ(フィート換算)	3 4 8			
	高さ(ヤード 換算)	3 4 9			
	面積(平方インチ)	3 5 0			
	面積(平方フィート)	3 5 1			
	面積(平方ヤード)	3 5 2			
	面積(平方インチ換算)	3 5 3			
	面積(平方フィート換算)	3 5 4			
	面積(平方ヤード 換算)	3 5 5			
	正味重量(トロイオンス)	3 5 6			
	容量(クォート)	3 6 0			
	容量(ガロン)	3 6 1			
	全体の容量(クォート)	3 6 2			
	全体の容量(ガロン)	3 6 3			
	体積(立方インチ)	3 6 4			
	体積(立方フィート)	3 6 5			
	体積(立方ヤード)	3 6 6			
	全体の体積(立方インチ)	3 6 7			
	全体の体積(立方フィート)	3 6 8			
全体の体積(立方ヤード)	3 6 9				
数量		3 7	数字可変長最大 8 桁のデータ	符号なし整数	8
金額(各国通貨)		3 9 0	数字可変長最大 16 桁のデータ	符号付き実数	1 6
金額(ISO 通貨コード)		3 9 1	通貨コード 3 桁数字+数字可変長最大 19 桁のデータ	符号付き実数	2 2
計量商品金額(各国通貨)		3 9 2	数字可変長最大 16 桁のデータ	符号付き実数	1 6

分類	A Iコード	振り分けデータ	振り分け先	
			データ形式	最大桁数
計量商品金額 (ISO 通貨コード)	3 9 3	通貨コード 3 桁数字+数字可変長最大 19 桁のデータ	符号付き実数	2 2
顧客発注番号	4 0 0	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	3 0
商品託送番号	4 0 1	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	3 0
出荷 I D 番号	4 0 2	数字固定長最大 18 桁のデータ	文字列	1 8
追跡コード	4 0 3	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	3 0
グローバル・ロケーション・ナンバー (企業, 事業所, 特定場所の表示)	4 1 0	数字固定長 13 桁のデータ	文字列	1 3
	4 1 1			
	4 1 2			
	4 1 3			
グローバル・ロケーション・ナンバー (企業, 事業所, 特定場所の表示)	4 1 4	数字固定長 13 桁のデータ	文字列	1 3
	4 1 5			
国内の送り先所在地コード	4 2 0	英数字可変長最大 9 桁のデータ	文字列	9
国外の送り先所在地コード	4 2 1	国別コード 3 桁+英数字可変長最大 9 桁のデータ	文字列	1 2
I S O 原産国コード	4 2 2	数字固定長 3 桁のデータ	文字列	3
商品加工国コード (複数)	4 2 3	数字可変長最大 15 桁のデータ	文字列	1 5
商品加工国コード (単独)	4 2 4	数字固定長 3 桁のデータ	文字列	3
商品消費国コード	4 2 5	数字固定長 3 桁のデータ	文字列	3
商品全体処理国コード	4 2 6	数字固定長 3 桁のデータ	文字列	3
N A T O ストックナンバー	7 0 0 1	分類コード 数字 4 桁+承認国番号数字 2 桁+連続番号数字 7 桁	文字列	1 3
枝肉番号・カット規格番号	7 0 0 2	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	3 0
屠蓄施設・加工施設承認番号	7 0 3	施設承認番号 1 桁+国別コード 3 桁+英数字可変長最大 27 桁のデータ	文字列	3 1
計量単位	8 0 0 1	数字固定長 14 桁のデータ	文字列	1 4

分類	A Iコード	振り分けデータ	振り分け先	
			データ形式	最大桁数
携帯電話シリアル番号	8002	英数字可変長最大 20 桁のデータ	文字列	20
返品管理番号	8003	出荷コンテナコード 数字 14 桁+梱包番号 英数字か偏重最大 16 桁	文字列	30
シリアル番号	8004	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	30
単価表示	8005	数字固定長 6 桁のデータ	文字列 符号なし整数 金額	6
4 構成部品の管理番号	8006	数字固定長 18 桁のデータ	文字列	18
国際銀行アカウント番号	8007	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	30
製造日・製造時刻	8008	数字 8 桁+数字可変長最大 4 桁のデータ	文字列	12
サービス関連番号	8018	数字固定長 18 桁のデータ	文字列	18
支払参照番号	8020	英数字可変長最大 25 桁のデータ	文字列	25
クーポン拡張コード	8100	UPC ナンバーシステムキャラクタ数字 1 桁+申込番号数字 5 桁	文字列	6
	8101	UPC ナンバーシステムキャラクタ数字 1 桁+申込番号数字 5 桁+有効年月数字 4 桁 (YYMM)	文字列	6
	8102	“0” +UPC ナンバーシステムキャラクタ数字 1 桁	文字列	2
F A C T データ識別子	90	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	30
内部使用	91~99	英数字可変長最大 30 桁のデータ	文字列	30

6) マスター参照 (データ収集モードとバーコード情報表示モード)

マスター参照をする場合は、マスター参照の「使用する」をチェックしてください。



設定ボタンが使用可能になりますのでクリックしてください。下の画面を表示しますので、「部分検索キー設定」, 「マスターファイル」, 「マスターチェック」, 「表示文字列参照」, 「データ参照」を設定します。

The screenshot shows the 'マスター参照設定' dialog box. It contains several sections: '部分検索キー設定' (Partial Search Key Setting) with a checkbox and input fields; 'マスターファイル' (Master File) with a dropdown menu and a 'マスター追加/変更' (Master Add/Change) button; 'マスターデータがない場合エラー' (Error when master data is not present) with a checkbox; '表示文字列参照' (Display String Reference) with a checkbox and input field; and 'データ参照' (Data Reference) with a dropdown menu and a 'データ参照項目数' (Data Reference Item Count) field. The '設定' (Settings) button is at the bottom right.

このボタンをクリックしてマスターファイルの設定を追加、設定の変更を行ないます。
最大20までマスターファイルを設定できます。

i) マスター追加/変更

「マスター追加/変更」ボタンをクリックして、「マスターファイル追加/変更」の画面を表示し、マスターファイルのフィールド定義と変更を行ないます。ここで設定したマスターを使用してマスター参照をします。**最大20ファイル**までマスターファイルを設定できます。

・マスターファイルリスト

設定したマスターファイルを表示します。マウスポイントで選択すると、選択したマスターファイルの設定内容を右に表示します。

マスターファイル名： <大文字半角英数字 1～8 文字>. <拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)>を設定
先頭文字はA～Zを使用してください。

参照データ数： 参照するデータ項目数 1～5 を選択

・マスターファイル削除

マスターファイルリストから削除するマスターファイルを選択し
「削除」ボタンをクリックします。

・マスターファイル追加（最大20ファイルまで追加できます）

マスターファイル名、検索キー桁数、参照データ項目数、参照データ 1～5 桁数 を設定して、「追加/変更」ボタンをクリックします。

・マスターファイル変更

マスターファイルリストから変更するマスターファイルを選択し、マスターファイル名、検索キー桁数、参照データ項目数、参照データ 1～5 桁数 を変更して「追加/変更」ボタンをクリックします。

・マスターファイルフォーマット（参照データ数5の場合）

検索キー	参照データ 1	参照データ 2	参照データ 3	参照データ 4	参照データ 5
------	---------	---------	---------	---------	---------

ii) マスター参照設定

マスターを選択して、参照動作を設定します。

・マスターファイル

使用マスターファイルを選択します。

・表示文字列参照

「使用する」をチェックして参照データを選択すると、選択した参照データを、マスター参照を設定した項目の画面に表示します。

設定したデータを取り消して終了します。

マスター参照設定

☒ 部分検索キー設定
入力データ 2 桁目から 13 桁

マスターファイル MASTER.DAT マスター追加/変更

☒ マスターデータがない場合エラー

表示文字列参照 ☐ 使用する
参照データ 参照データ1

データ参照
データ参照項目数 3

参照データ	保存項目
参照データ1	商品名
参照データ2	ロットNo
参照データ3	有効期限

キャンセル 確定

・部分検索キー設定

入力データの1部分を検索キーに設定してマスター参照します。

・マスターデータがない場合エラー

マスターファイルの検索キーに検索データがない場合、エラー表示して再入力待ちになります。

設定したデータを確定して終了します。

・データ参照項目数

データ参照する項目数を選択します。マスターファイル設定の参照データ数まで選択できます。この設定数により、設定に必要な参照データ項目と保存項目を表示します。

・参照データ

マスターファイルを検索して参照するデータを選択します。

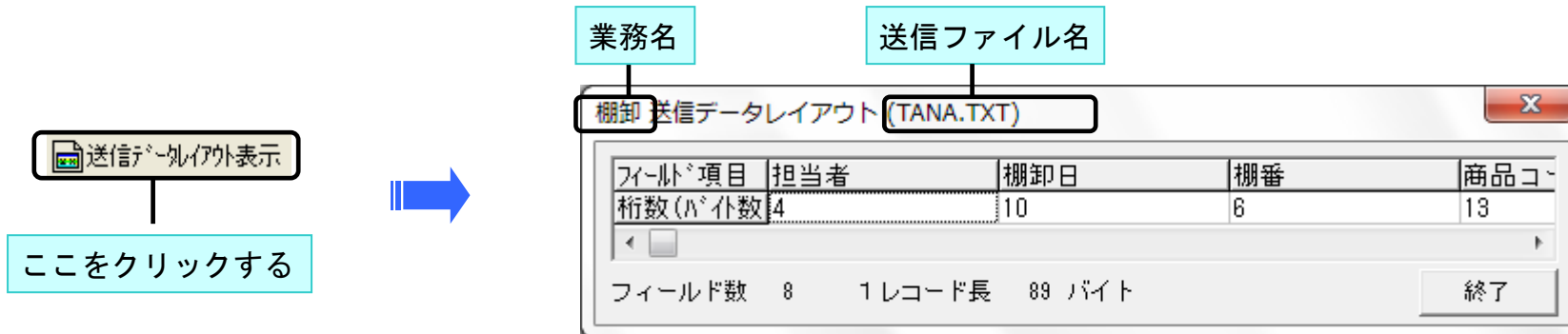
・保存項目

マスター参照を設定した項目の次の項目から最後の項目までの中から、参照データを保存する項目を選択します。

2-3-6 送信データレイアウト表示

「業務設定データ」をハンディターミナルに送信する前に、送信データレイアウトを表示して確認してください。
送信データレイアウトを表示したい業務を選択して、**「送信データレイアウト表示」**をクリックしてください。

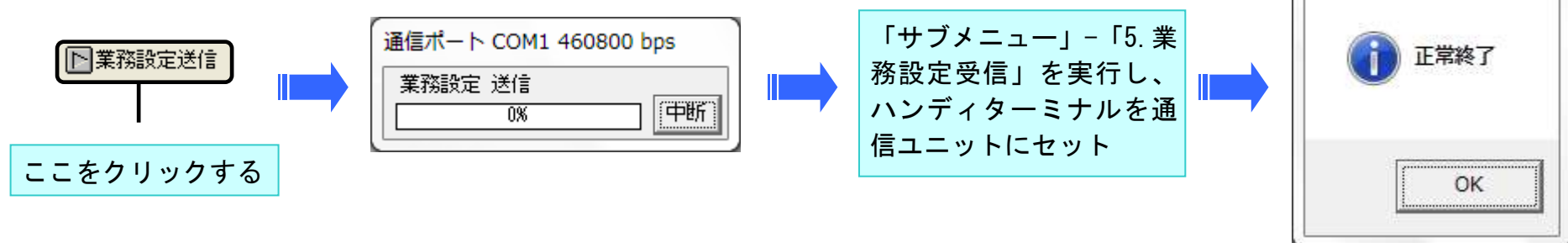
新規作成 開く 保存 送信データレイアウト表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了



2-3-7 業務設定送信

ハンディターミナルの「サブメニュー」-「5. 業務設定受信」を実行し、通信ポートを選択して通信ユニットにセット、**「業務設定送信」**をクリックすると、現在編集中の「業務設定データ」をハンディターミナルに送信します。

新規作成 開く 保存 送信データレイアウト表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了



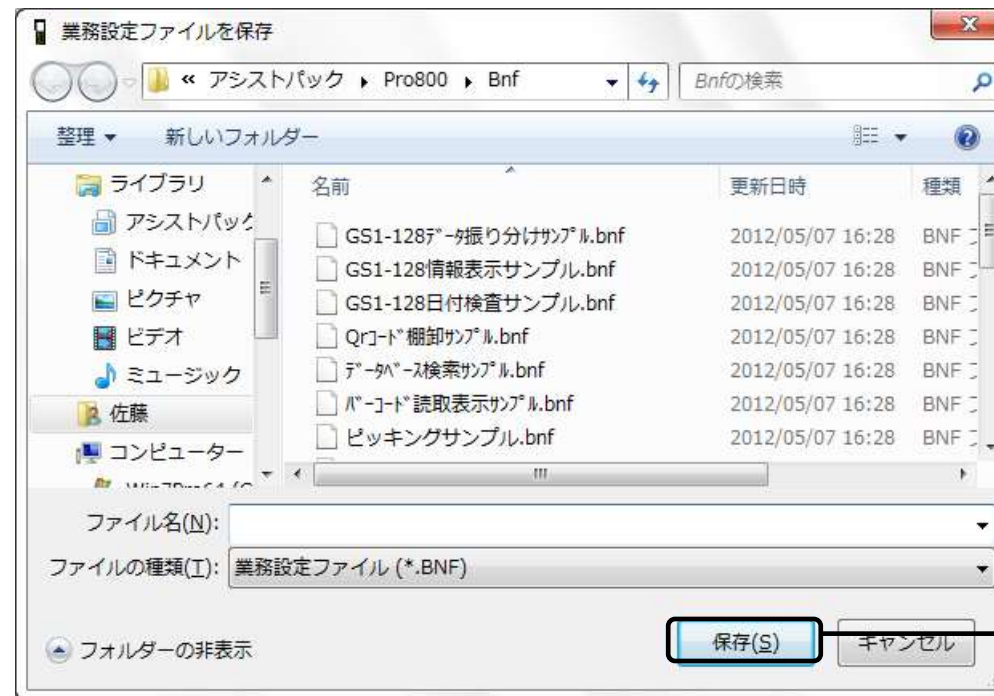
2-3-8 保存

編集した「業務設定データ」を拡張子「**bnf**」の管理しやすいファイル名にして保存してください。
[保存] をクリックすると、「業務設定ファイルを保存」の画面を表示します。

新規作成 開く **保存** 送信データ外表示 業務設定送信 業務設定受信 閉じる 終了

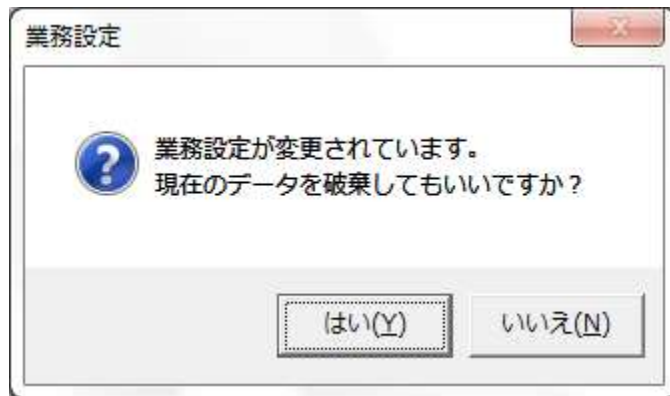


ここをクリックする



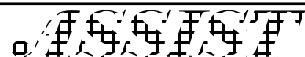
保存するファイル名を入力して [保存] ボタンをクリックしてください

【閉じる】 をクリックすると、編集中の画面を閉じます。データが変更されていると「業務設定が変更されています。
 現在のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。[はい] ボタンをクリックすると編集画面を閉じます。[いいえ] ボタン
 をクリックすると編集状態に戻ります。業務設定を保存してから **【閉じる】** をクリックしてください。



〔終了〕 をクリックすると、アシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。データが変更されていると「業務設定が変更されています。現在のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。

〔はい〕 ボタンをクリックするとアシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。**〔いいえ〕** ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。業務設定を保存してから**〔終了〕** をクリックしてください。



2-4 マスターデータ編集

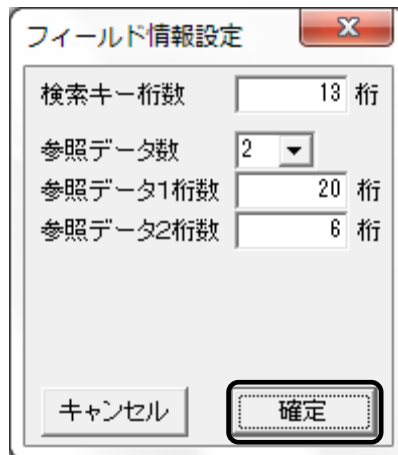
「マスターファイル作成/編集/転送」ボタンをクリックして、マスターデータの作成/編集/転送/保存を行ないます。



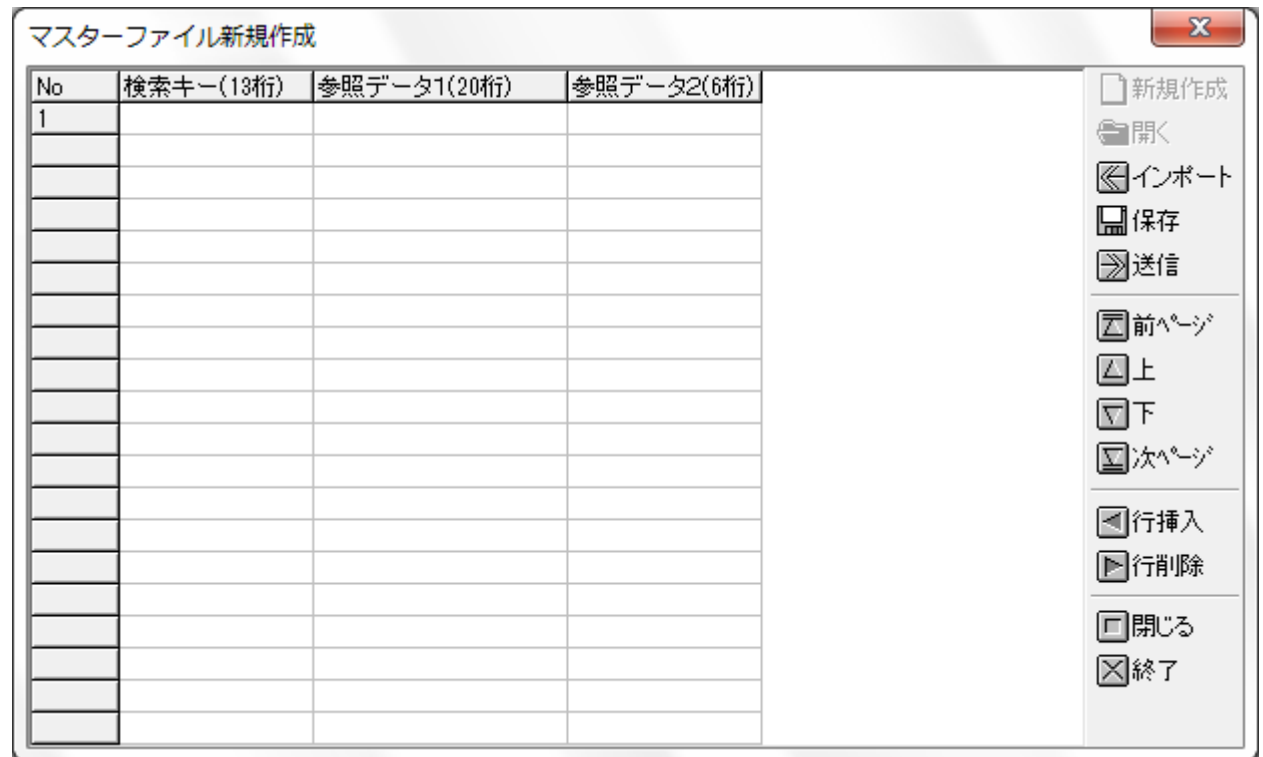
ボタン	動作説明
新規作成	マスターファイルを新規作成します。
開く	既存のマスターファイルを開きます。
インポート	Excelシート、Accessテーブルからデータをインポートします。
保存	編集中のマスターファイルを保存します。
送信	マスターファイルをハンディターミナルへ送信します。
閉じる	編集中の画面を閉じます。
終了	マスターファイル編集を終了します。

2-4-1 新規作成

「新規作成」をクリックして、「フィールド情報設定」画面において検索キーと参照データの桁数を設定してから、マスターデータを入力します。



確定



検索キー桁数

検索に使用するキーの桁数を設定します。（設定範囲 1～99）

参照データ数

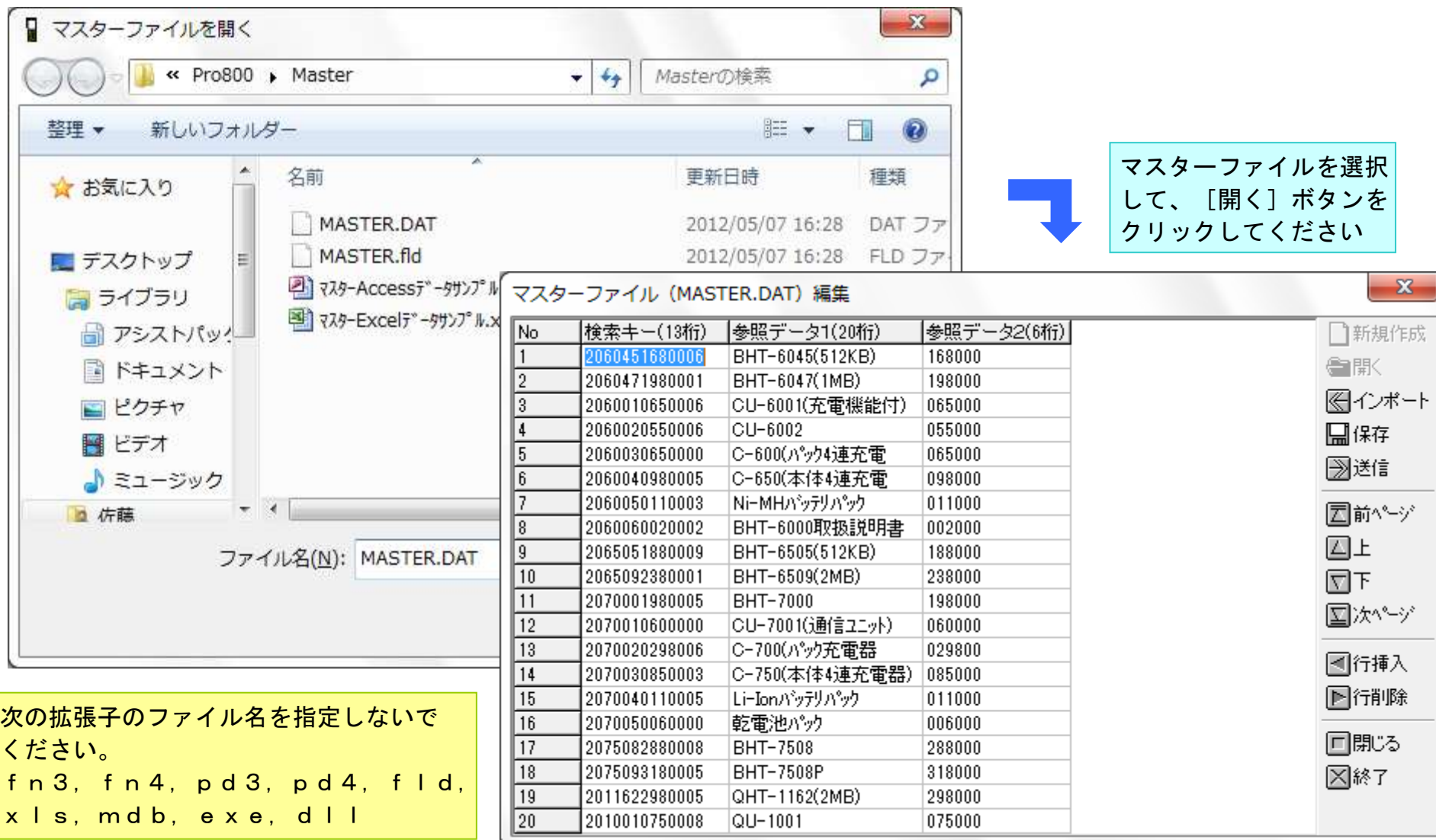
参照するデータ数を設定します。（設定範囲 1～5）

参照データ桁数

参照データの桁数を設定します。（設定範囲 1～100）

2-4-2 開く

「開く」をクリックして、「マスターファイルを開く」画面においてマスターファイルを選択すると、「マスターファイル編集」画面にマスターデータを表示します。



マスターファイルを開く

整理 ▾ 新しいフォルダー

お気に入り

デスクトップ

ライブラリ

アシストパック

ドキュメント

ピクチャ

ビデオ

ミュージック

佐藤

名前

更新日時

種類

MASTER.DAT 2012/05/07 16:28 DAT ファ

MASTER.fld 2012/05/07 16:28 FLD ファ

マスター-Accessデータベース

マスター-Excelデータベース

ファイル名(N): MASTER.DAT

マスターファイル (MASTER.DAT) 編集

No	検索キー(13桁)	参照データ1(20桁)	参照データ2(6桁)
1	2060451680006	BHT-6045(512KB)	168000
2	2060471980001	BHT-6047(1MB)	198000
3	2060010650006	CU-6001(充電機能付)	065000
4	2060020550006	CU-6002	055000
5	2060030650000	C-600(パック4連充電	065000
6	2060040980005	C-650(本体4連充電	098000
7	2060050110003	Ni-MHバッテリーパック	011000
8	2060060020002	BHT-6000取扱説明書	002000
9	2065051880009	BHT-6505(512KB)	188000
10	2065092380001	BHT-6509(2MB)	238000
11	2070001980005	BHT-7000	198000
12	2070010600000	CU-7001(通信ユニット)	060000
13	2070020298006	C-700(パック充電器	029800
14	2070030850003	C-750(本体4連充電器)	085000
15	2070040110005	Li-Ionバッテリーパック	011000
16	2070050060000	乾電池パック	006000
17	2075082880008	BHT-7508	288000
18	2075093180005	BHT-7508P	318000
19	2011622980005	QHT-1162(2MB)	298000
20	2010010750008	QU-1001	075000

新規作成

開く

インポート

保存

送信

前ページ

上

下

次ページ

行挿入

行削除

閉じる

終了

次の拡張子のファイル名を指定しないでください。

fn3, fn4, pd3, pd4, fld, xls, mdb, exe, dll

2-4-3 インポート

閉じた状態で「インポート」をクリックすると、AccessテーブルまたはExcelシートからデータをインポートして、マスターファイルを新規作成します。マスターファイルの編集に「インポート」をクリックした場合は、インポートしたデータを末尾に追加します。

フィールド情報設定

検索キー桁数 桁

参照データ数 桁

参照データ1桁数 桁

参照データ2桁数 桁

キャンセル **確定**

確定



Access/Excelファイルインポート

Pro800 Master Masterの検索

整理 新しいフォルダー

名前	更新日時	種類
マスター-Accessファイルサンプル.mdb	2012/05/07 16:28	Microsoft

ファイル名(N): マスター-Accessファイルサンプル.mdb Accessファイル (*.mdb;*.mde;*)

開く(O) キャンセル

AccessまたはExcelファイルを選択して、
「開く」ボタンをクリックしてください



テーブルを選択して、検索キーと参照データを設定して、
「インポート実行」ボタンをクリックしてください

テーブル選択と項目指定

テーブル選択

検索キー

参照データ1

参照データ2

テーブルを選択して検索キー項目と

キャンセル **インポート実行**

2-4-4 データ編集

編集画面において、[前ページ]，[次ページ]，[上]，[下]のボタンを使用して表示位置を変更して、データ入力/変更を、[行挿入]，[行削除]でデータの追加/削除をします。

マスターファイル編集

新規作成

開く

インポート

保存

送信

前ページ

上

下

次ページ

行挿入

行削除



閉じる

終了

No	検索キー(13桁)	参照データ1(20桁)	参照データ2(6桁)
1	2060451680006	BHT-6045(512KB)	168000
2	2060471980001	BHT-6047(1MB)	198000
3	2060010650006	CU-6001(充電機能付)	065000
4	2060020550006	CU-6002	055000
5	2060030650000	C-600(バック4連充電器)	065000
6	2060040980005	C-650(本体4連充電器)	098000
7	2060050110003	Ni-MHバッテリーバック	011000
8	2060060020002	BHT-6000取扱説明書	002000
9	2065051880009	BHT-6505(512KB)	188000
10	2065092380001	BHT-6509(2MB)	238000
11	2070001980005	BHT-7000	198000
12	2070010600000	CU-7001(通信ユニット)	060000
13	2070020298006	C-700(バック充電器)	029800
14	2070030850003	C-750(本体4連充電器)	085000
15	2070040110005	Li-Ionバッテリーバック	011000
16	2070050060000	乾電池バック	006000
17	2075082880008	BHT-7508	288000
18	2075093180005	BHT-7508P	318000
19	2011622980005	QHT-1162(2MB)	298000
20	2010010750008	QU-1001	075000

ボタン	動作説明
前ページ	前のページを表示
上	データを上にスクロール
下	データを下にスクロール
次ページ	次のページを表示

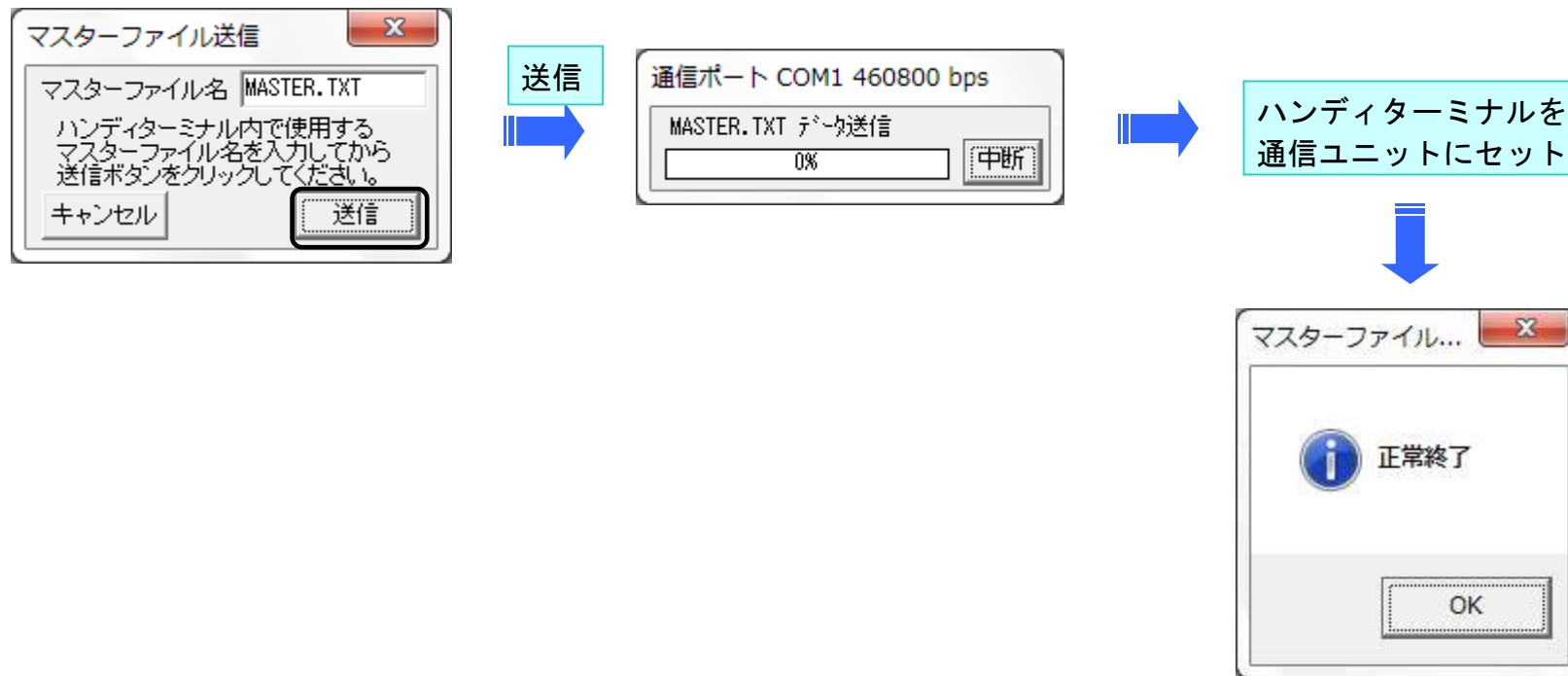
ボタン	動作説明
行挿入	カーソル位置の前に空白行を挿入します。
行削除	カーソル位置の行を削除します。

 ,  キーまたはマウスポイントで編集レコードに移動します。

2-4-5 送信

「送信」をクリックすると「ハンディターミナル内で使用するマスターファイル名を入力する」画面を表示します。マスターファイル名を入力して、「送信」ボタンをクリックすると、指定したマスターファイル名で送信します。

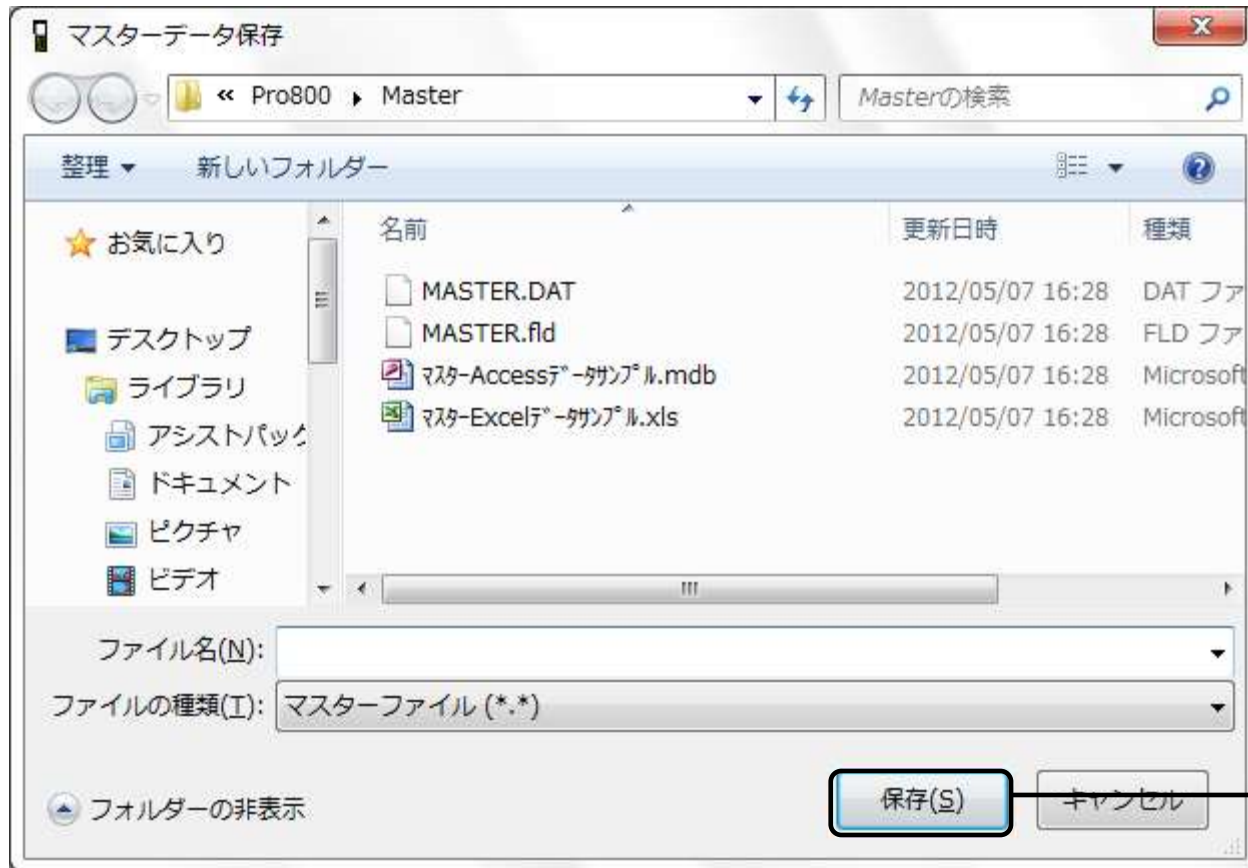
ハンディターミナルは「サブメニュー」-「9. ファイル受信」を実行し、通信ポートを選択して通信ユニットにセットします。



注) 送信するファイル名と同じ名前フィールド情報の異なるファイルがハンディターミナルに存在すると、ハンディターミナルに「フィールドエラー」が発生します。「サブメニュー」-「10. ファイル管理」において、そのファイルを削除してから、再受信してください。

2-4-6 保存

[保存] をクリックして、編集中のマスターデータを名前を付けて保存します。



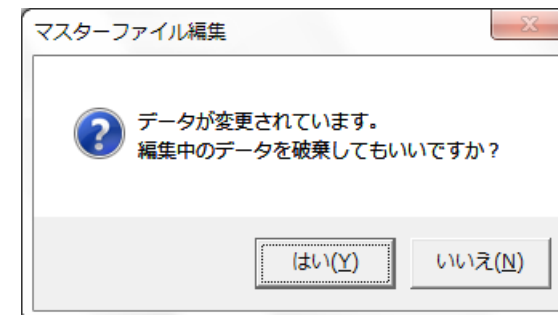
保存するファイル名を入力して、[保存] ボタンをクリックしてください。

次のファイル拡張子は使用しないでください。

f n 3, f n 4, p d 3, p d 4, f l d, x l s, m d b, e x e, d l l

2-4-7 閉じる

「閉じる」をクリックすると、編集中の画面を閉じます。データが変更されていると「データが変更されています。編集中のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。[はい] ボタンをクリックすると編集中の画面を閉じます。[いいえ] ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。マスターデータを保存してから「閉じる」をクリックしてください。



2-4-8 終了

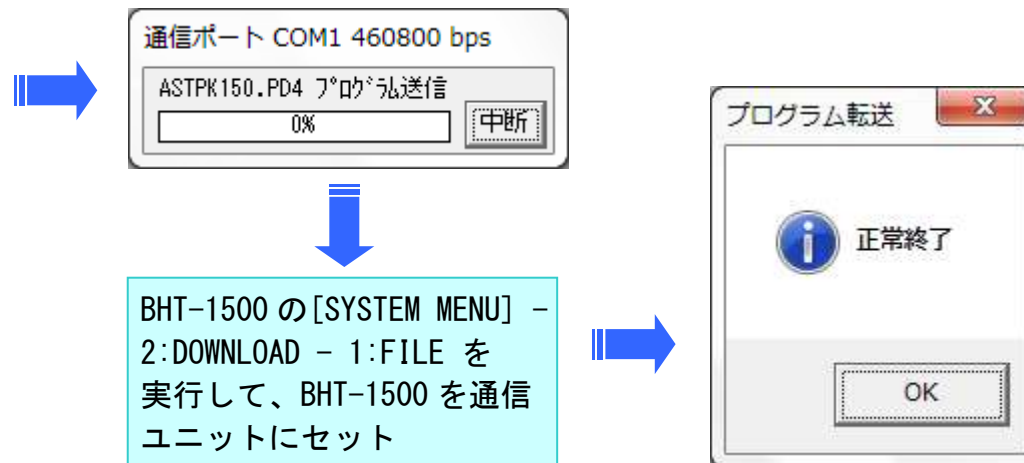
「終了」をクリックすると、アシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。データが変更されていると「データが変更されています。編集中のデータを破棄してもいいですか？」を表示します。[はい] ボタンをクリックするとアシストパックマネージャーのメニュー画面に戻ります。[いいえ] ボタンをクリックすると編集状態に戻ります。マスターデータを保存してから「終了」をクリックしてください。

2-5 アシストパックプログラム転送

アシストパックのハンディターミナルのプログラムをBHT-1500に転送します。

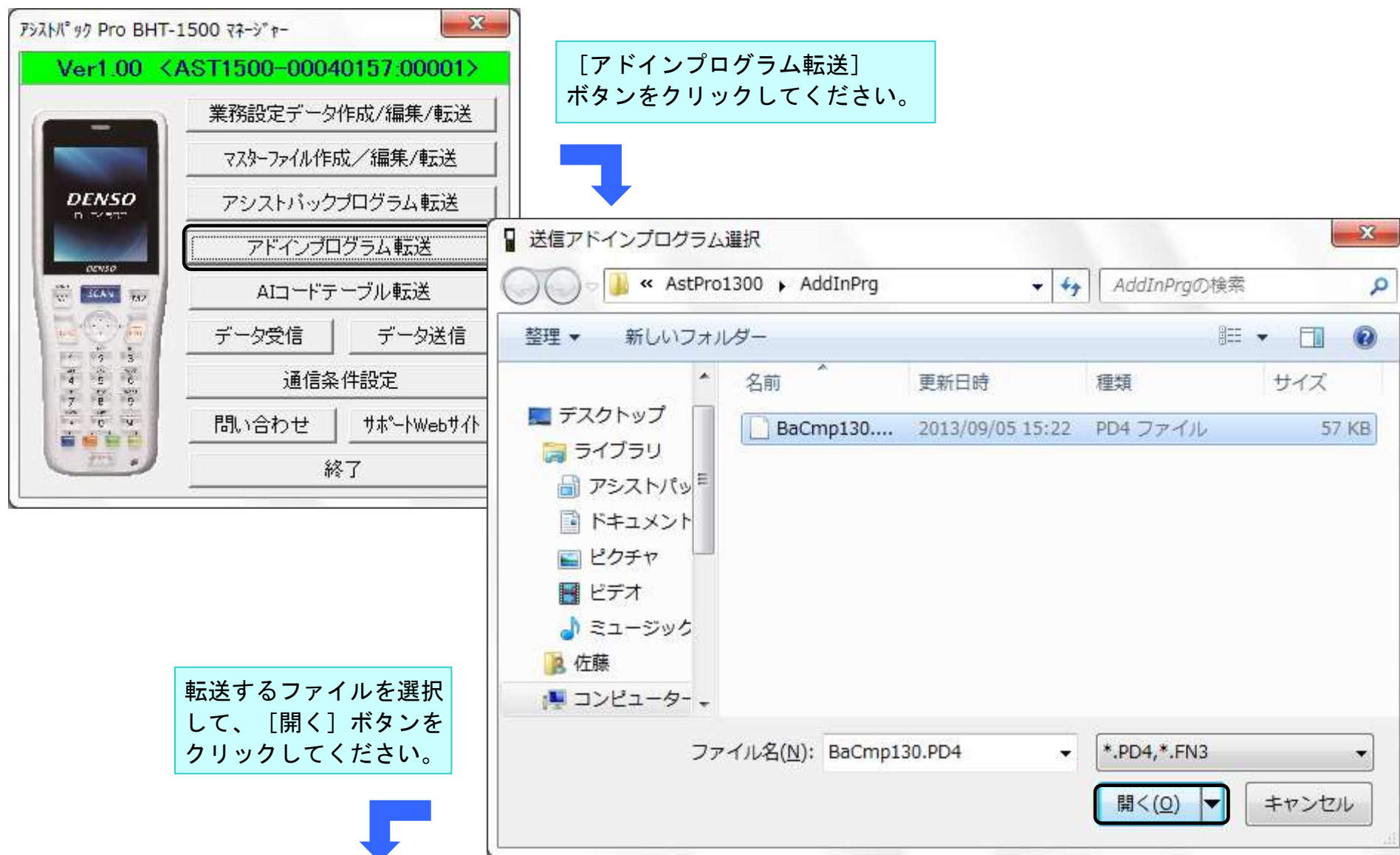


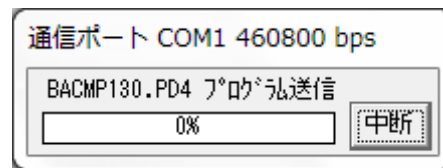
BHT-1500 の通信設定を 通信ポート=Optical, 通信スピード=115200 or 460800, プロトコル=Ymodem, YModem パラメータ(CR/LF=CR-LF, CR/LF CODE=Control Code, BHT ID=None, INTERVA=30)に設定してください。
設定方法は、デジソーウェアの「BHT-1500 取扱説明書」を参照



2-6 アドインプログラム転送

アシストパックのアドインプログラムをBHT-1500に転送します。



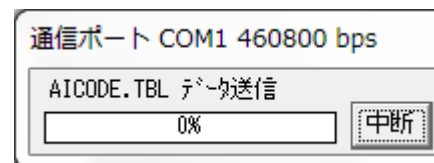


ハンディターミナルは
「サブメニュー」-「9. ファイル受信」
を実行し、通信ポートを選択して通信
ユニットにセット



2-7 AIコードテーブル転送

バーコードデータチェックまたはデータ振り分けにAIコードを使用する場合、AIコードテーブルをBHT-1500に転送します。



BHT-1500 のサブメニューの「9. ファイル
受信」を実行して、BHT-1500 を通信
ユニットにセット



2-8 データ受信

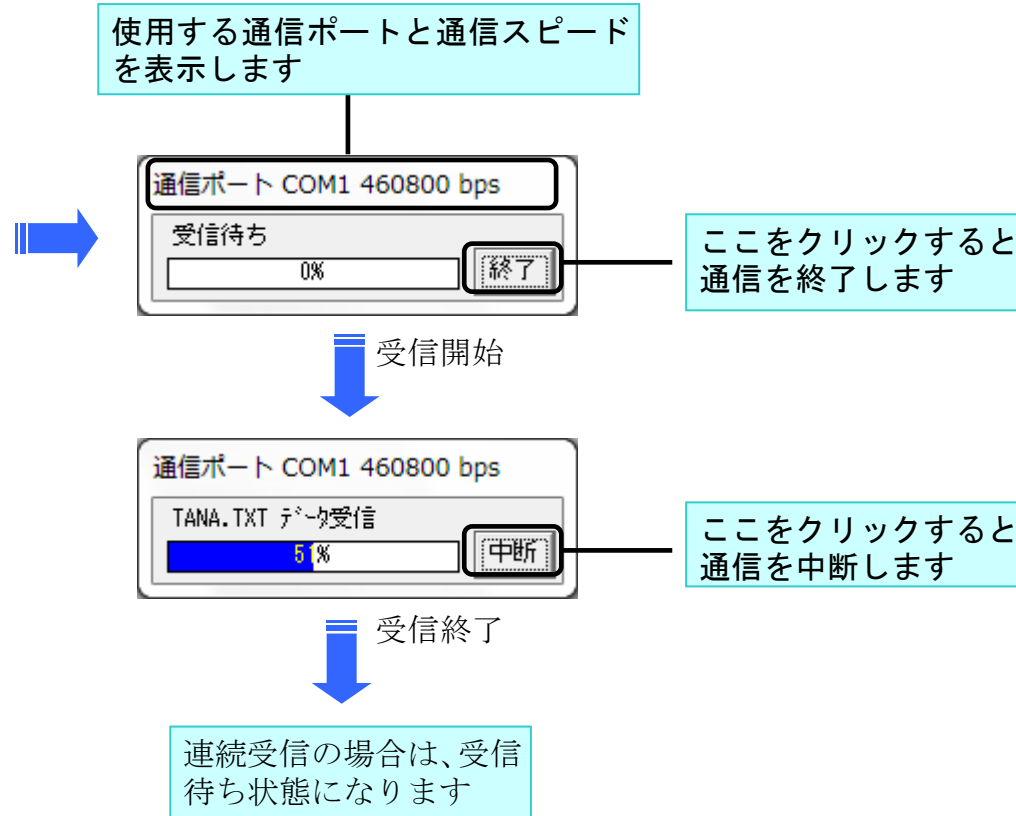
設定した通信条件でデータ受信プログラムを起動します。通信条件は、[通信条件設定] ボタンをクリックして設定してください。
「通信状態表示」を表示するに設定した場合は、次のように表示します。



【受信ファイル名に日付を入れる】

受信データのファイル名に **YYMMDD** が含まれていると、**YYMMDD** を受信日付で置き換えます。

例) 2011/01/01 に受信した場合
TYYMMDD.TXT ⇒ T110101.TXT

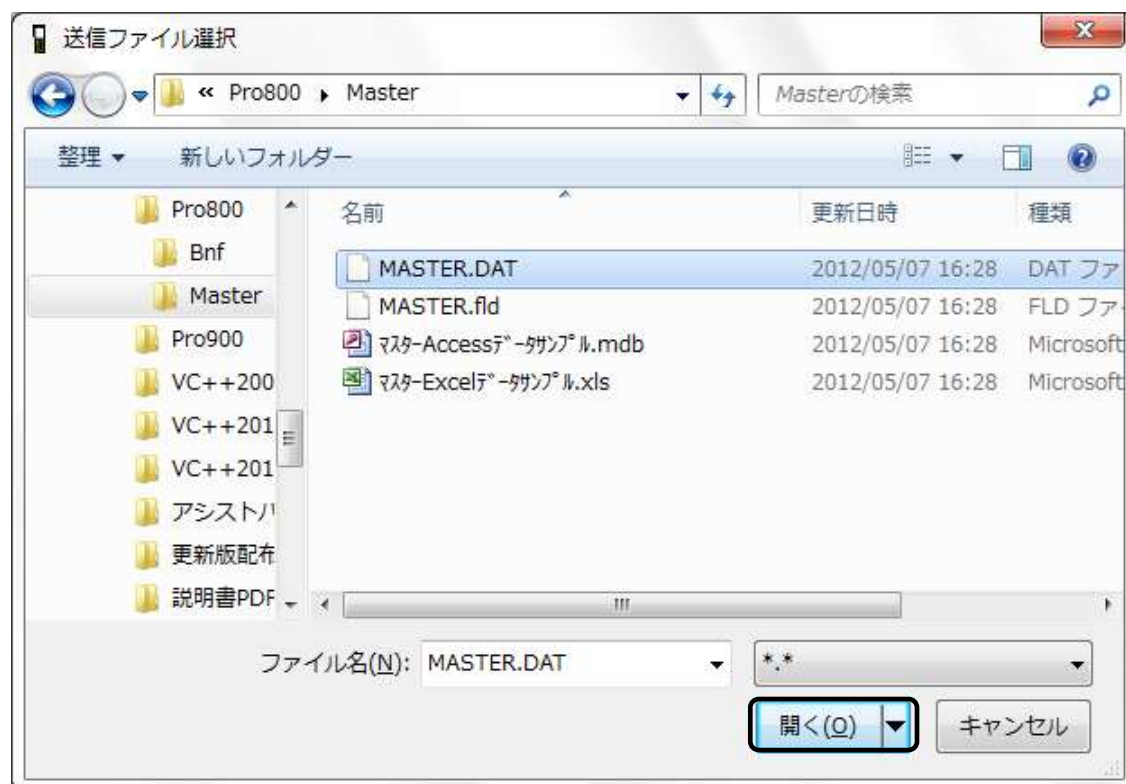


2-9 データ送信

設定した通信条件で送信ファイルを指定してデータ送信プログラムを起動します。データファイルを送信する場合は、拡張子「.fld」のフィールド情報ファイルが必要です。通信条件は、[通信条件設定] ボタンをクリックして設定してください。



[データ送信] ボタンをクリックしてください。



データファイルを送信する場合は、フィールド情報ファイル（拡張子.fld）が必要です。

例) TANA.fld の内容

10, 6, 13, 6

送信するファイルを選択して、[開く] ボタンをクリックしてください。

2-10 通信条件設定

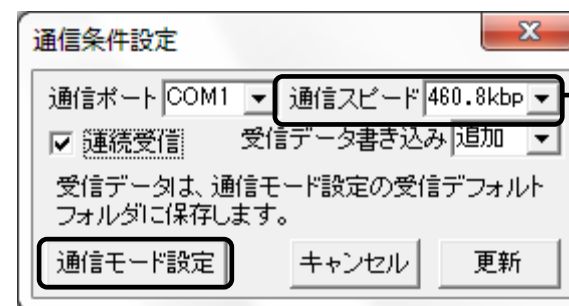
通信ポート，連続受信，受信データ書き込み，通信状態表示，通信履歴，受信デフォルトフォルダ，送信デフォルトフォルダを設定します。



ここで設定する「通信ポート」，「通信スピード 460.8kbps」，「連続受信設定」，「受信データ書き込み」は、アシストバックマネージャーでのみ有効です。
「通信モード設定」は、BhtYmText.dll を使用するプログラムでも有効です。

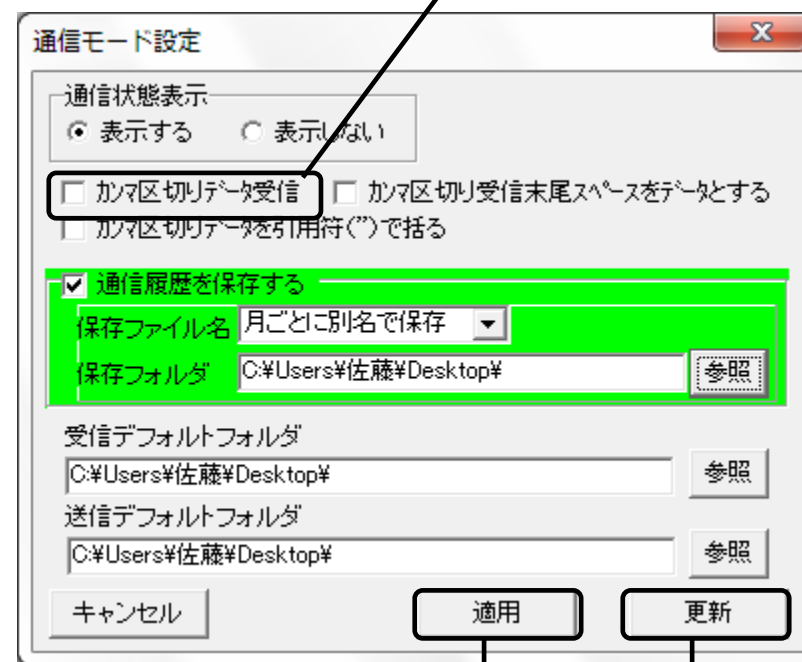
保存する通信履歴ファイル名

日ごとに保存ファイル名： BYTCOM**_YYYY_MM_DD.log
月ごとに保存ファイル名： BYTCOM**_YYYY_MM.log
年ごとに保存ファイル名： BYTCOM**_YYYY.log
**：通信ポート No



「通信モード設定」
ボタンをクリック

拡張子「CVS」以外のファイルも
カンマ区切りデータとして受信する



設定を適用します

設定を適用し保存します

2-1-1 問い合わせ

インターネットに接続して「問い合わせ」ボタンをクリックしてください。



[問い合わせ] ボタンをクリックしてください



The screenshot shows a web browser window with the following elements:

- Address Bar:** Displays the file path `C:\Users\Public\queryfi` and the page title `カタログ請求` (Catalog Request).
- Menu Bar:** Includes `ファイル(E)`, `編集(E)`, `表示(V)`, `お気に入り(A)`, `ツール(I)`, and `ヘルプ(H)`.
- Form Title:** `問い合わせ` (Inquiry).
- Form Fields:**
 - 会社名 (Company Name)
 - 所属 (Affiliation)
 - 氏名 (Name)
 - 郵便番号 (Postal Code)
 - 住所 (Address)
 - TEL
 - FAX
 - メールアドレス (Email Address)
 - 問い合わせ内容 (Inquiry Content) - a large text area.
- Buttons:** A `送信` (Send) button is located at the bottom right.
- Footer:** A message at the bottom reads: `上記の項目を記入して[送信]ボタンをクリックしてください。` (Please enter the above items and click the [Send] button).

各入力項目に入力して、[送信] ボタンをクリックしてください

2-12 サポートWebサイト

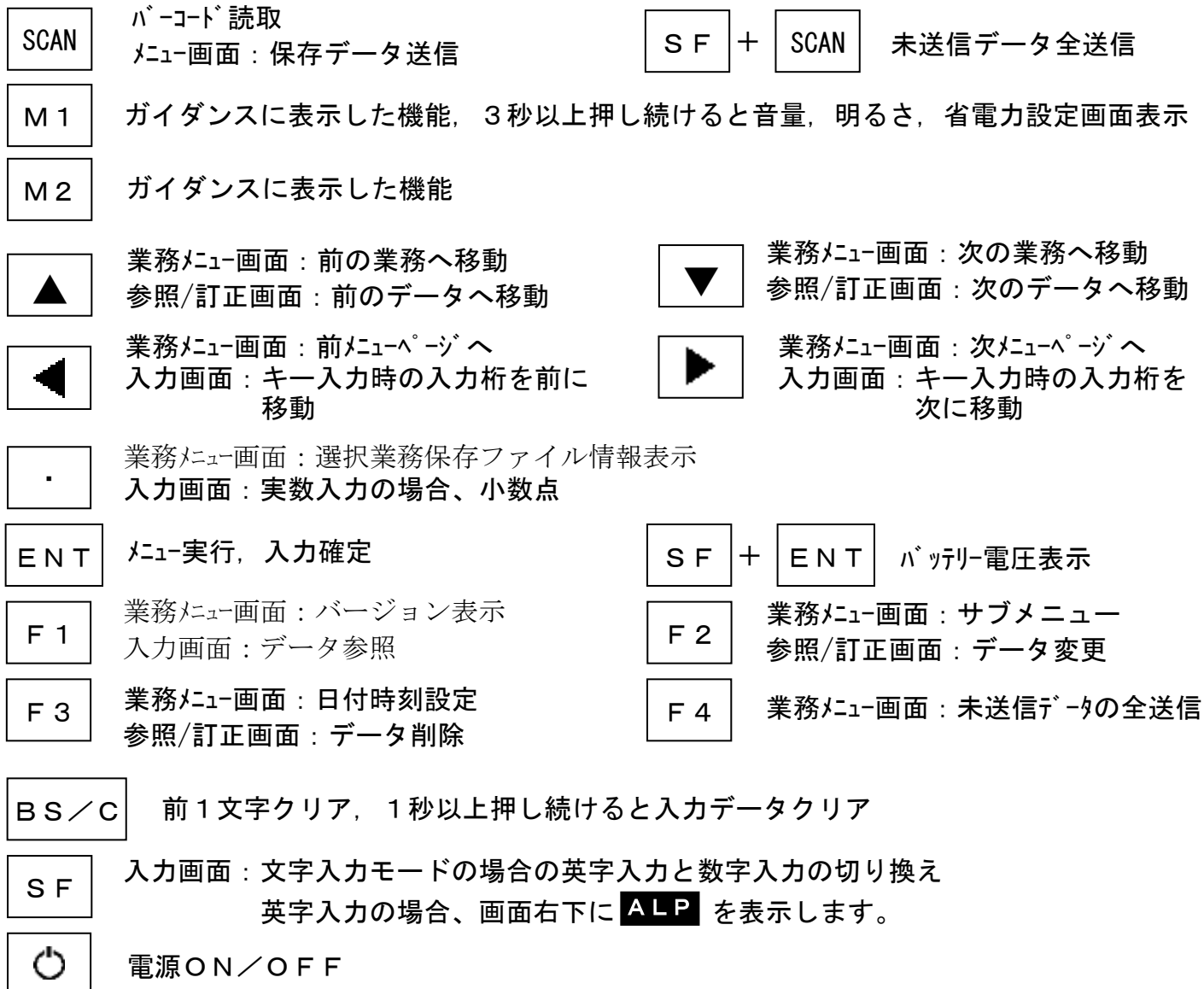
コンピュータ・アシスト株式会社が提供する、「アシストパック BHT-1500 Pro Edition」のバージョンアップサービス、アドインプログラムサービスのWebサイトを、ブラウザを起動して表示します。

インターネットに接続して「サポートWebサイト」ボタンをクリックしてください。



[サポートWebサイト] ボタンをクリックしてください

3-1 キーの説明



3-2 通信

アシストパックプログラムにおける通信は、下記の「通信ポート」，「通信スピード」，「通信プロトコル」になります。

1) 通信ポート

- ① C U－U S B (CU-AU1-15)
③ B l u e t o o t h インターフェース
④ L A N－C U (CU-AL1-15) インターフェース (アドイン通信プログラムとして提供)

2) 通信スピード

使用する通信ポート、通信ユニットにより次のように設定してください。

- | | | | |
|---|--------------------------------|---|-------------------|
| ① | C U — U S B (C U — A U 1 — 15) | : | 4 6 0 8 0 0 b p s |
| ② | B l u e t o o t h | : | 4 6 0 8 0 0 b p s |
| ③ | L A N — C U (C U — A L 1 — 15) | : | 4 6 0 8 0 0 b p s |

3) 通信プロトコル

- ## ① Y M o d e m プロトコル

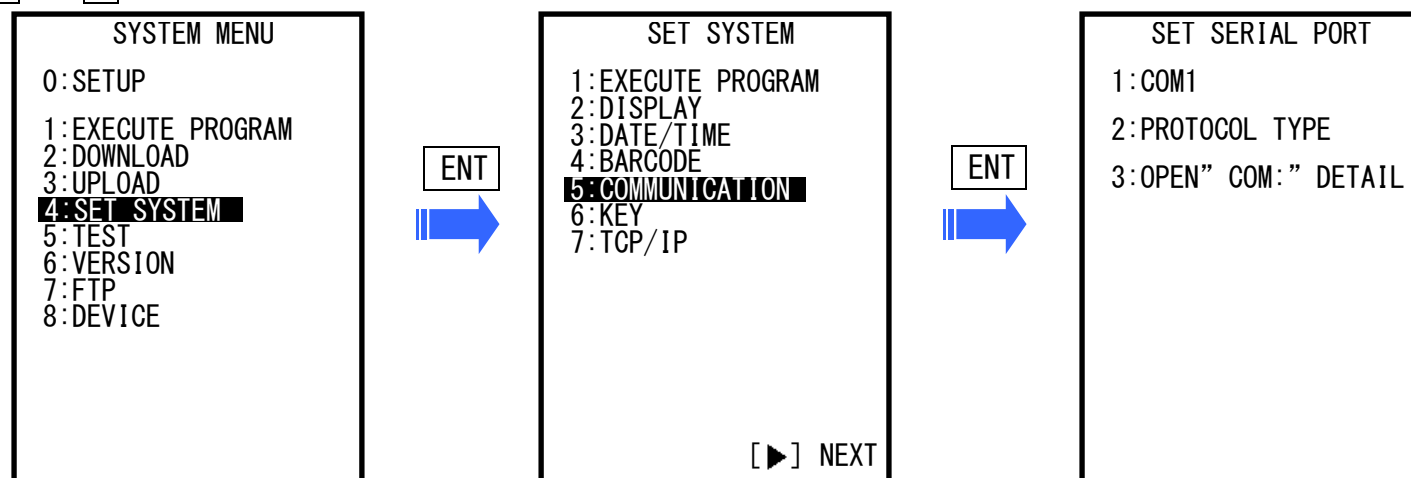
プロトコルについては、(株)デンソーウェーブのBHT-1500取扱説明書を参照してください。

- ## ② アドイン通信プログラム

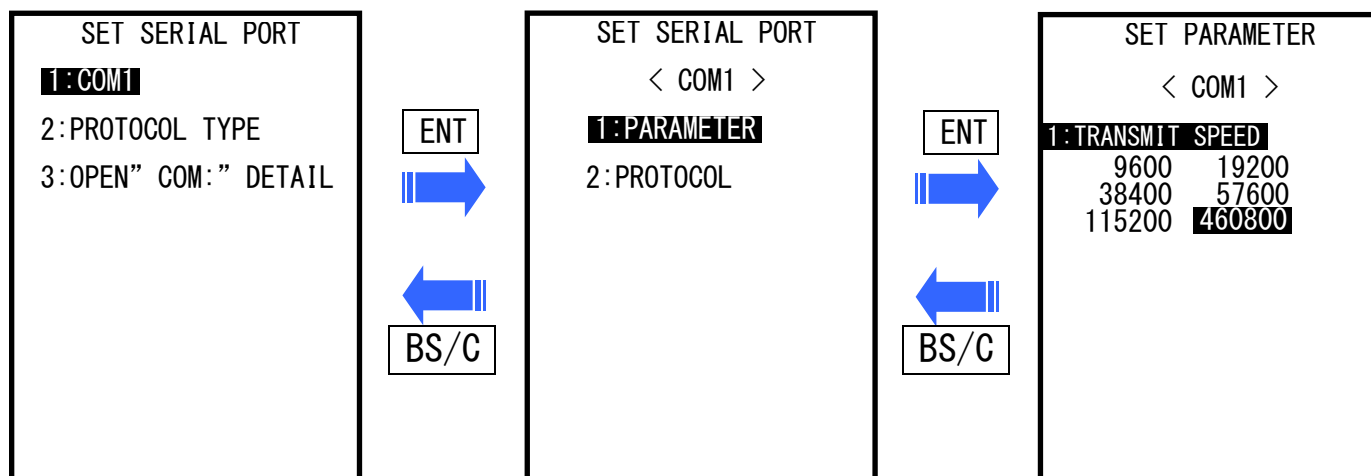
コンピュータ・アシスト(株)が提供する通信プロトコルのプログラムを2つまで組み込んで使用することができます。

3-3 アシストパックプログラムのダウンロード手順

S F と **1** を押したまま電源を投入してください。

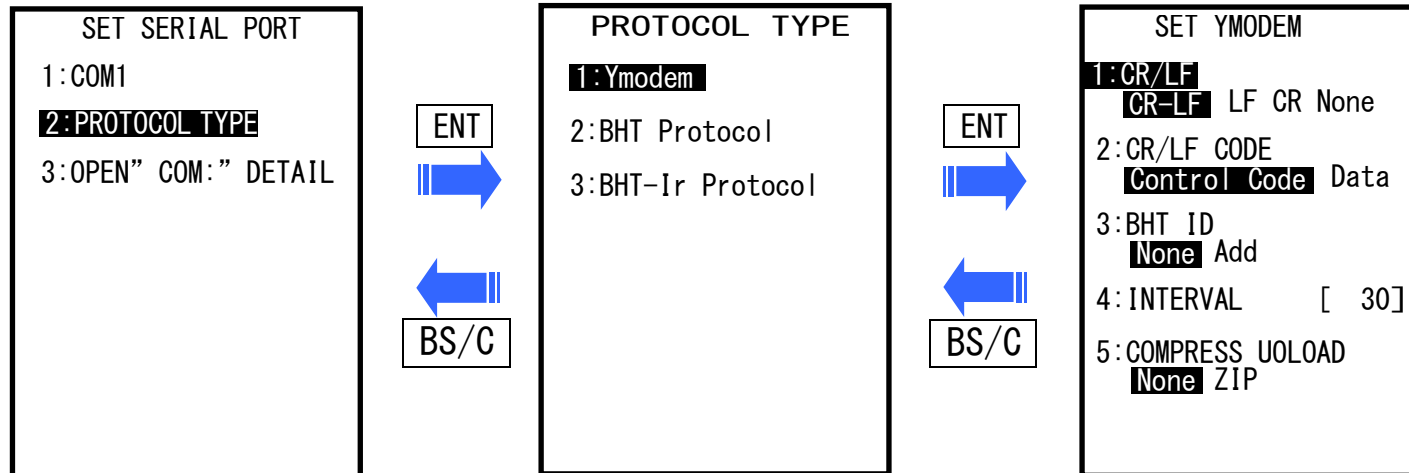


① 通信スピード設定 (通信ユニットを使用する場合のみ)



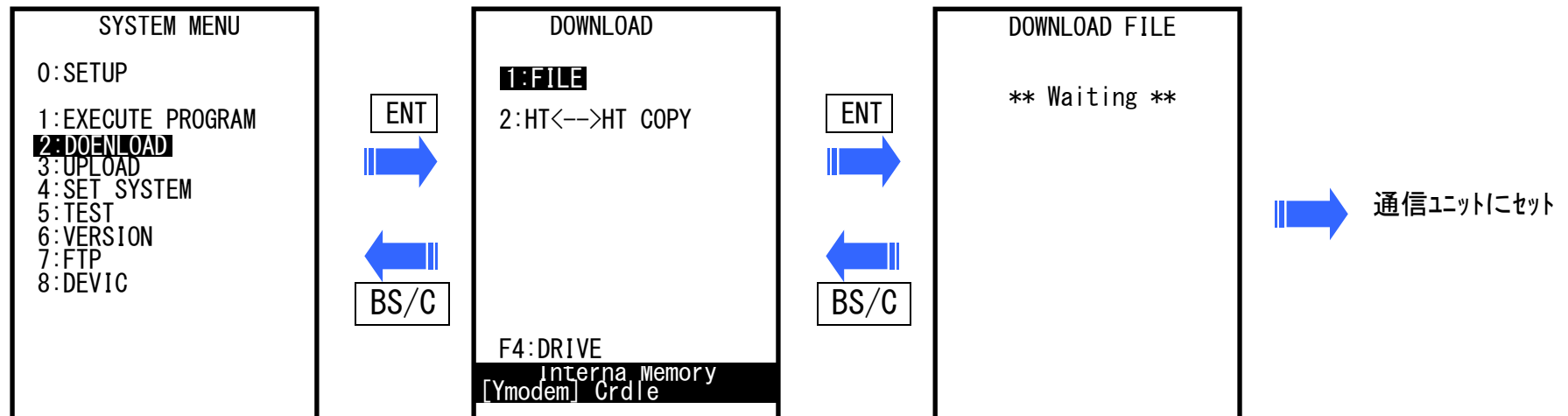
◀, ▶ キーで 460800 に設定してください。

② 通信プロトコルをYmodemに設定



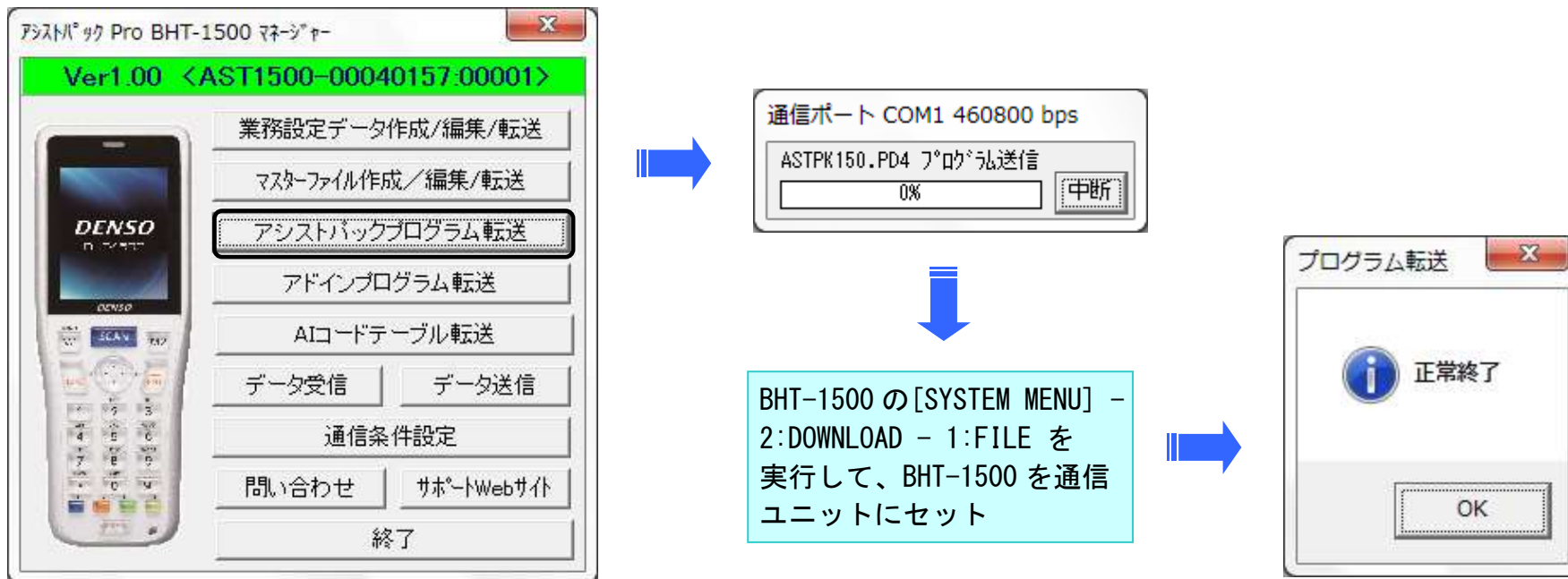
1:CR/LF=CR-LF, 2:CR/LF CODE=Control Code,
3:BHT ID=None, 4:INTERVAL=30 に設定してください。
▲, ▼キーで設定項目を選択、◀, ▶キーで設定データを選択してください。

③ ダウンロード実行



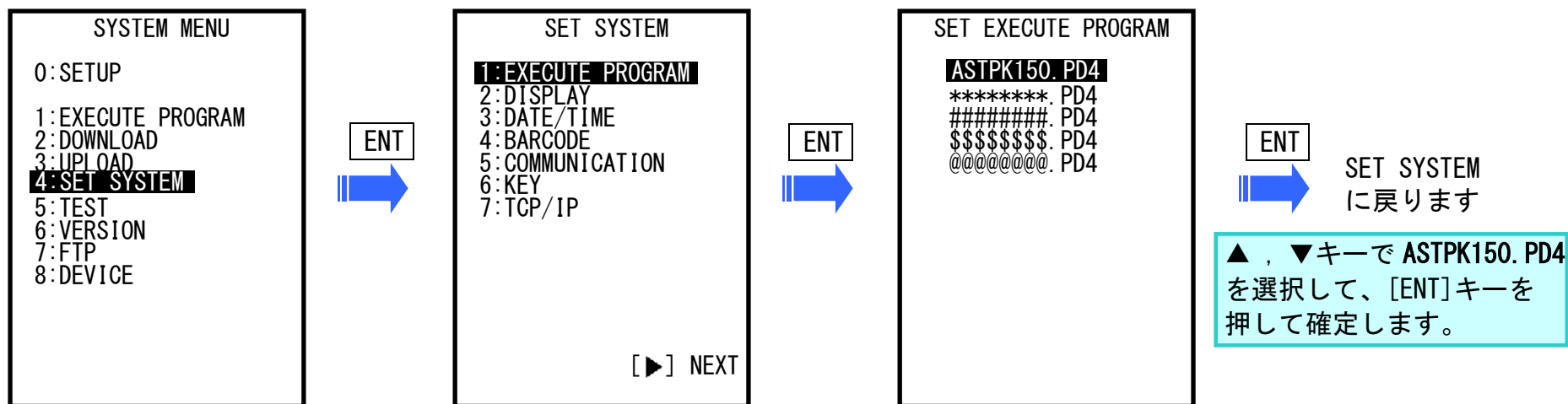
④ PCからプログラム転送

[アシストバックプログラム転送] ボタンをクリックしてPCからプログラムを転送します。



⑤ 自動実行プログラムとして設定

電源ONした後に自動的に実行するプログラムを設定します。

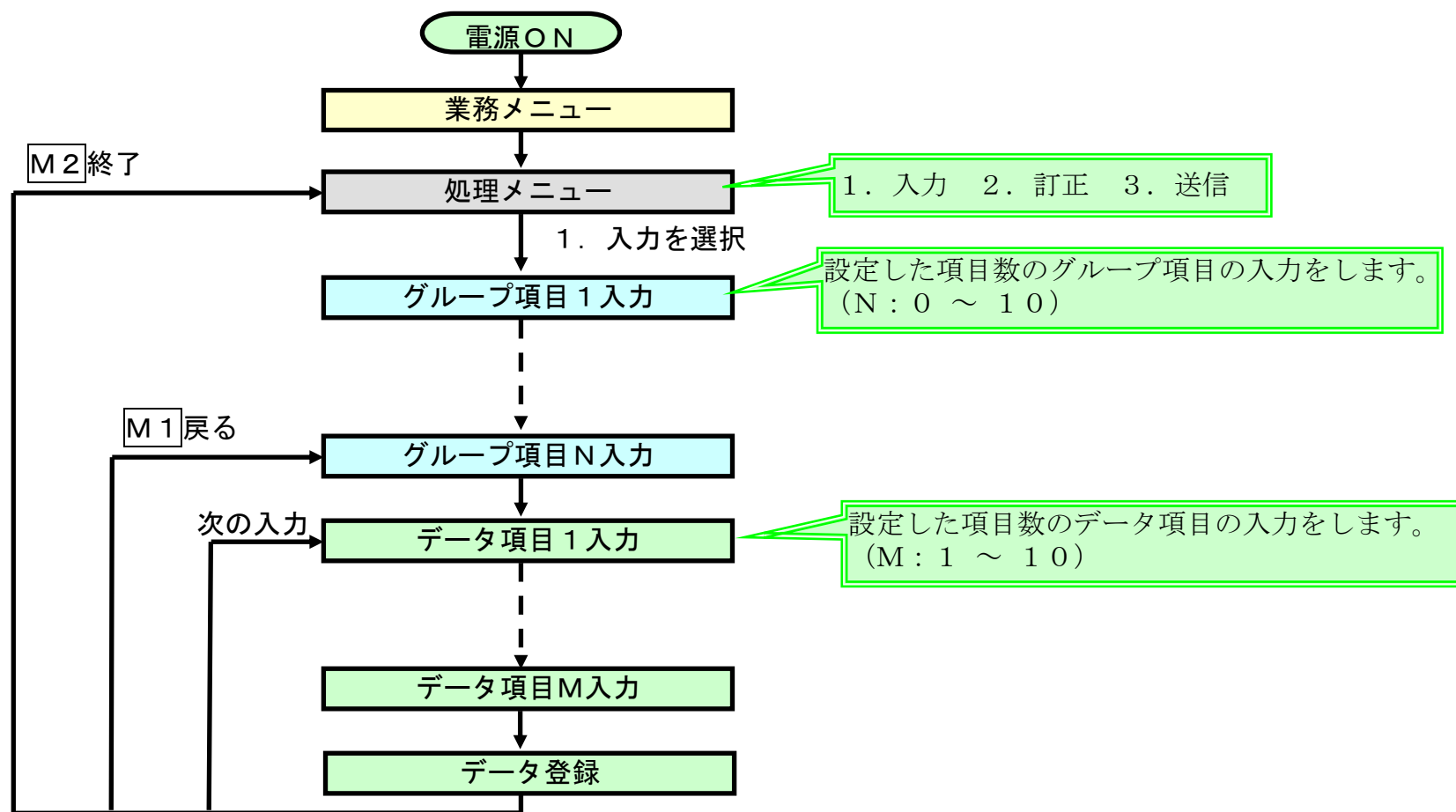


3-4 動作モード

アシストパックプログラムにおける動作は、「データ収集」、「未送信データの全送信」、「ファイル受信」、「リモート受信」、「バーコード情報表示」、「バーコード読取テスト」、「アドインプログラム」の8種類になります。

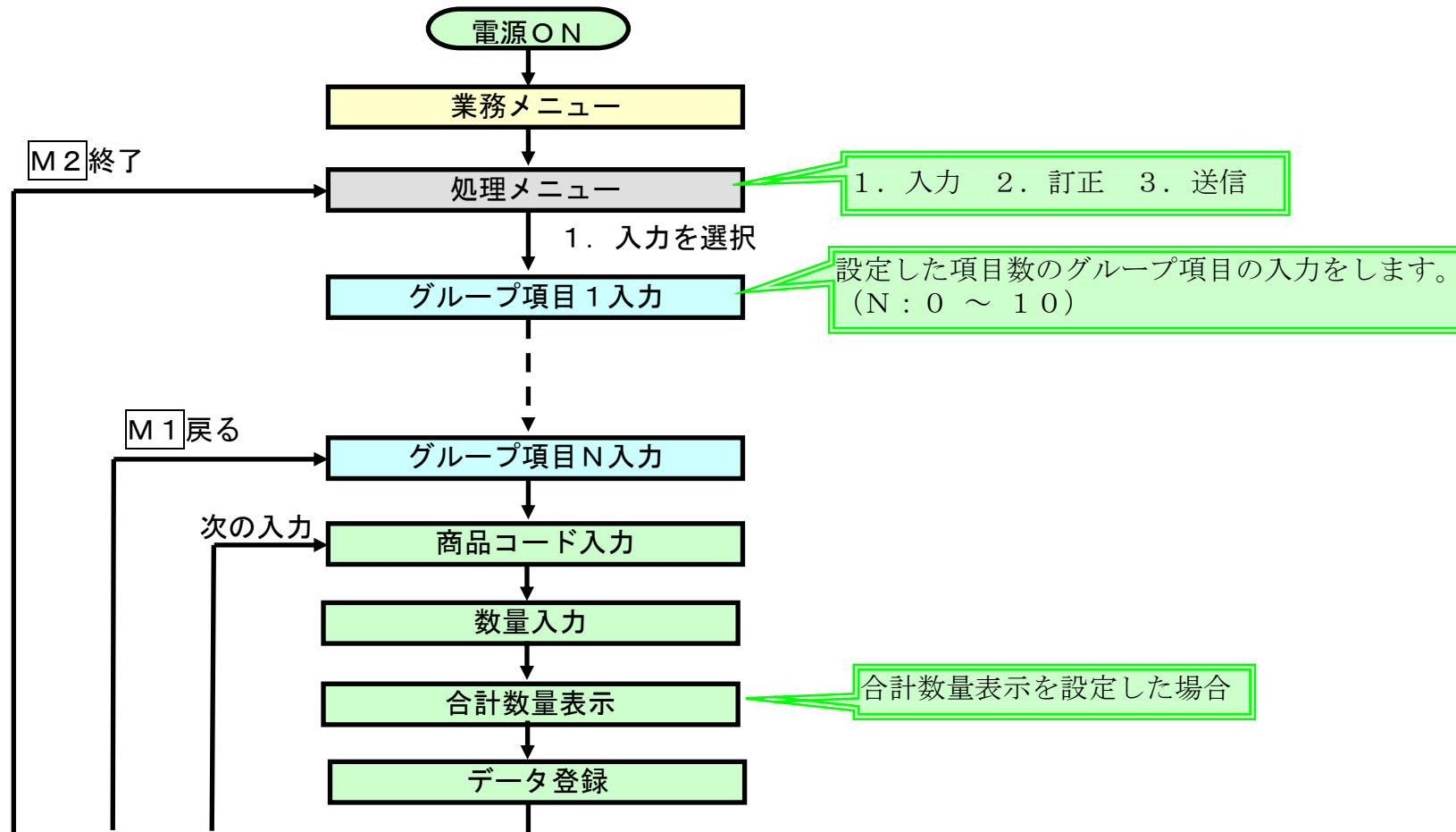
1) データ収集

バーコードとキー入力のデータを収集する動作モードです。データ収集モードの処理は、「入力」、「訂正」、「送信」の処理で構成されています。データ入力の基本動作は下図のようになります。（3-7データ収集モード）



2) 商品コード+数量収集

データ項目を商品コードと数量の2項目に限定してデータを収集するモードです。この動作モードでは指定したグループの合計数量を表示します。(3-8 商品コード+数量収集モード)

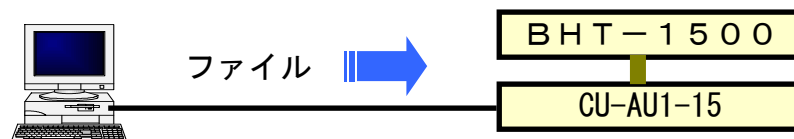


3) 未送信データの全送信

業務で設定した未送信の保存データをすべて送信します。(3-9 未送信データの全送信モード)

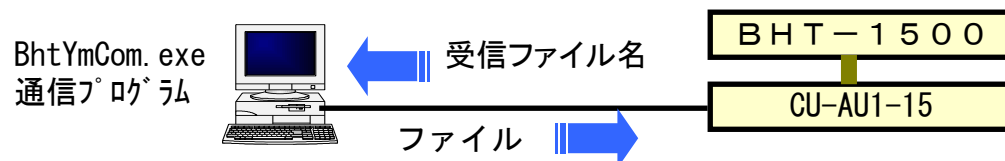
4) ファイル受信

PCから送信したファイルを受信します。(3-10 ファイル受信モード)



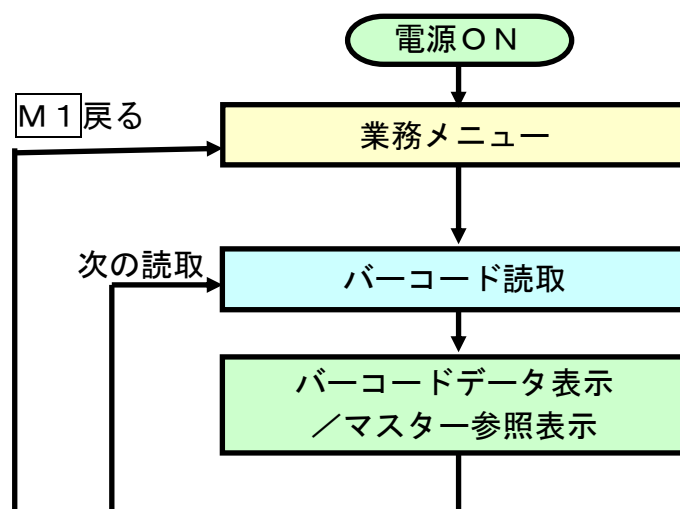
5) リモート受信

PCの「BhtYmCom.exe 通信プログラム」からリモート受信します。(3-11 リモート受信モード)



6) バーコード情報表示

読み取ったバーコードデータを表示し、マスター検索して参照データを表示する動作モードです。バーコード情報表示の基本動作は下図のようになります。(3-12 バーコード情報表示モード)



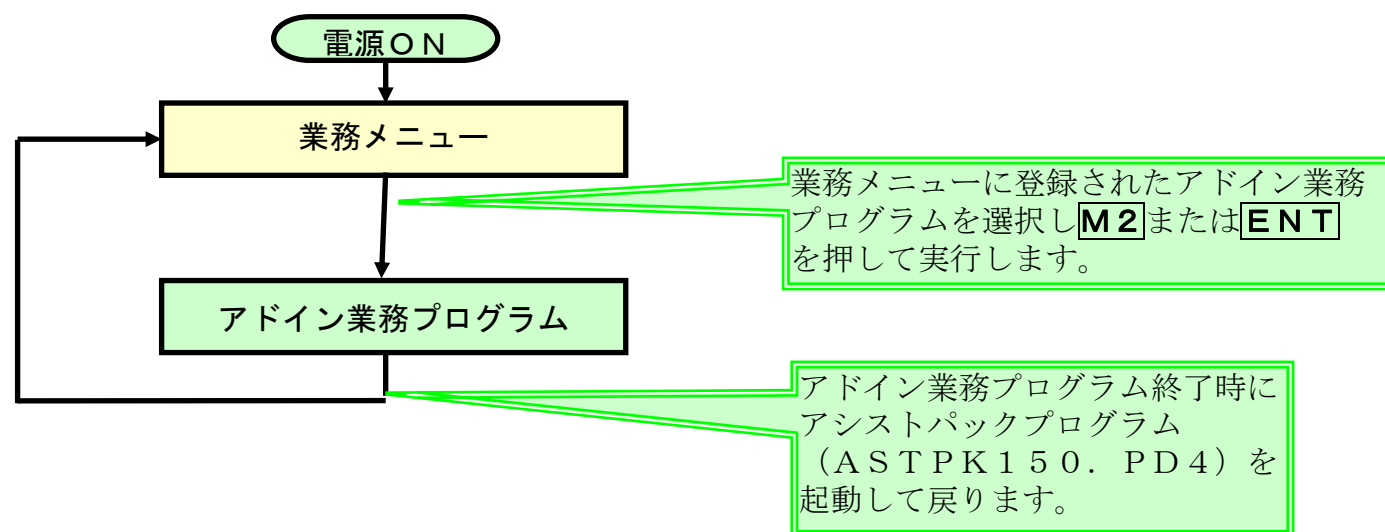
7) バーコード読取テスト

バーコードを読み取り、バーコードの種類、桁数、データ内容を表示します。(3-13バーコード読取テストモード)

8) アドインプログラム

業務メニューからコンピュータ・アシストが提供するアドイン業務プログラム（.PD4）を実行します。

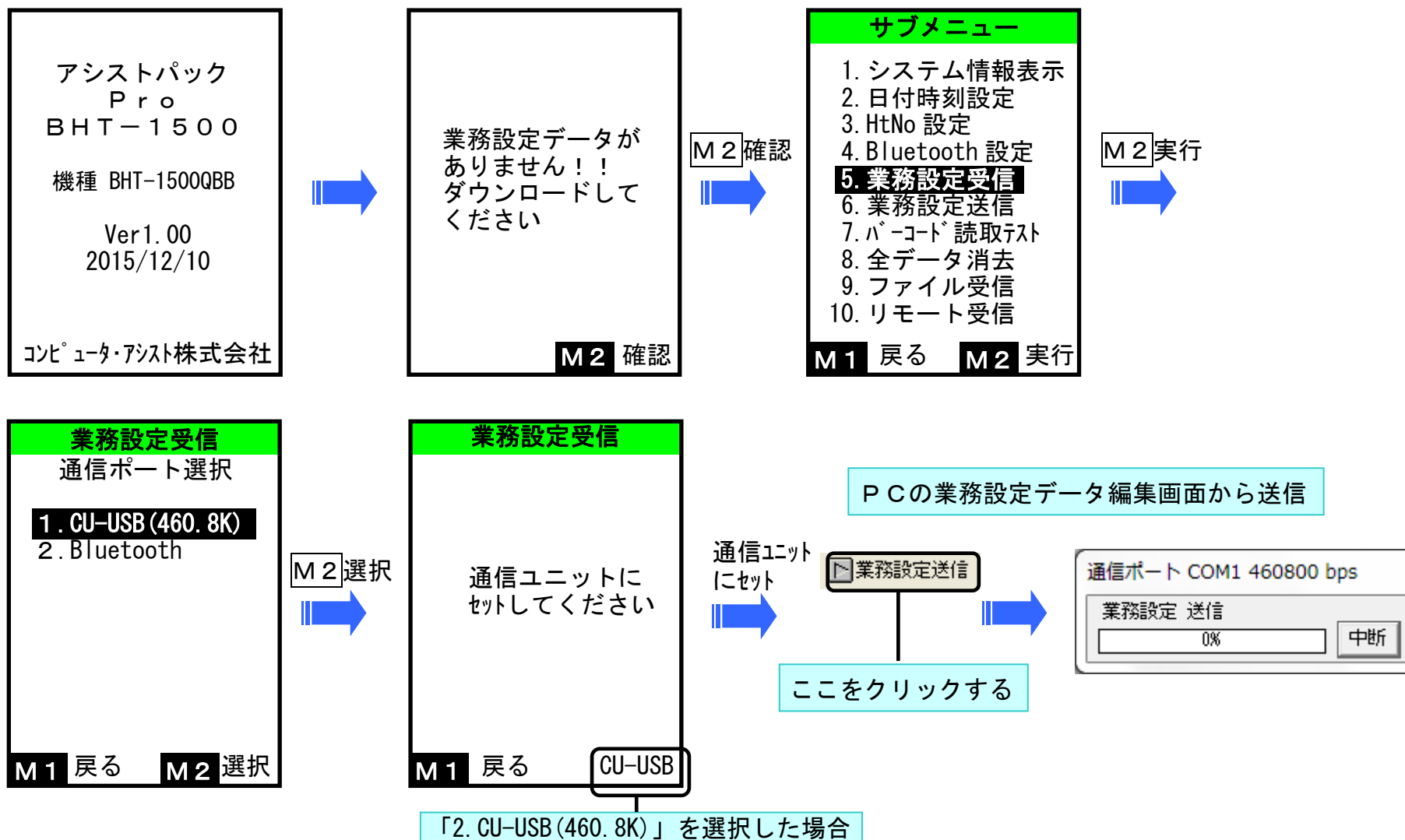
アドイン業務プログラムの実行は下図のようになります。



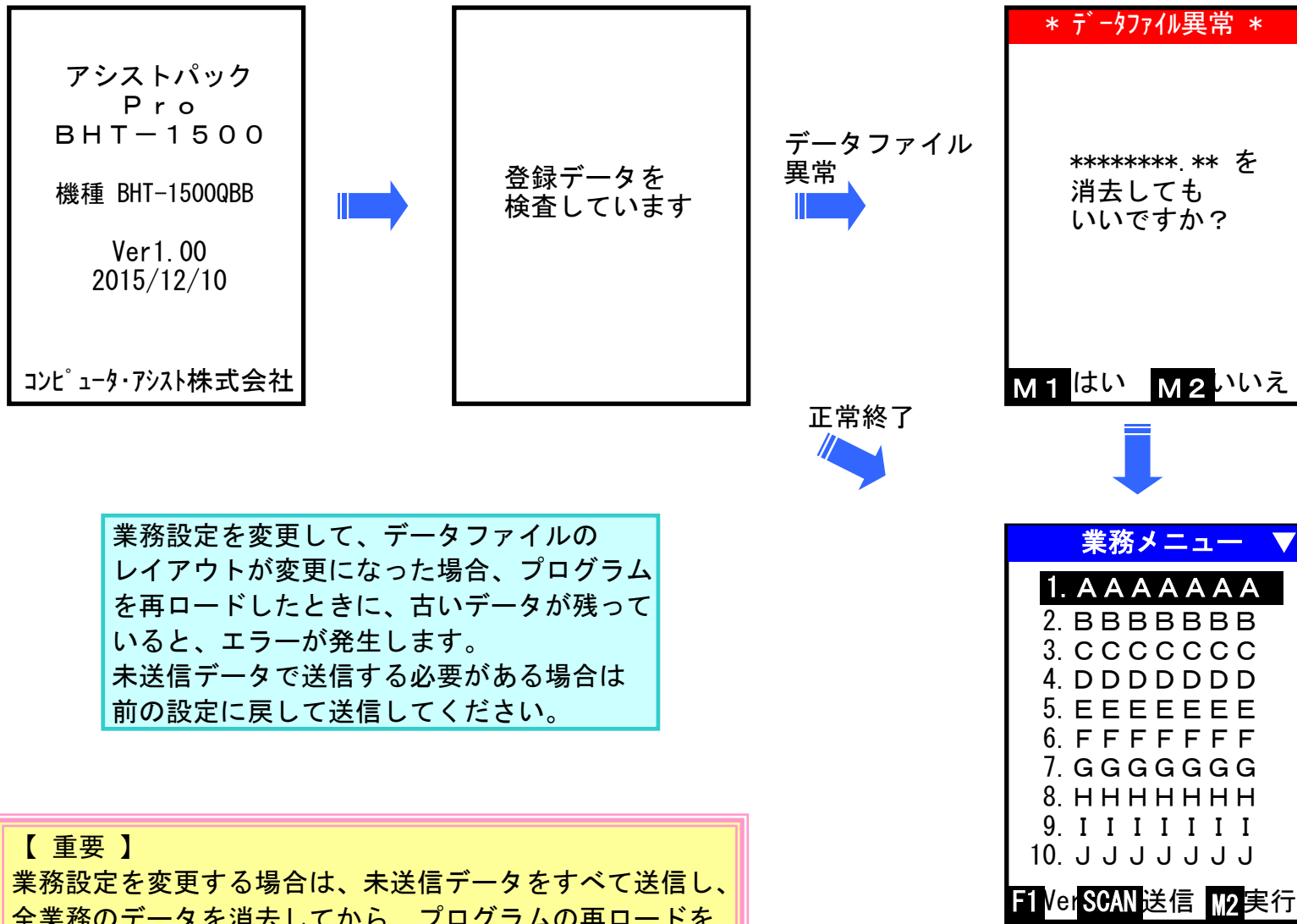
3-5 電源投入

電源投入後の表示は、プログラムの状態により異なります。入力処理のグループ入力中とデータ入力中はリジューム機能をONにしていますので、電源を切断しても次の電源投入時に切断時の画面を表示します。

① プログラムダウンロード直後で業務登録データがない場合

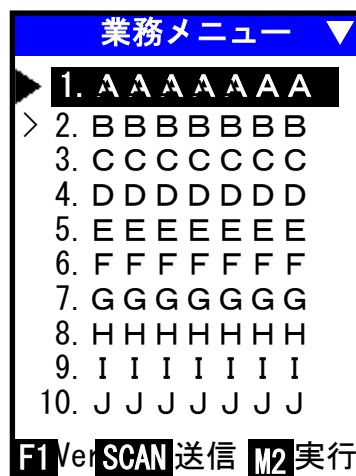


② レジューム機能OFFにおける通常の場合



3-6 業務メニュー

業務数、業務名等の設定は、アシストパックマネージャーの業務設定を使用して設定してください。
「AAAAA」、「BBBBB」、～、「IIIII」、「JJJJJ」は、設定した業務名を表示します。



ファイル状態表示 ▶ : 未送信データ > : 送信済みデータ ? : 異常ファイル

業務選択キー

▲	:	上の業務を選択	▼	:	下の業務を選択
◀	:	前のページを表示	▶	:	次のページを表示
[1]~[9]	:	1~9の業務選択	[0]	:	10の業務選択
[SF]+[1]~[9]	:	11~19の業務選択	[SF]+[0]	:	20の業務選択

機能実行キー

[M2], [ENT] : 反転表示の選択業務を実行
(データ収集モードの場合は、処理メニューまたは入力画面へ)
[SF]+[M2] : 処理メニュー表示を設定しない場合、選択業務の保存データ訂正

[SCAN] : 選択業務のデータ送信
[SF]+[SCAN] : 未送信データの全送信
[BS/C] : 選択業務のデータ消去
[SF]+[.] : 業務設定更新

[F1] : バージョン表示
[F2] : サブメニュー (サブメニュー表示を設定した場合)
[F3] : 日付時刻設定
[SF]+[F1] : 空メモリ状況表示
[.] : 選択業務の保存データ情報表示

1) バージョン表示

業務メニューにおいて **F1** キーを押すと表示します。

アシストパック
BHT-1500

機種 BHT-1500QBB

Ver1.00
2015/12/10

コンピュータ・アシスト株式会社

アシストパックをバージョンアップした場合に、プログラムが変更されたかこの画面で確認してください。
何かキーを押すと、業務メニューに戻ります。

2) サブメニュー

業務設定の「サブメニュー動作」を設定した場合、業務メニューにおいて **F2** キーを押すと表示します。

サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. 業務設定受信
5. 業務設定送信
6. バーコード読取テスト
7. 全データ消去
8. ファイル受信
9. リモート受信
10. ファイル管理

M1 戻る **M2** 実行

▲ : 上を選択
▼ : 下を選択
M2, ENT : 反転表示の項目を実行
1 ~ 9 : 1 ~ 9の項目を選択
0 : 10の項目を選択
M1 : 業務メニューに戻ります
3秒以上押下すると
「スピーカー音量, バイブレーション, 画面の明るさおよび省電力」の設定画面を表示

3) 日付時刻設定

業務メニューにおいて **F 3** キーを押すと表示します。

日付時刻設定

2016 年
1 月
10 日
0 時
0 分

M 1 戻る **M 2** 設定

▲ : 前の項目へ移動
▼ : 次の項目へ移動
M 2 , **ENT** : 次の項目へ移動
(最後の項目の場合は設定してサブメニューに戻ります)
M 2 : 入力したデータを設定してサブメニューに戻ります
M 1 : サブメニューに戻ります

4) 空きメモリ状況表示

業務メニューにおいて **S F** + **F 1** キーを押すと表示します。

空メモリ状況

ファイルエリア
10,952,704 バイト
ワークエリア
1,274 バイト
スタックエリア
25,521 バイト

M 1 戻る

ファイルエリア
データファイルとプログラムファイルの保存可能な空きメモリ領域を表示します。

ワークエリア
ワーク/コモン変数とユーザー定義関数用エリアの空きメモリ領域を表示します。

スタックエリア
数値演算, 文字列演算, ユーザー定義関数の呼び出しスタックの空きメモリ領域を表示します。

M 1 : 業務メニューに戻ります

5) 保存データ情報表示

業務メニューにおいて送信するデータの業務を選択して、**[.]**キーを押すと表示します。

A A A A A A A

保存データ情報

ファイル名 TANA.TXT

未送信データ件数 100 件

入力可能データ件数 415,165 件

M 1 戻る

A A A A A A A : 業務名を表示します。

ファイル名
選択した業務データのファイル名を表示します。

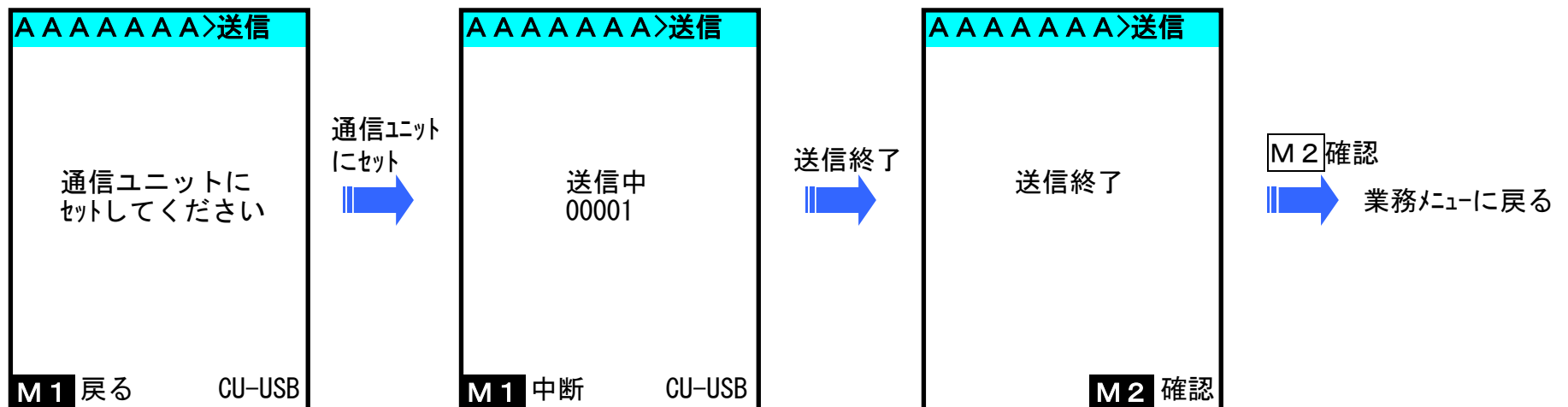
未送信データ件数
選択した業務データの未送信データ件数を表示します。

入力可能データ件数
選択した業務の保存可能な入力データ件数を表示します。

M 1 : 業務メニューに戻ります

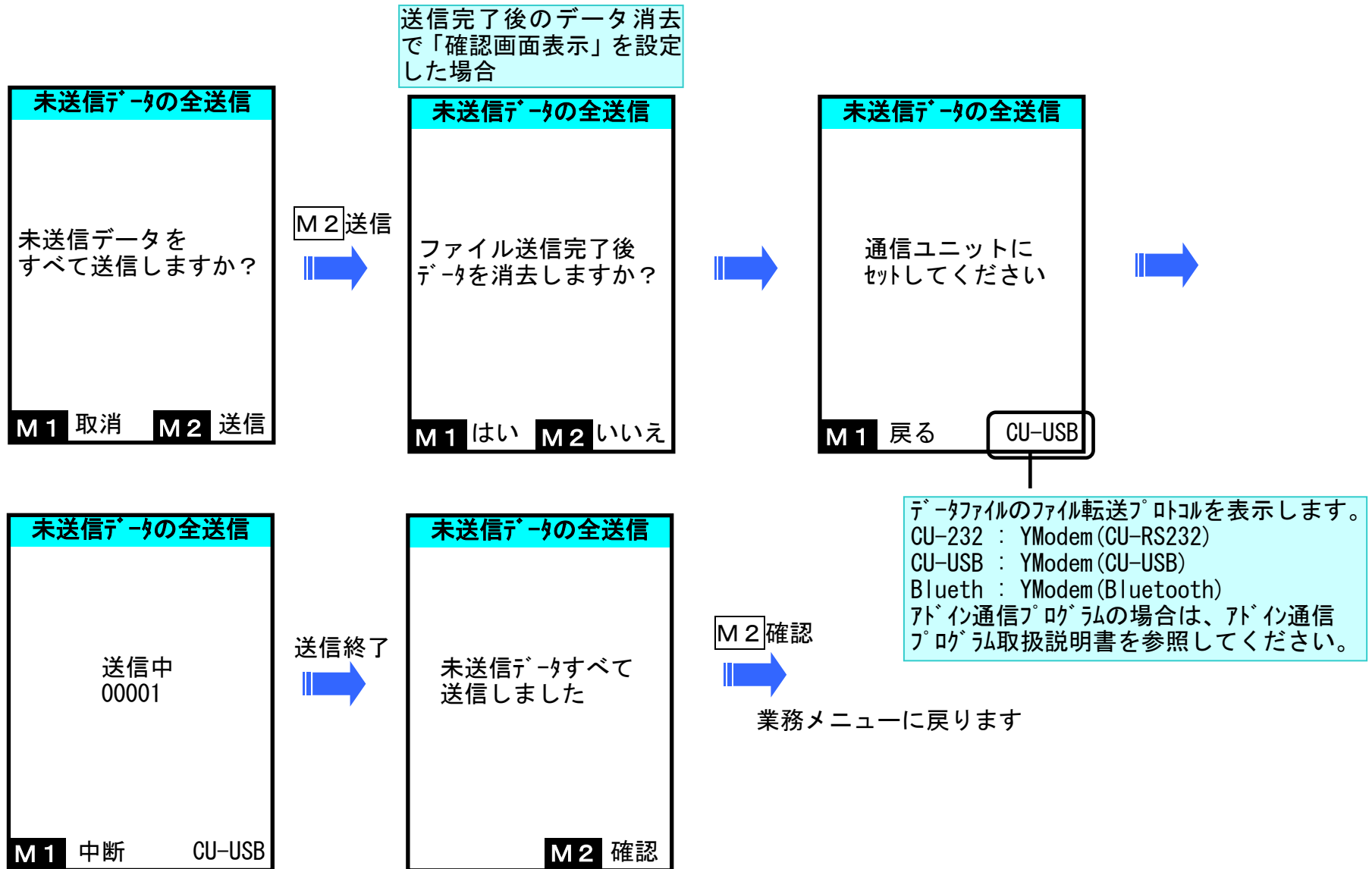
6) 業務データ送信

業務メニューにおいて送信するデータの業務を選択して、**[SCAN]**キーを押すと保存データを送信します。



7) 未送信データの全送信

業務メニューにおいて **SF** + **SCAN** キーを押すと未送信データを全部送信します。



5) 業務データ消去

業務メニューにおいて **BS/C** キーを押すと業務メニューで選択されている業務の保存データを消去します。

AAAAAAAA

データ消去

未送信データです

消去してもいいですか？

M1 取消

M2 消去

M2 消去



AAAAAAAA

データ消去

データ消去を
終了しました

M2 確認

M2 確認

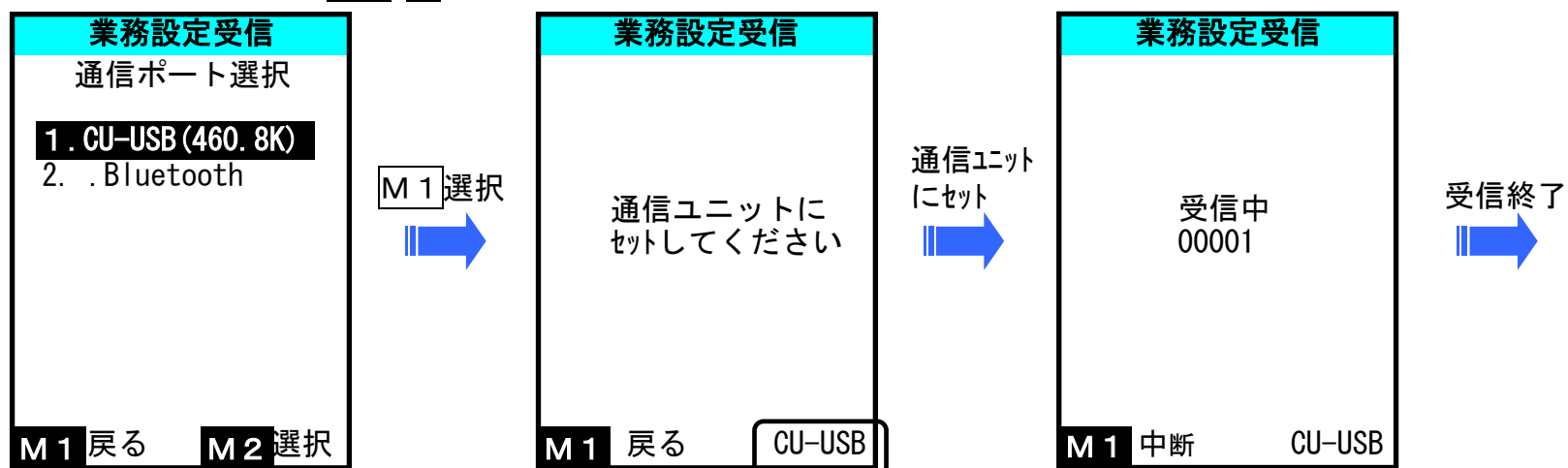


業務メニューに
戻ります

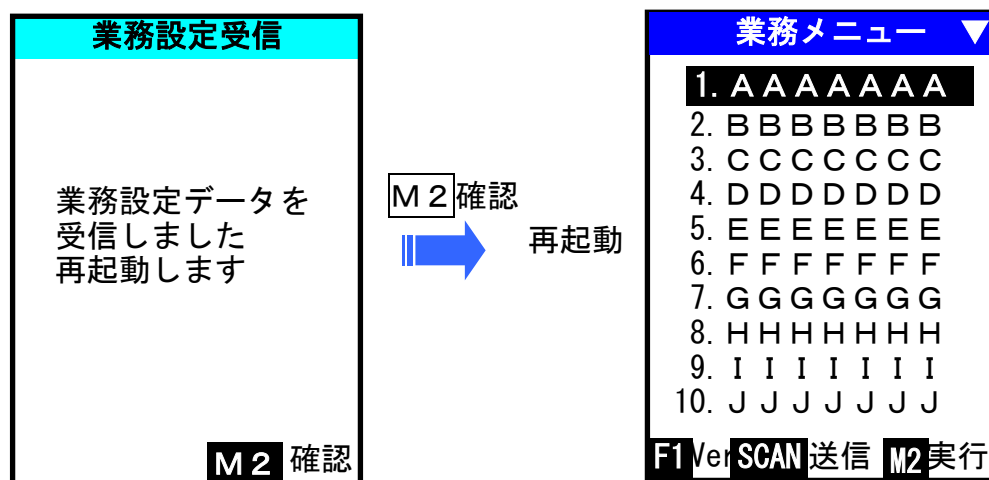
AAAAAAAA : 業務名を表示します。

6) 業務設定受信

業務メニューにおいて **S F** + **□** キーを押すと業務設定受信を開始します。



選択した通信ポートを表示します。
Bluetooth を選択すると「Blueth」と表示します。



3-7 データ収集モード

業務設定において設定した内容に従って、グループ項目、データ項目のデータを入力してデータ収集します。

3-7-1 データ入力処理

1) グループ項目データ入力

グループ項目の入力画面は、基本的に下図の画面表示になり、設定によりデータ入力操作と表示が変わります。

*****>入力	業務名
担当者	
99999999	
処理日	項目名
2006/10/01	
区分	
999999	入力データ
M1 戻る M2 次へ	

***** : 業務名を表示
BS/C (1秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C (1秒未満押下) : カーソル表示の左の1文字を削除
M1 : 前のグループ項目に移動
(最初のグループ項目の場合は処理メニューに戻ります)
M2 : 入力を確定して設定した項目に移動
(最後のグループ項目の場合はデータ項目に移動)
ENT : 入力を確定して設定した項目に移動
(最後のグループ項目の場合はデータ項目に移動)

2) データ項目データ入力

データ項目の入力画面は、基本的に下図の画面表示になり、設定によりデータ入力操作と表示が変わります。

*****>入力	業務名
商品コード	項目名
99999999999999	
数量	
999,999	入力データ
登録件数 999999	
M1 戻る F1 参照 F4 終了	設定グループの登録データ件数

***** : 業務名を表示
BS/C (1秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C (1秒未満押下) : カーソル表示の左の1文字を削除
M1 : グループ項目の最後に戻ります
M2 : 入力を確定して設定した項目に移動
F1 : 登録済データ参照
F4 : データ入力を終了してグループ項目の最初に戻ります。
ENT : 入力を確定して設定した項目に移動
(最後のデータ入力項目の場合はデータを確定して登録)

3) 登録済データ参照

データ項目入力画面において **F1** を押すと、登録済データがある場合に表示します。

*****>参照

商品コード	4910118611066
数量	1,000

1 / 100

M1 戻る F2 変更 F3 削除 ⇄

参照表示

* * * * * : 業務名を表示

M 1 : データ項目入力画面に戻ります。

F2 : 表示データの変更 (保存データ修正機能を設定した場合に表示)

F 3 : 表示データの削除（保存データ修正機能を設定した場合に表示）

◀ : 前のデータに移動 ▶ : 次のデータに移動

S F+ ◀ : 最初のデータに移動 **S F+** ▶ : 最後のデータに移動

登録テ-タ No/登録テ-タ件数

データの削除と変更については、次の「3-7-3 データ訂正処理」を参照してください

4) 各データ形式の入力操作

① 文字列

最大入力桁数が1～180桁の英数字のキー／バーコード入力です。最大入力桁数181～3500桁を指定したバーコード入力のみになります。2次元バーコードの場合は、かな漢字入力もできます。

最大入力桁数 20 以下の場合

在庫管理>入力

文字列入力

A B C D E F G H I J K L M

登録件数 0

M 1 戻り F1 参照 F4 終了

最大入力桁数 21 以上の場合

在庫管理>入力

文字列入力
A B C D E F G H I J K L M
.....
.....
.....
.....
.....

登録件数 0

M1戻りF1参照F4終了

横倍表示の場合

在庫管理>入力

文字列入力

A B C D E F G H I J
K L M

登録件数 0

M1 戻る F1 参照 F4 終了

BS/C (1 秒以上押下) : 入力データクリア

BS/C (1 秒未満押下) : カーソル表示の左の 1 文字を削除

ENT : 入力データの確定

S F : 数字／英字入力切換 (数字入力の場合は英字入力に、英字入力の場合は数字入力になります)

最大入力桁が 7 2 桁以下の場合

◀ : 入力済文字列内のカーソルを左に移動

▶ : 入力済文字列内のカーソルを右に移動

最大入力桁が 7 3 桁以上の場合

◀, ▶ で表示をスクロール可能になります。

・数字／英字入力の切換と英字入力方法

在庫管理>入力

文字列入力

登録件数 0

M 1 戻る F1 参照 F4 終了

S F

S F

在庫管理>入力

文字列入力

登録件数 0

M 1 戻る F1 参照 F4 終了

ALP を表示すると英字入力可能になります。

数字キーの同じキーを押下する毎に、数字キーの上部に表記してある英字を順番に表示します。

ENT で確定するか、別の数字キーを押して確定してください。

例) B H T を入力する場合

7 7 9 9 1 1 **ENT** の順番にキーを押します。

② 数字（0 詰め表示）

最大桁数が1～90桁の数字のみのキー／バコード入力です。入力したデータは、先頭に0詰めして右詰めに表示します。保存データは、先頭に0を詰め最大桁数に桁合わせして保存します。

最大入力桁数 20 以下の場合

在庫管理>入力

数字(0 詰め)入力

0000000123

登録件数 0

M1 戻り F1 参照 F4 終了

最大入力桁数 21 以上の場合

在庫管理>入力

数字(0 詰め) 入力

00000000

00000000000000000000123

登録件数 0

M1 戻り F1 参照 F4 終了

横倍表示の場合

在庫管理>入力
数字(0 詰め) 入力
0 0
0 0 0 0 0 0 0 1 2 **3**
登録件数 0
M1 戻る F1 参照 F4 終了

BS/C (1 秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C (1 秒未満押下) : カーソル表示の左の 1 文字を削除
ENT : 入力データの確定

バーコードにNW7、CODE 39、CODE 93、CODE 128、2次元バーコードを設定した場合、読み込んだバーコードのデータに数字以外の文字を含んでいると、「**入力文字エラー**」になります。

③ 数字（0サプレス表示）

最大入力桁数が 1 ～ 9 0 桁の数字のみのキー／バコード入力です。入力したデータは、右詰めに表示されます。保存データは、先頭に 0 を詰め最大桁数に桁合わせして保存します。入力済のデータを表示する場合は、先頭の 0 を削除して右詰めに表示します。

最大入力桁数 20 以下の場合

在庫管理>入力
数字 (0 から 9)
.....123

登録件数 0

M1 戻る F1 参照 F4 終了

最大入力桁数 21 以上の場合

在庫管理>入力

数字 (0 97° レス)

.....

..... 12

登録件数 0

M1 戻り F1 参照 F4 終了

横倍表示の場合

在庫管理>入力

数字 (0 サブ れス)

・ ・ ・ ・ ・ 1 2 3

登録件数

M1 戻る F1 参照 F4 終了

BS/C	(1 秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C	(1 秒未満押下) : カーソル表示の左の 1 文字を削除
ENT	: 入力データの確定

バーコードにNW7、CODE 39、CODE 93、CODE 128、2次元バーコードを設定した場合、読み込んだバーコードのデータに数字以外の文字を含んでいると、「**入力文字エラー**」になります。

④ 符号なし整数

データ保存桁数が1～10桁の数字、1桁以上の最大値と最小値による入力制限の入力です。
入力したデータは、右詰めのカンマ区切りで表示します。保存データは、先頭に0を詰め保存桁数に桁合わせして保存します。

標準表示の場合

在庫管理>入力	
符号なし整数	
., ..., ..1, 234	
登録件数	0
M1	戻るF1参照F4終了

横倍表示の場合

在庫管理>入力	
符号なし整数	
. . 1, 2 3 4	
登録件数	0
M1	戻るF1参照F4終了

BS/C	(1秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C	(1秒未満押下) : カーソル表示の左の1文字を削除
ENT	: 入力データの確定

最後の項目に「符号なし整数」と「同一データの場合に数値を加算」を設定した場合、グループ項目データとこの項目までのデータが既に登録されたデータに存在した場合、登録データの数値に入力値を加算します。この場合の登録件数は増加しません。

入力後移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、**ENT** を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。初期値が設定されていて、変更しない場合は、バーコードの読み取りだけの動作になりますので、作業性が向上します。

⑤ 符号付き実数

データ保存桁数が1～12桁（符号、小数点を含む）の浮動小数点数字、1桁以上の最大値と最小値による入力制限の入力です。入力したデータは、先頭に符号、右詰めのカンマ区切りで表示します。保存データは、先頭に符号、その次に0を詰め保存桁数に桁合わせして保存します。

標準表示の場合

在庫管理>入力	
符号あり実数	
+..., .1, 234. 5	
登録件数	0
M 1	戻る F1 参照 F4 終了

横倍表示の場合

在庫管理>入力	
符号あり実数	
+ 1, 2 3 4. 5	
登録件数	0
M 1	戻る F1 参照 F4 終了

S F + . : + / - 切り替え

. : 小数点

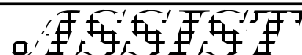
BS/C (1秒以上押下) : 入力データクリア

BS/C (1秒未満押下) : カーソル表示の左の1文字を削除

ENT : 入力データの確定

最後の項目に「符号なし整数」と「同一データの場合に数値を加算」を設定した場合、グループ項目データとこの項目までのデータが既に登録されたデータに存在した場合、登録データの数値に入力値を加算します。この場合の登録件数は増加しません。

入力後の移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、**ENT** を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。初期値が設定されていて、変更しない場合は、バーコードの読み取りだけの動作になりますので、作業性が向上します。



⑥ 金額

データ保存桁数が1～10桁の数字、1桁以上の最大値と最小値による入力制限の入力です。

入力したデータは、先頭に「¥」を付け右詰めのカンマ区切りで表示します。保存データは、先頭に0を詰め保存桁数に桁合わせして保存します。

標準表示の場合

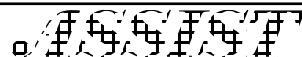
在庫管理>入力	
金額	¥. , . . . , . 1, 234
登録件数	0
M 1 戻る F1 参照 F4 終了	

横倍表示の場合

在庫管理>入力	
金額	¥ . . 1 , 2 3 4
登録件数	0
M 1 戻る F1 参照 F4 終了	

BS/C	(1 秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C	(1 秒未満押下) : 最下位の数字を削除
ENT	: 入力データの確定

入力後の移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、**ENT** を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。初期値が設定されていて、変更しない場合は、バーコードの読み取りだけの動作になりますので、作業性が向上します。



⑦ 日付

YYYY/MM/DD	西暦4桁年/2桁月/2桁日	データ保存桁数=10	横倍表示可
YY/MM/DD	西暦下2桁年/2桁月/2桁日	データ保存桁数=8	横倍表示可
MM/DD	2桁月/2桁日	データ保存桁数=5	横倍表示可

	YYYY/MM/DD	YY/MM/DD	MM/DD
標準表示	在庫管理>入力 日付 (YYYY/MM/DD) 2006/10/01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付 (YY/MM/DD) 06/10/01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付 (MM/DD) 10/01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了
横倍表示	在庫管理>入力 日付 (YYYY/MM/DD) 2007 / 01 / 01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付 (YY/MM/DD) 06 / 10 / 01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了	在庫管理>入力 日付 (MM/DD) 10 / 01 登録件数 0 M1 戻る F1 参照 F4 終了

BS/C (1 秒以上押下) :
入力データクリア

BS/C (1 秒未満押下) :
カーソル表示の左
の 1 文字を削除

ENT : 入力データの確定

入力後の移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、**ENT** を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。

⑧ 時刻

時刻のデータ形式は、HH:MMの24時間制です。初期値を設定しないとシステム自国を初期値にして表示します。

標準表示の場合

在庫管理>入力

時刻 (HH:MM)

00:01

登録件数 0

M1 戻り F1 参照 F4 終了

横倍表示の場合

在庫管理>入力

時刻 (HH:MM)

0 : 0 1

登録件数 0

M1 戻り F1 参照 F4 終了

BS/C	(1 秒以上押下) : 入力データクリア
BS/C	(1 秒未満押下) : カーソル表示の左の 1 文字を削除
ENT	: 入力データの確定

入力後移動項目がバーコード入力設定になっている場合は、**ENT** を省略して、移動項目のバーコードを読み取ることができます。

5) データ入力エラー

データ入力時に入力エラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	符号なし／符号あり数値入力と金額入力において1桁の入力もしないで入力確定した場合に発生します。
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合に発生します。
入力文字エラー	入力文字エラー	数字(0詰め表示)と数字(0サプレス表示)のデータ形式において、バーコードにCODE 39, CODE 93, CODE 128など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合に発生します。
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合に発生します。 (例: 日付のデータ形式において、月の値に20を入力した場合)
最大入力値オーバー	最大入力値オーバー	符号なし整数, 符号付き実数, 金額のデータ形式において、設定した最大入力値を超える値を入力した場合に発生します。
最小入力値エラー	最小入力値エラー	符号なし整数, 符号付き実数, 金額のデータ形式において、設定した最小入力値未満の値を入力した場合に発生します。
バーコード桁数エラー	バーコード桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
指定文字検査NG	指定文字検査NG	バーコードのデータ検査における比較データに「指定文字」を設定し、指定した文字列と比較して、読取NG条件を満足した場合に発生します。
データ振り分けエラー	データ振り分けエラー	データ振り分け処理において、バーコード読取桁数が小さく振り分けできないか、振り分けデータが振り分け先項目の入力制限外の場合に発生します。
2重データ登録拒否	2重データ登録拒否	2重データ登録拒否を設定した場合、同じグループ項目でデータ項目1のデータが既に登録されている場合に発生します。
マスターに未登録	マスターに未登録です	設定されているマスターファイルに、入力したデータが存在しない場合に発生します。

エラー	エラー表示	内容
登録データがない	登録データがない	参照画面において、検索したデーターがない場合に発生します。
前回データ保存失敗	前回データ保存失敗	入力初期値に「前回の入力」を設定し、入力初期値として入力データの保存に失敗した場合に発生します。
AIコードデータ抽出エラー	AIコードデータ抽出エラー	読み取ったバーコードデータから、設定したAIコードのデータの抽出に失敗した場合に発生します。
AICODE. TBL がない	AICODE. TBL がない	データフォーマットに「AIコード」を設定して、AIコードテーブルの「AICODE. TBL」がない場合に発生します。
指定数値検査NG	指定数値検査NG	バーコードのデータ検査における比較データに「指定数値」を設定し、指定した数値と比較して読取NG条件を満足した場合に発生します。
日付検査NG	日付検査NG	バーコードのデータ検査における比較データに「比較日付設定」を設定し、設定した日付と比較して、読取NG条件を満足した場合に発生します。
システム日付検査NG	システム日付検査NG	バーコードのデータ検査における比較データに「システム日付」を設定し、システム日付と比較して、読取NG条件を満足した場合に発生します。
指定項目データ検査NG	指定項目データ検査NG	バーコードのデータ検査における比較データに指定項目データを設定し、その項目データと比較して、読取NG条件を満足した場合に発生します。
比較データエラー	比較データエラー	比較データにエラーがある場合に発生します。
比較データAIコードエラー	比較データAIコードエラー	比較データAIコードにエラーがある場合に発生します。
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	読み取ったバーコードデータが設定したデータフォーマットと違う場合に発生します。
入力エラー	入力エラー	上記以外に入力エラー

3-7-2 データ訂正処理

業務設定の基本設定において「保存データ修正機能」を設定した場合に、未送信データと送信済データを変更／削除します。

送信済データを変更／削除する場合は、問題が発生しないように注意してください。

1) グループ項目指定

訂正するデータのグループ項目を指定します。入力操作は、データ入力処理と同じです。

*****>訂正	
担当者	00000001
処理日	2008/01/01
区分	101223
M1 戻る M2 次へ	

***** : 業務名を表示

BS/C (1秒以上押下) : 入力データクリア

BS/C (1秒未満押下) : カーソル表示の左の1文字を削除

M1 : 前のグループ項目に移動
(最初のグループ項目の場合は処理メニューに移動)

M2 : 入力を確定して設定した入力項目に移動
(最後のグループ項目の場合は「登録データ選択画面」に移動)

ENT : 入力を確定して設定した入力項目に移動
(最後のグループ項目の場合は「登録データ選択画面」に移動)

2) 訂正データ選択

削除／変更するデータを選択します。

*****>訂正	
商品コード	2060451680006
数量	1,000
1/100	
M1 戻る F2 変更 F3 削除⇄	

***** : 業務名を表示

M1 : グループ項目指定に戻ります

F2 : 表示データの変更

F3 : 表示データの削除

◀ : 前のデータに移動

▶ : 次のデータに移動

SF+◀ : 最初のデータに移動

SF+▶ : 最後のデータに移動

登録データ No/登録データ件数

3) データ変更

「訂正データ選択」画面において、**F 2** を押して登録データの変更処理をします。

*****>変更

商品コード 2060451680006

数量 1,000

1/100

M 1 戻る ▼



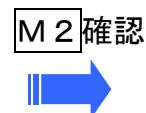
*****>変更

商品コード 2060451680006

数量 ..1,000

1/100

M 1 戻る M 2 確定 ▲



*****>変更

データを変更してもいいですか？

M 1 取消 M 2 変更



M 1 : 変更を取消して、「訂正データ選択」画面へ

M 2 : 次の項目に移動（最後の項目の場合は、「変更確認画面」へ）

▲ : 前の項目に移動 ▼ : 次の項目に移動

ENT : データを確定して次の項目に移動（最後の項目の場合は、「変更確認画面」へ）

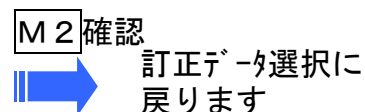
M 1 : 変更を取り消して、「訂正データ選択」画面へ

M 2 : 変更したデータを保存して「データ変更終了」画面へ

*****>変更

データ変更を
終了しました

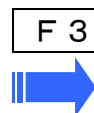
M 2 確認



4) データ削除

「訂正データ選択」画面において、**F 2** を押して登録データの削除処理をします。

*****>訂正	
商品コード	2060451680006
数量	1,000
1/100	
M1 戻る F2 変更 F3 削除 ⇄	



*****>削除	
データを削除してもいいですか？	
M1 取消	M2 削除



*****>削除	
データ削除を 終了しました	
M2 確認	



訂正データ選択に
戻ります

- M1 : データ削除を取り消して、
「訂正データ選択」画面へ
- M2 : データを削除して、
「データ削除終了」画面へ

3-7-3 比較日付設定

バーコードデータチェックの比較データに「比較日付設定」を設定した場合、この画面で設定する日付と比較します。

比較日付設定

比較日付
.. / .. / ..

M1 戻る **M2** 設定

- BS/C** (1 秒以上押下) : 入力データクリア
- BS/C** (1 秒未満押下) : カーソル表示の左の 1 文字を削除
- M1** : 入力を取り消して処理メニューに戻る
- M2** : 入力を設定して処理メニューに戻る
- ENT** : 入力を設定して処理メニューに戻る

3-8 商品コード+数量収集モード

この動作モードは、データ収集モードのデータ項目を商品コードと数量に特化したものです。

- ① データ項目は2項目、データ形式は固定になり、変更できません。

データ項目	データ形式（固定）
商品コード（第 1 データ項目）	文字列
数量（第 2 データ項目）	符号付き実数

- ② 「合計数量表示」を設定すると、入力中のグループにおける数量の合計を表示します。

表示範圍：-9999999999 ~ +9999999999

データ入力画面

*****>入力

商品コード 4910118611066

数量 1,000

合計 10,000

登録件数 100

M1 戻る F1 参照 F4 終了

データ参照画面

*****>参照

商品コード 4910118611066

数量 1,000

合計 10,000

1/100

M1戻る F2変更 F3削除↔

データ変更画面

*****>変更

商品コード

4910118611066

数量

1,000

合計 9,999,999,999

1/100

M1 戻る

3-9 未送信データの全送信モード

業務メニューにおいて「未送信データの全送信」モード設定の業務名を選択して、**M2**（実行）を押すと、未送信データのファイルを全部送信します。

業務メニュー ▼

1. 未送信データ送信
2. BBBBBBBB
3. CCCCCCCC
4. DDDDDDDD
5. EEEEEEEE
6. FFFFFFFF
7. GGGGGGGG
8. HHHHHHHH
9. IIIIIIII
10. JJJJJJJJ

F1 Ver **SCAN** 送信 **M2** 実行

M2 実行

未送信データ送信

未送信データをすべて送信しますか？

M1 取消 **M2** 送信

M2 送信

送信完了後のデータ消去で「確認画面表示」を設定した場合

未送信データ送信

ファイル送信完了後データを消去しますか？

M1 はい **M2** いいえ



正常終了した場合の画面

未送信データ送信

通信ユニットにセットしてください

M1 戻る CU-USB



未送信データ送信

送信中
00001

M1 中断 CU-USB

送信終了

未送信データ送信

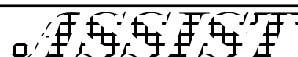
未送信データすべて送信しました

M2 確認

M2 確認
業務メニューに戻ります

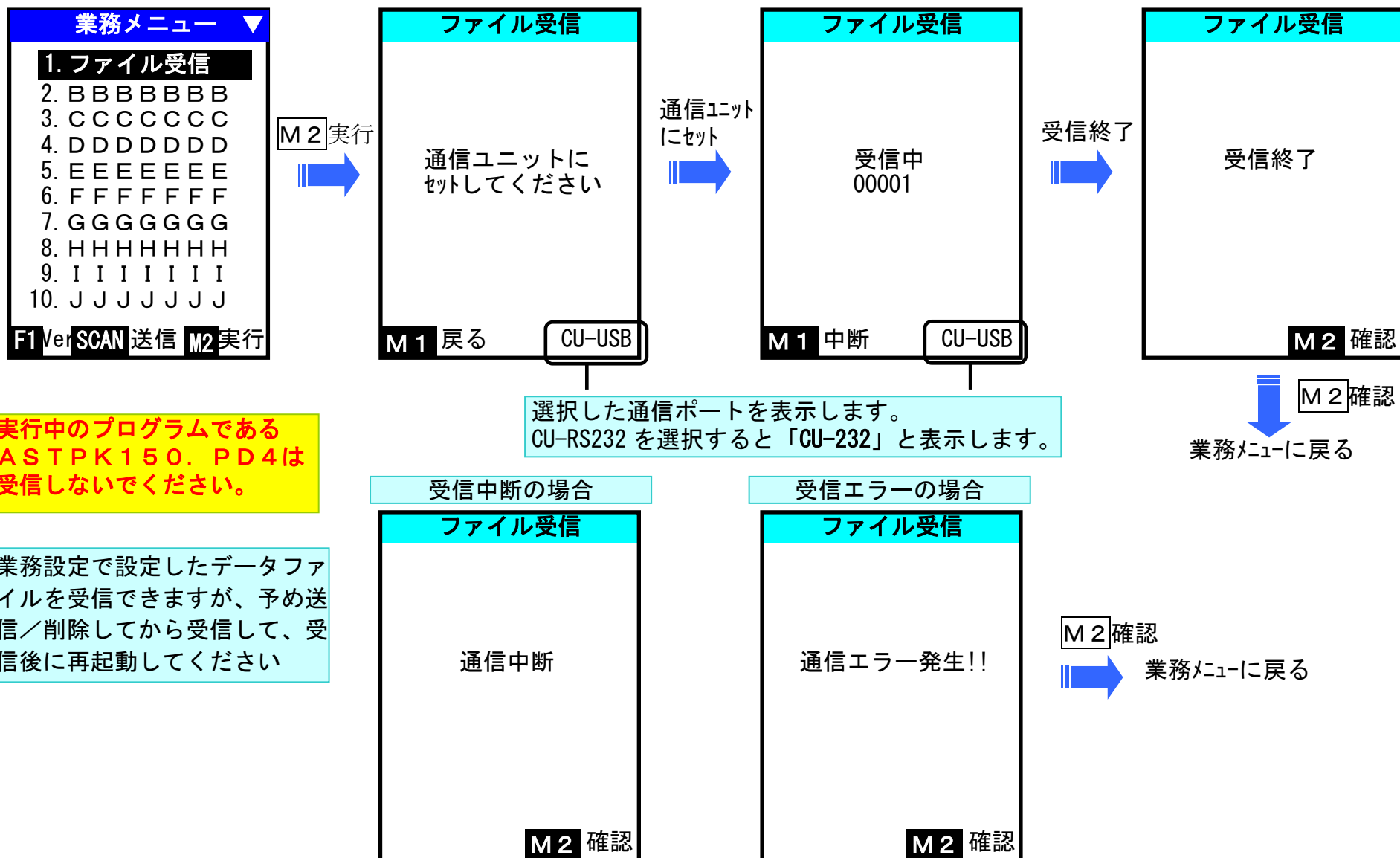


中断またはエラー発生



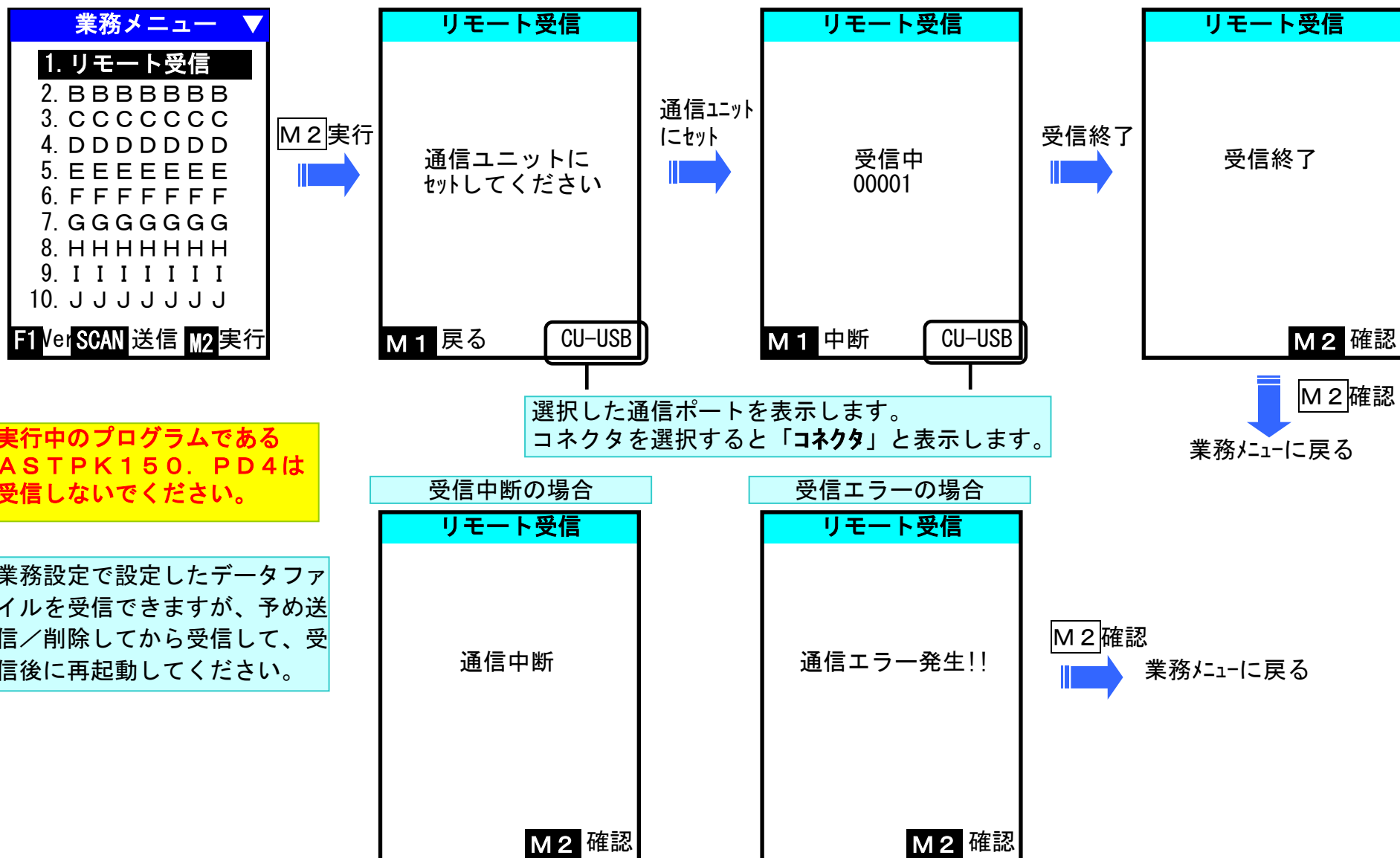
3-10 ファイル受信モード

業務メニューにおいて「ファイル受信」モード設定の業務名を選択して、**M2**（実行）を押すと、設定したファイルを受信します。受信ファイル名を設定しない場合は、送られてきたファイルを受信します。



3-1-1 リモート受信モード

業務メニューにおいて「リモート受信」モード設定の業務名を選択して、**M2**（実行）を押すと、「B h t Y m C o m . e x e 通信プログラム」で設定したファイルをリモート受信します。



3-12 バーコード情報表示モード

業務メニューにおいて「バーコード情報表示」モード設定の業務名を選択して、**M2**（実行）を押すと、次の動作をします。

バーコード読取設定とマスター参照設定に従って、バーコードを読み取ってバーコードデータとマスター参照データを表示します。
マスター参照を設定した場合は、実行時にマスターファイルが無いとマスターファイルの受信画面になります。

業務メニュー ▼

1. 売価チェック

2. B B B B B B B B

3. C C C C C C C C

4. D D D D D D D D

5. E E E E E E E E

6. F F F F F F F F

7. G G G G G G G G

8. H H H H H H H H

9. I I I I I I I I

10. J J J J J J J J

F1 Ver **SCAN** 送信 **M2** 実行

マスター参照設定で
マスターファイルがない
場合

M 2 実行



M 2 確認



M 2 実行



売価チェック

MASTER. DAT マスター
ファイルがありません
ダウンロードして
ください

M 2 確認

バーコードのデータとマスター参照
による参照データを表示します

比較日付設定

比較日付

．．／．．／．．

M1 戻る M2 設定

M 2 設定



売価チェック

商品コード
.....

商品名
.....

売価
¥ . . . , . . .

M1 戻る

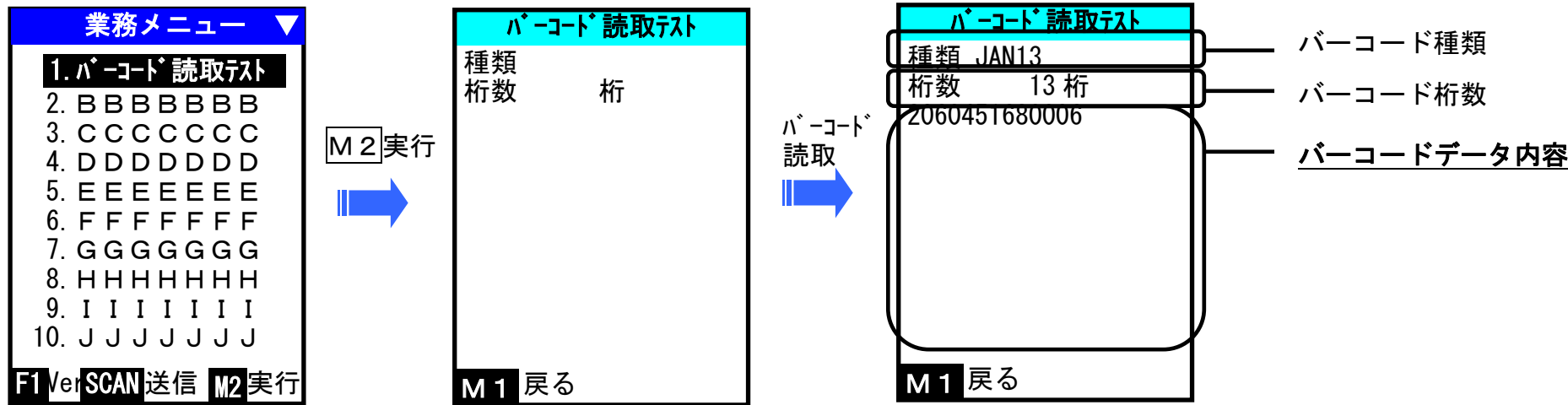
ハート
読取



<div> <div>売価チェック</div> <div>商品コード</div> <div>2060451680006</div> <div>商品名</div> <div>アシストバック Pro BHT-1500</div> <div>売価</div> <div>¥ 6 3 , 0 0 0</div> <div> <div>M 1</div> <div>戻る</div> </div> </div>	
--	--

3-13 バーコード読取テストモード

業務メニューにおいて「バーコード読取テスト」モード設定の業務名を選択して、**M2**（実行）を押すと、各種バーコードを読み取り、バーコードの種類、桁数、データ内容を表示します。

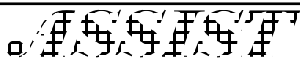


180桁を超えるバーコードデータを読み込んだ場合は、▲と▼で表示をスクロールできます。

M1 : 業務メニューに戻ります

バーコード種類の表示

バーコード種類	JANコード 13桁	JANコード 8桁	UPC-A	UPC-E	スタンダード 2of5	インターリーブド 2of5
表示文字列	JAN13	JAN8	JAN13	UPCE	STF	ITF
バーコード種類	Code 39	Code 93	Code 128	Codabar (NW-7)	GS1-128	GS1 DataBar
表示文字列	CODE39	CODE93	CODE128	NW7	CODE128	GS1 DataBa



3-14 サブメニュー

各種設定と業務設定データの更新／送信，ファイルの受信／管理等のメニューです。業務設定の「サブメニュー動作」をチェックすると、業務メニュー画面の **F2** キーに「サブメニュー」を割り当てます。

サブメニュー	
1. システム情報表示	
2. 日付時刻設定	
3. HtNo 設定	
4. Bluetooth 設定	
5. 業務設定受信	
6. 業務設定送信	
7. バーコード読取テスト	
8. 全データ消去	
9. ファイル受信	
10. リモート受信	
M1 戻る	M2 実行

▲	:	上を選択
▼	:	下を選択
M2 , ENT	:	反転表示の項目を実行
1 ~ 9	:	1 ~ 9 の項目を選択
0	:	10 の項目を選択
M1	:	業務メニューに戻ります
M1 1 秒以上押下	:	「ブザー音量, バイブレータ, 画面の明るさおよび省電力」の設定画面を表示

3-14-1 システム情報表示

ハンディターミナルのシステム情報表示とシステムプログラムのバージョンアップをします。

システム情報表示	
機種名 BHT15BB	標準 Bluetooth
アシストバックバージョン Ver1.00	BHT13B BHT13BB
システムプログラム B:B13QWBDB.FN3 Ver1.00	アシストバックHTプログラムのバージョン
メモリ(フラッシュROM) 32MB	システムプログラム名とそのバージョン
	メモリ容量

M2 システムプログラム
バージョンアップ
M1 戻る

M2 : システムプログラムのバージョンアップ
M1 : サブメニューに戻ります



3-14-2 日付時刻設定

システムの日付と時刻を設定をします。

サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード 読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行

M2実行

日付時刻設定

2006 年
10 月
1 日
0 時
0 分

M1 戻る M2 設定

- ▲ : 前の項目へ移動
▼ : 次の項目へ移動
ENT : 次の項目へ移動
(最後の項目の場合は設定してサブメニューに戻ります)
M2 : 入力したデータを設定してサブメニューに戻ります
M1 : サブメニューに戻ります

3-14-3 H t N o 設定


ハンディターミナルを識別するための4桁のH t N oを設定します。

サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
- 3. HtNo 設定**
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード 読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
10. リモート受信

M1 戻る **M2** 実行

M2実行



HtNo 設定

H t N o . . . 1

M1 戻る M2 設定

- M2, ENT : 入力したデータを設定して
サブメニューに戻ります
- M1 : サブメニューに戻ります

3-14-4 Bluetooth設定

Bluetooth 搭載の BHT-1500BB における Bluetooth デバイスの通信環境を設定します。
Bluetooth を搭載していない BHT-1500B では動作しません。

サブメニュー	
1. システム情報表示	
2. 日付時刻設定	
3. HtNo 設定	
4. Bluetooth 設定	
5. 業務設定受信	
6. 業務設定送信	
7. バーコード読取テスト	
8. 全データ消去	
9. ファイル受信	
10. リモート受信	
M1 戻る	M2 実行



Bluetooth 設定	
デバイス名	BHT-1500.....
動作モード	マスタ スレーブ
接続先アドレス
接続タイムアウト(秒)	5
セキュリティ	なし サービス リンク
パスキー	0000000000000000
M1 戻る	F1 BT 情報 M2 設定

▲	: 前の項目へ移動
▼	: 次の項目へ移動
ENT	: データを確定して次の項目へ移動
M2	: 入力したデータを設定してサブメニューに戻ります
M1	: サブメニューに戻ります

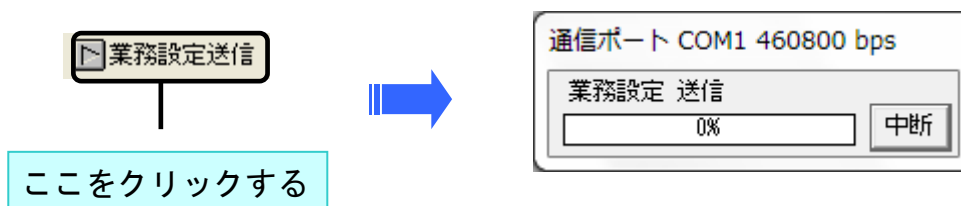
マスタとスレーブについて
接続要求をする側の機器をマスタ、接続要求を受け取って応答を返す機器をスレーブと呼びます。
BHT-1500 から接続要求する場合は、「マスタ」を設定してください。
この場合、接続相手は「スレーブ」になります。
接続相手が「マスタ」の場合は、「スレーブ」に設定しないと通信できません。

設定項目	説明
デバイス名	Bluetooth のデバイス名を半角英数字最大 16 文字で設定してください。
動作モード	マスタ／スレーブを選択します。
データ転送先アドレス	動作モードを「マスタ」に選択した場合、データ転送先の Bluetooth アドレスを設定してください。(半角 12 文字)
接続タイムアウト	接続時のタイムアウト時間を 1～255 秒に設定してください。
セキュリティ	「なし」, 「サービス」, 「リンク」から選択して、接続相手と同じ設定にしてください。
パスキー	セキュリティに「サービス」または「リンク」を選択した場合、接続相手と同じパスキーを半角英数字 16 文字で設定してください。

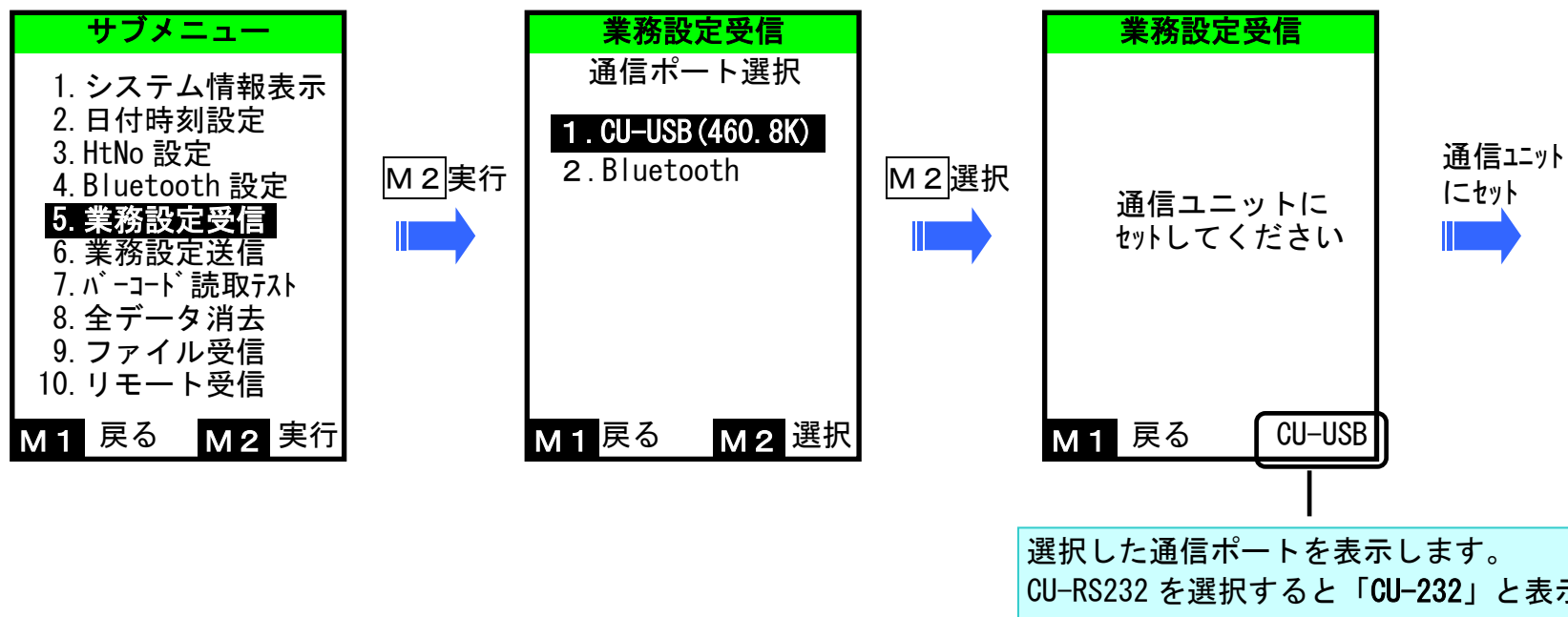
3-14-5 業務設定受信

業務設定データを受信して再起動します。

1) PCの業務設定データ編集画面において「業務設定送信」をクリックします。



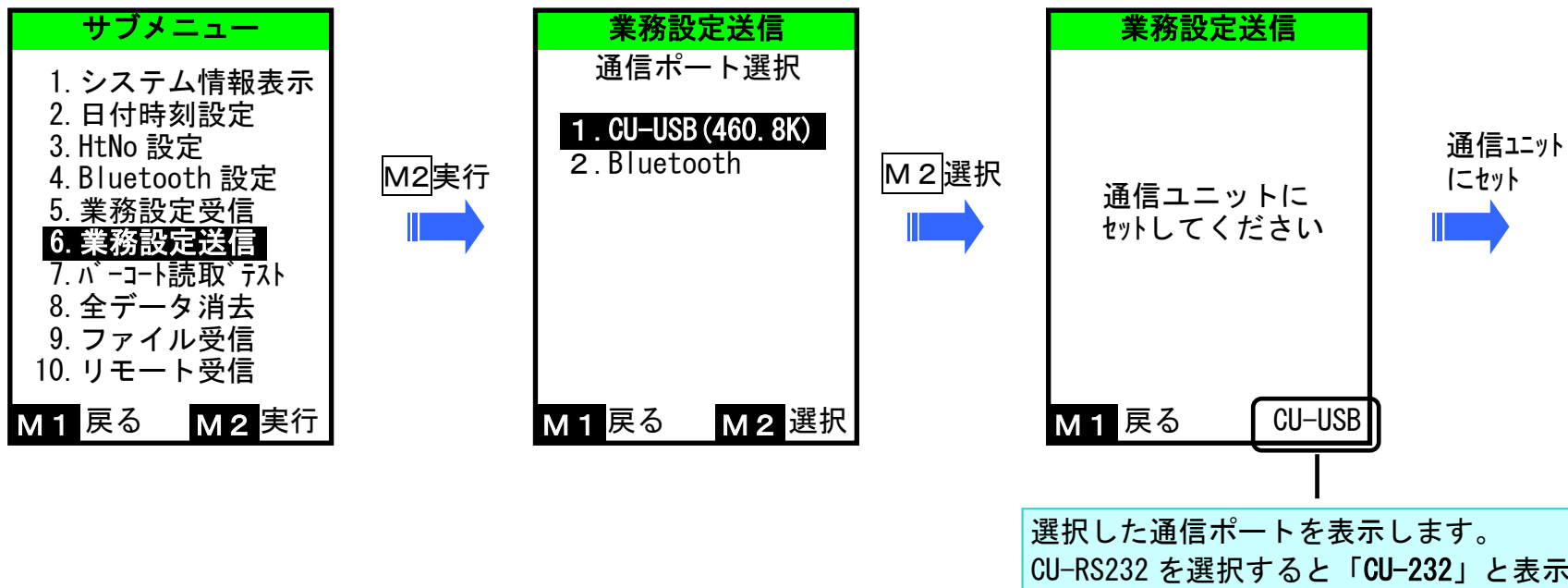
2) ハンディターミナルの「5. 業務設定受信」を実行します。



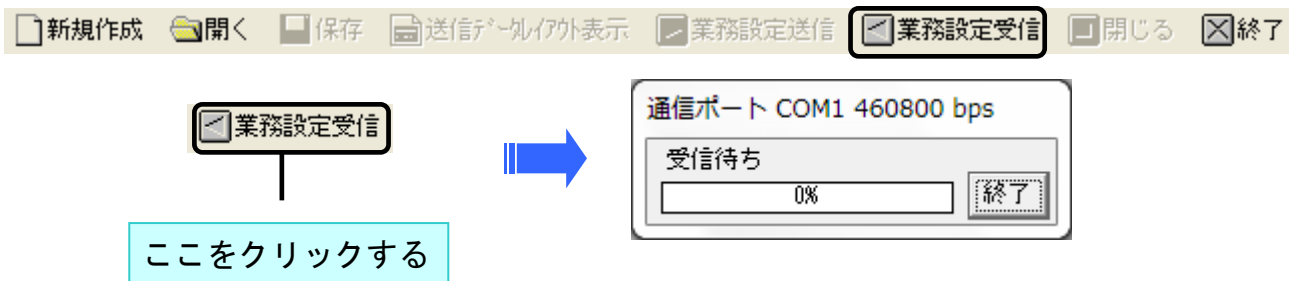
3-14-6 業務設定送信

現在の業務設定の内容を確認または変更するために、業務設定データをP Cに送信します。

1) ハンディターミナルの「6. 業務設定送信」を実行します。

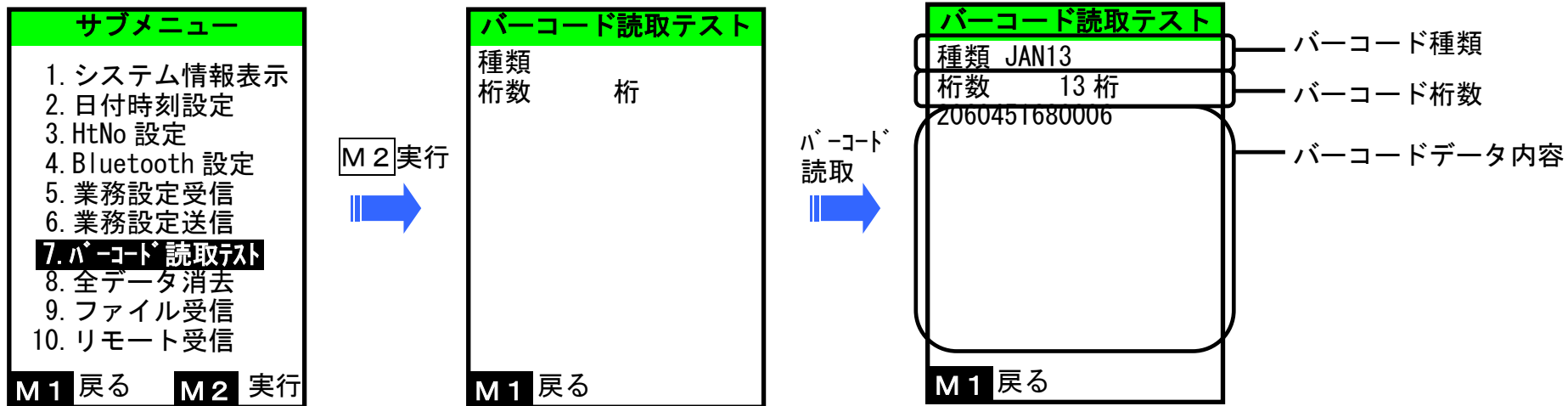


2) PCの業務設定画面において「業務設定受信」をクリックします。



3-14-7 バーコード読取テスト

各種バーコードを読み取り、バーコードの種類、桁数、データ内容を表示します。



180桁を超えるバーコードデータを読み込んだ場合は、▲と▼で表示をスクロールできます。

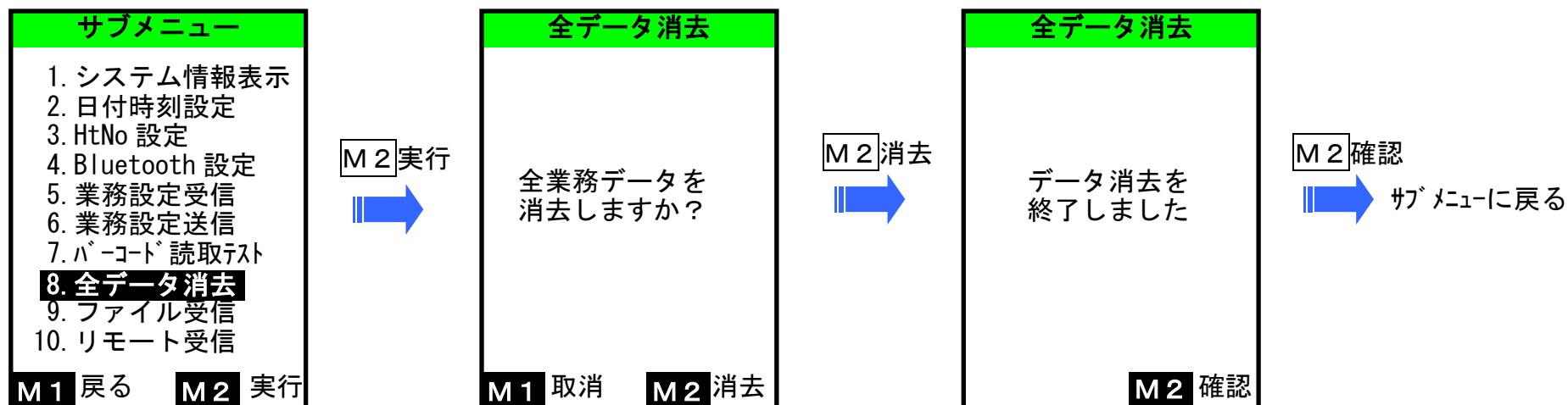
M 1 : サブメニューに戻ります

バーコード種類の表示

バーコード種類	JANコード 13桁	JANコード 8桁	UPC-A	UPC-E	スタンダード 2of5	インターリーブド 2of5
表示文字列	JAN13	JAN8	JAN13	UPCE	STF	ITF
バーコード種類	Code 39	Code 93	Code 128	Codabar (NW-7)	GS1-128	GS1 DataBa
表示文字列	CODE39	CODE93	CODE128	NW7	CODE128	GS1 DataBa

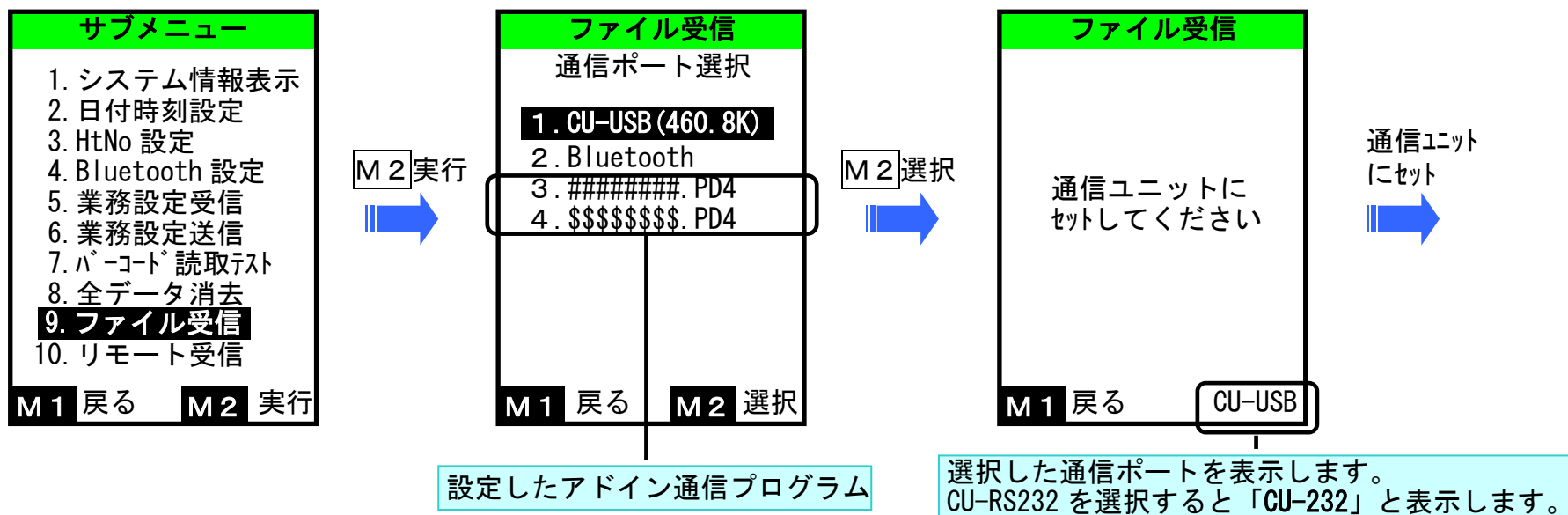
3-14-8 全データ消去

全業務のデータファイルを消去します。



3-14-9 ファイル受信

マスターファイルやプログラムファイルを受信します。





受信終了



M2 確認



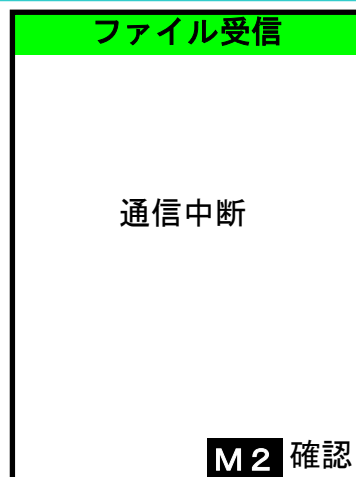
サブメニューに戻る

実行中のプログラムである
ASTPK150. PD4は
受信しないでください。

業務設定で設定したデータファイルを受
信できますが、予め送信／削除してから
受信して、受信後に再起動してください

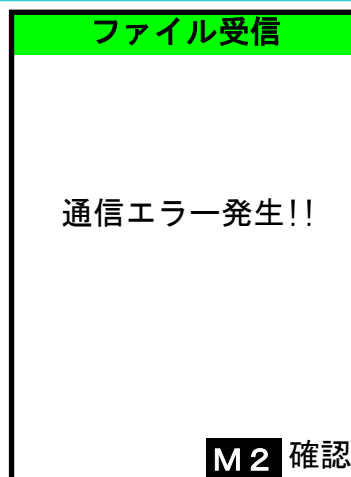
* ファイル受信時のエラー発生

受信中断の場合



中断キーを押した場合と相手側
から強制中断された場合に表示
します。

受信エラーの場合



通信エラーが発生した場合に表
示します。

M2 確認



サブメニューに戻る

3-14-10 リモート受信

「BhtYmCom. exe 通信プログラム」で設定したファイルをリモート受信します。

サブメニュー

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
9. ファイル受信
- 10. リモート受信**

M1 戻る **M2** 実行

M2 実行



リモート受信

受信ファイル
.....

M1 戻る **M2** 確定

M2 確定



リモート受信

通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth
3. #####. PD4
4. \$\$\$\$\$\$. PD4

M1 戻る **M2** 選択

M2 選択



実行中のプログラムである
ASTPK150. PD4は
受信しないでください。

業務設定で設定したデータファイルを受
信できますが、予め送信／削除してから
受信して、受信後に再起動してください

設定したアドイン通信プログラム

リモート受信

通信ユニットに
セットしてください

M1 戻る CU-USB

通信ユニット
にセット



リモート受信

受信中
00001

M1 中断 CU-USB

受信終了



リモート受信

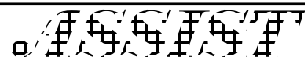
受信終了

M2 確認

M2 確認



サブメニューに戻る



* ファイル受信時のエラー発生

受信中断の場合

リモート受信

通信中断

M2 確認

中断キーを押した場合と相手側から強制中断された場合に表示します。

受信エラーの場合

リモート受信

通信エラー発生!!

M2 確認

通信エラーが発生した場合に表示します。

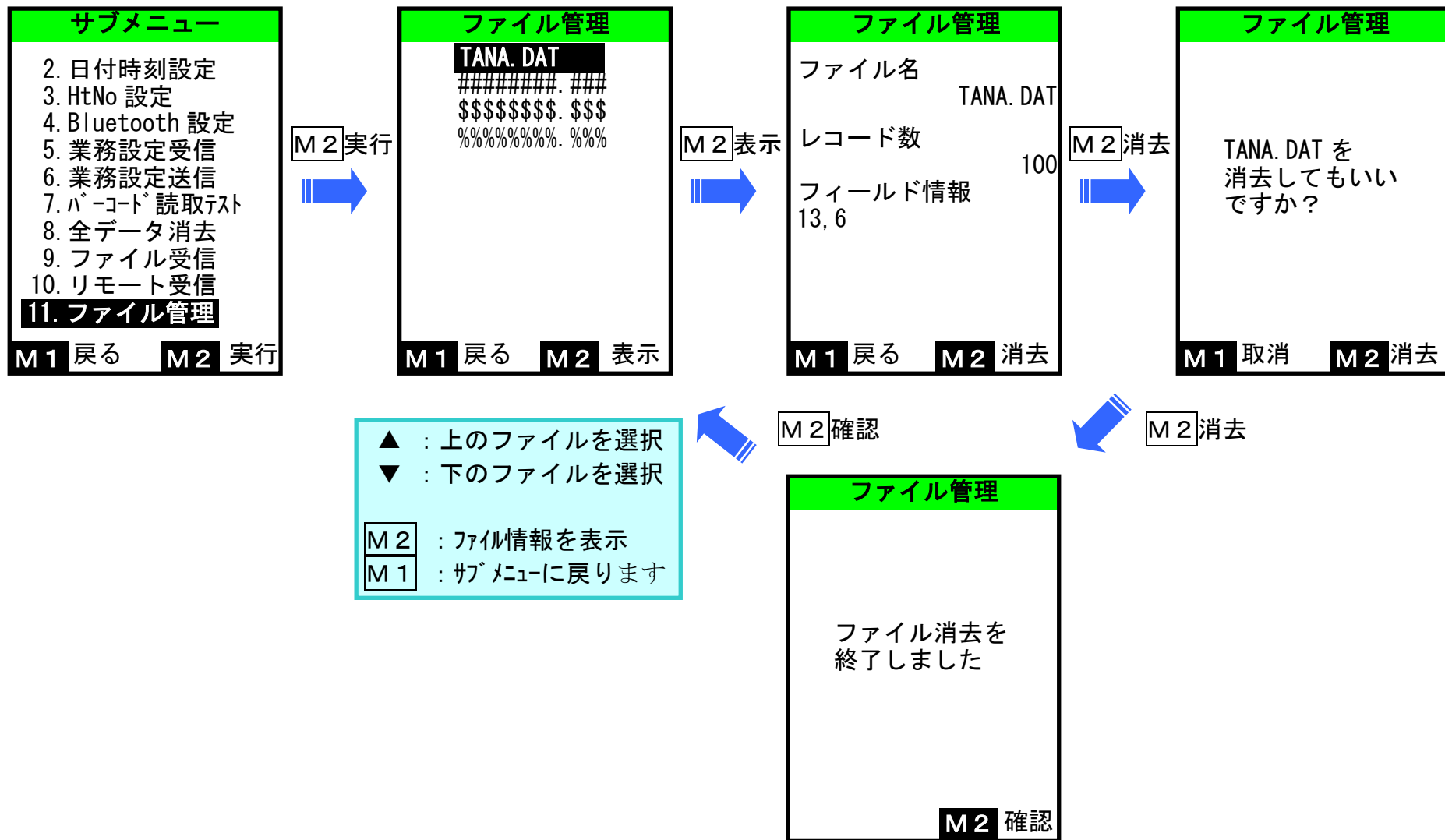
M 2 確認



サブメニューに戻る

3-14-11 ファイル管理

保存ファイルのファイル名リストを表示し、その中から選択したファイルのレコード数とフィールド情報を表示します。選択したファイルを消去することもできます。



3-15 ブザー音量、バイブレータ、画面の明るさおよび省電力設定

M1 キーを3秒以上押すと設定画面を表示します。

スピーカー音量

2

バイブレータ

ONOFF

明るさ(通常)

4

明るさ(省電力)

1

省電力

5s

スピーカー音量	業務設定において、ブザー周波数に0、1、2を設定した場合のみ、ブザー音量を0～3の4段階で調整できます。
バイブレータ	バイブレータのON/OFFを設定します。
明るさ(通常)	液晶画面のバックライトの明るさを1～5の5段階で調整できます。
明るさ(省電力)	省電力時の液晶画面のバックライトの明るさを0～5の6段階で調整できます。
省電力	省電力のために未使用時の液晶画面のバックライトを暗くするまでの時間を1～30秒、1秒単位で設定します。

▲

：上の設定を選択

▼

：下の設定を選択

◀

：左を選択または設定を小さくします

▶

：右を選択または設定を大きくします

M1

（3秒以上押下）：前の画面に戻ります。

BS/C

（1秒以上押下）：前の画面に戻ります。

ENT

，

M2

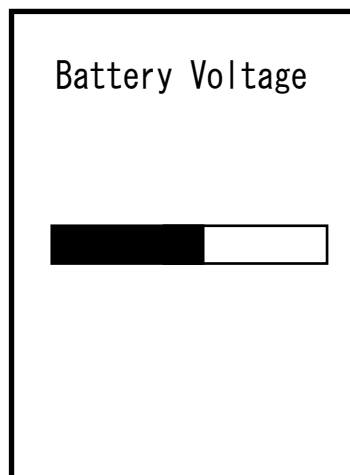
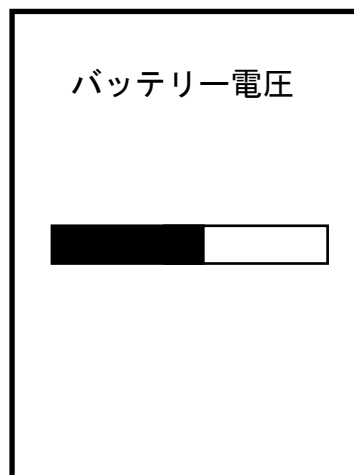
：前の画面に戻ります。

3-16 バッテリー

所定時間充電しても消耗が早くなった場合は、新品に交換してください。

3-16-1 バッテリー電圧表示

「サブメニュー」画面において、**SF**+**ENT**を押している間、「バッテリー電圧」画面を表示します。

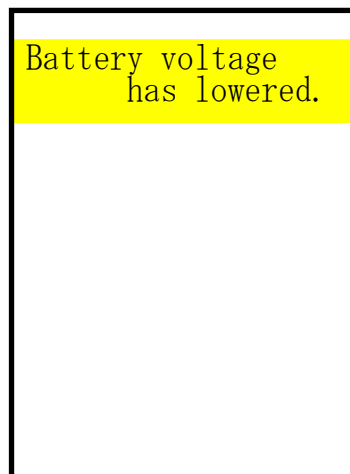
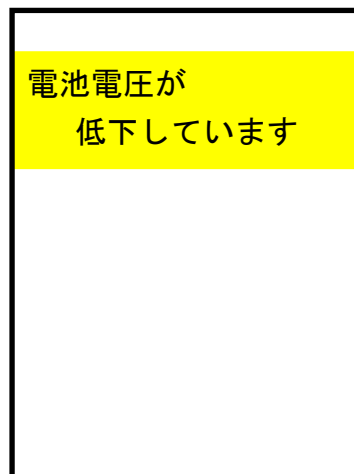


電池残量について

- ・バッテリー電圧は、電池の残量を正確に表示するものではありません。あくまでも目安にしてください。
- ・バッテリー電圧表示は、BHTの動作によって変動しますので、実際のバッテリー電圧と表示の間に誤差が発生することがあります。
- ・電池残量が少なくなる前に、早めに充電するようにしてください。

3-16-2 電圧低下した場合

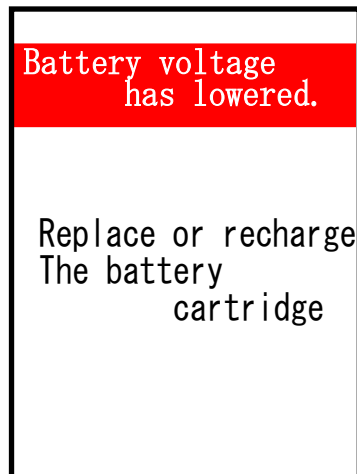
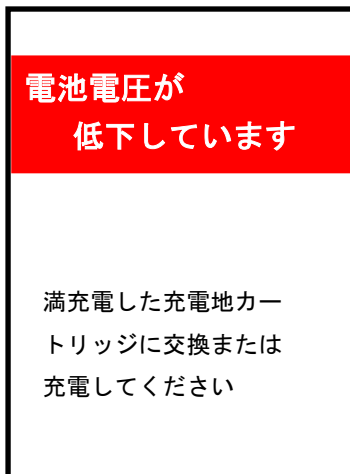
下記の画面が 2 秒間表示されてブザーが 3 回鳴ります。その後、通常の動作に戻ります。



このように場合は、電池カートリッジの充電時期が近づいています。
早めに充電してください。

3-16-3 電圧低下検出による電源オフの場合

電圧低下の画面が表示された後、電池の充電を行わず、そのまま使用すると、使用不可になり下記の画面が表示されてブザーが5回鳴り、自動的に電源がオフになります。電池の消耗度合により、ブザーが鳴らない場合もあります。




このように場合は、**充電地カートリッジ**
を交換また充電してください。

注意

充電地カートリッジ交換は、必ず電源をオフにしてから
行なってください。データの消失を避けるため、電池を取り
外し後3分以内に装着してください。

電池交換後、電源をオンして動作を確認してください。

3-16-4 充電地カートリッジを外してBHT-1500を保管する場合

BHT-1500の電源をオフするときに電源キー  を3秒以上押してください。

下記の画面が表示され、データのバックアップが開始されます。バックアップが終わって表示が消えてから充電地カートリッジ
を外してください。バックアップするデータ量によっては数十秒かかることがあります。

